

# 「八幡史学館」資料 第17シリーズ 令和4年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		令和4年度八幡公民館 主催事業一覧表			
		令和4年度八幡公民館主催事業 「八幡史学館ポスター」ほか			
		八幡公民館主催事業「八幡史学館」第17シリーズ			
1	◎	第1回講座＝いまよみがえるむかし八幡町	令和4年6月14日	山岸弘明	DVD説明
		郷土史スポット＝公民館だよりエリアものがたり33話市川石三～新たにわかった電灯の歴史			
		①いまよみがえる「むかし八幡町」～映像と写真で見る郷土史～(第17シリーズ記念企画)			
		市川家と戦時に16ミリ映画を撮影した市川得三、いまよみがえる八幡町DVD上映			
		DVDビデオ主要カット			
		②史料紹介「誉田家系図」を読む(前宮司・市川一夫、教生家)			
		誉田家系図 原本回覧、初代豊木武彦(神話時代)～60代市川邦教(明治維新＝作者)			
		1源平藤橘と誉田氏、2新姓で関白になった秀吉と源氏にこだわって将軍になった家康、3 誉田家系図は明治に市川邦教が作成			
		4神話時代の崇徳天皇から始まる、豊城入命、市川3家の成立、日本武尊、藤原武智麻呂、源頼朝伝説、足利義満の神輿寄進			
		元亀2年の兵火、徳川家康の関東入封、市川家の名乗り			
2	◎	第2回講座＝飯香岡八幡宮と八幡 ～夏越しの大祓え	令和4年7月8日	平澤牧人	
		①飯香岡八幡宮年中行事 文政2年、明治6年、現行 3時代の行事変遷			
		文政2年行事＝中紀、御田打神事、筒粥神事、陪従神事、コウレン神事、大祭…			
		②夏越しの大祓え(飯香岡八幡宮神前において体験)			

3	◎	第3回講座 = 昔の八幡の思い出③	令和4年8月2日	時田光夫	PP説明
		⑦暮らしの中で～地域社会の変化			
		⑧暮らしの伝統行事 ～未来への継承			
		⑨懐かしの学び舎 ～戦後のこどもたち			
4	◎	第4回講座 = 更級日記からみた千年前の八幡	令和4年9月14日	小関勇次	PP説明
		千年前の八幡			
		1 始めに 千年前の八幡を想像してみよう ①自然環境は、②千年前の社会情勢は、③生活の様子は、④千年前の村は			
		2 国府と国分寺、3上総国府、4更級日記からみた国府、5市原条里制遺構から千年前の暮らしを想像する			
		考古実習 大学の授業です 条里制			
		資料1縄文海進、平安海進の湿地帯の広がる海浜地域、資料2 まんが市原の歴史、資料3庶民の暮らし			
		資料4和名類聚抄で比定できた地名と千葉県郡名地図 市原郡菊間郷、山田郷、市原郷、海部郷、湿津郷、海上郡佐是郷…			
		図1歴史年表日本史、世界史の出来事、図2全国の国府と国分寺、写真1 推定国府開発以前、図4 房総の古道と駅路			
		図4発掘された古代道 = 菅原孝標の帰京ルート 図6 市原台地と推定国府、写真2市原条里遺構昭和33年、3市原条里制航空写真			
		国府推定地(変動) = 稻荷台周辺説○、古甲説○、郡本説△(国衙か)、能満説×(道それる)、市原×(狭く起伏)、村上説×(氾濫)			
5	◎	第5回講座 = 市原の出羽三山信仰	令和4年10月11日	立野 晃	
		①はじめに ②講について			
		③出羽三山講の歴史の変遷 出羽三山信仰の概要、関東地方への展開、御師と檀那場、房総への出羽三山信仰の展開			
		④出羽三山講の民俗 出羽三山登拝、定例の民俗行事、行人の死に関する民俗、梵天供養、出羽三山塔、市原市域の三山講			
		上高根の事例立野調査 = 行屋、八日講と二十日講、行、奥州参り、供養、葬式			
		ボンデンの民俗 = 奥州参りとボンデン、辻ボンデン、葬送儀式とボンデン			
		八幡の事例 = 行屋と先達、先達の登拝経歴、供養墓と供養塔、供養碑			
		⑥千葉県内で知られる特殊な関係行事、⑦出羽三山信仰への期待			

	八幡公民館主催事業「史学館関連講座」			
6		八幡町歴史散歩「八幡さまと海の町を歩く」	令和4年4月	山岸弘明
7		古事記「天孫降臨神話」を読む	令和4年4月	平澤牧人
	市原市生涯学習センター「いちほら市民大学教養講座(歴史探訪講座)」			
8		八幡町歴史散歩「八幡さまと海の町を歩く」	令和4年9月29日	山岸弘明
	歴史博物館関連「ふるさと市原をつなぐ連絡会」講座			
9		第31回講座 「いまよみがえるむかし八幡町」	令和4年7月16日	山岸弘明
	協力および八幡関係展示会その他			
10		市原歴史博物館 「アイミュージアム」オープン	令和4年11月20日開館	
11		千葉県立中央博物館秋の展示「おはまおり」	令和4年10月22日から	
13		千葉市立郷土博物館協力展示会「我、関東の将軍にならん 小弓公方足利義明と戦国の千葉氏」		
14		千葉県文書館企画展「房総教育史 明治を生きた先生たち」	令和4年10月11日から	
15		ちばテレビ「市町村てくてくさんぽ」(市原市。猫ひろし)	令和4年10月21日	
16		あいチャンネル特別番組「いまよみがえる むかし八幡宿」	令和4年8月15日	
17		千葉日報「よみがえる市原旧八幡町」	令和4年6月7日	
18		地域新聞「金杉浜塩田跡」	令和4年12月9日	
19		地域新聞「いまよみがえる八幡町作成、山岸弘明さん」	令和4年6月18日	
20		いき出版『写真が語る 市原市の100年』	令和5年2月18日	

令和4年度 八幡公民館 主催事業一覧表

☆抽選受付は、5日から11日まで。12日抽選、14日発表です。  
申し込まれた方は、14日以降申し込んだ月末までに確認をお願いします。(電話か窓口)

☆内容・期日は、変更になる場合があります。

2022/4/14 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9月5日	25	秋の親子パン作り	1	二階堂ゆうみ パン作りの基礎を親子で協力してパンを作りながら学ぶ。	9:30~13:00 小中学生と保護者・先着5組							8 土	親子でパン作りを楽しみませんか、簡単にできるパン作りを紹介します				
	26	押し花アート	1	戸島松子 季節感ある押し花を使って、インテリアグッズを作る。	9:30~11:30 成人・先着10人					押し花を使って、置いても壁にかけても素敵な額をつくれます。作品は、文化祭で展示します。		17 月					
10月5日	27	中級ヨーガ	3	森山和美 高齢者のためのヨーガ。継続してやっている方を対象に行います。ポーズが高度になります。	10:00~11:30 成人・先着16人						心と体を整える経験者対象のヨーガ教室です。難しいポーズも行います。		4 11 18 金 金 金				
	28	筆ペン教室	2	南部記代子 卒業生向けに、筆ペン文字の練習をし、アイデアを生かした自分だけの年賀状を作る。	9:30~11:30 成人・先着12人						筆ペン(中字)を用意してください。筆運びがスムーズになります。		8 22 火 火				
	29	お元気体操	3	地域包括支援センターふるさと いつでも元気で生き生きと生活していくことを目指して、日常的に取り組める体操を行う。	9:30~11:30 60歳以上・先着30人						毎日を元気に過ごせるように簡単な体操を紹介します。		14 21 28 月 月 月				
	30	コーラスに挑戦	1	岡本真知子 合唱曲のパートに分かれて、練習を兼ね見事なハーモニーに仕上げる。	9:30~11:30 成人・先着20人						姿勢や発声の基本から学べます！声楽専門の講師による指導です。		16 水				
11月5日	31	薬膳料理	1	木村みどり 身近な食材を使って手軽にできる薬膳料理の作り方を学び、健康増進を図る。	9:30~13:00 成人・先着15人						体にやさしい薬膳料理を紹介します。		29 火				
	32	アロマテラピー	1	前塚裕美 アロマの基礎を学び、オリジナルティンクルのハンドクリームやボディオイルを作る。	9:30~11:30 成人・先着10人						自分の好きな香りで、効果のあるクリームを作ります。ラッピングしてプレゼント用にもできます。			19 月			
	33	書き初め教室	2	鍋島恵美子 前の書き初め教室の課題を練習し、文字や字配りの上達を目指す。	9:30~11:30 小学3年から6年生・先着16人						千葉県課題を練習します。冬休みの宿題が仕上がります。			24 25 土 日			
12月5日	34	フラワーアレンジメント(正月)	1	松濱忍 お正月を目前にして、花をアレンジし、新年を迎える準備をする。	13:30~15:00 小学生から成人・先着28人						お正月にふさわしい花材で、簡単にアレンジします。			27 火			
	35	太巻きずし	1	北野広子・福嶋恵里 太巻き寿司の作り方を学び、郷土料理への関心を高める。	9:30~12:00 成人・先着10人						千葉県伝統の郷土料理です。切ると模様が出て感動します。			14 土			
	36	シニアスマホ教室	1	SoftBank スマートホンの基礎的な機能や操作方法を知る。	13:30~15:30 60歳以上・先着20人						スマートホンは貸し出します。便利な機能を体験してください。			19 木			
12月5日	37	大人のパン作り	1	二階堂ゆうみ パン作りの基礎を親子で協力してパンを作りながら学ぶ。初めての方でも大丈夫です。	9:30~13:00 成人・先着10人						パン作りは初めてという方でもOK簡単にできるパンを作りませんか。			24 火			
	38	房総地理歴史散歩	4	鎌田正男 房総の地形や特色をいかに、そこで生活してきた人々の歴史を学ぶ。	①②③9:30~11:30④8:30~16:30 成人・抽選30人 バス研修						今年度のテーマ「新札に取り上げられた人物3人」北里柴三郎・津田梅子・沢沢栄一			26 木	9 16 23 木 木 木		バス研
	39	冬の親子パン作り	1	二階堂ゆうみ パン作りの基礎を親子で学び、協力して季節のパンを完成させる。	9:30~13:00 小・中学生と保護者・先着5組						親子でパン作りに挑戦しませんか。失敗しないパン作りです。			28 土			
1月5日	40	初級シニア卓球	3	寺尾泰文 卓球のゲームを楽しみながら、健康増進と参加者同士の交流を持つ。	13:30~15:30 60歳以上・先着20人						寒さに負けず、体を動かして健康増進を図りましょう。			6 13 27 月 月 月			
	41	いろどり倶楽部	3	小関勇次 他 歴史や地質学を学び、バス研修で見聞を広める。	①②9:30~11:30③8:30~13:00 成人・抽選30人 バス研修						①地学講座「南房総の地層」②歴史講座「鎌倉街道」③バス研修「鎌倉街道を歩く」			25 土		4 11 土 土	地学 歴史 バス研
	42	親子で太巻きずし	1	上田悦子 親子で太巻き寿司の作り方を学び、郷土料理への関心を高める。	9:30~12:00 小・中学生と保護者・先着6組						千葉県伝統の郷土料理に親子で挑戦しませんか。切ると模様が出て感動します。お内裏様とお雛様を作ります。			19 日			
募集なし	43	福寿大学	4	菅勇榮 他 健康で生きがいのある生活を旨とし、学習を通じて仲間づくりを図る。	行事ごとに設定 市原市老人クラブ連合会市原支部		グラウンドゴルフ 24 火		安全講座 15 金						30 月		新春演芸会 バス研 1 水

令和4年度 八幡公民館 主催事業一覧表

※お申し込みは、毎月5日 朝 8時30分より窓口または電話(0436-41-1984)にて受付開始  
 ☆お申し込みは、毎月5日 朝 8時30分より窓口または電話(0436-41-1984)にて受付開始

2022/4/14 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
直接	1	おはなし広場	20	お話ボランティア	10:00 ~ 10:40 幼児と保護者・小学生・直接10人	2 16 土 土	14 土	4 18 土 土	2 16 土 土		3 17 土 土	5 19 土 土	5 19 土 土	3 17 土 土	21 土	4 18 土 土	4 18 土 土
3月5日	2	いきいき八幡塾	3	本間純乃 他 面接理解や正しい姿勢を身に付けて、八幡館前広場でウォーキングしながら夏を過ごす。	①11:30~10:00 ②9:30~11:30 ③9:00~12:00 成人・先着20人	9 19 土 土	9 21 土 土	9 21 土 土			日常に役立つ知識を身に付けませんか? ①人権講座(国際理解)②健康講座(姿勢講座)③散歩(八幡周辺)						
4月5日	3	やすらぎのヨーガ	3	森山和葉 自律神経を整えるヨーガ。初めての方から経験者まで幅広く参加できます。	10:00 ~ 11:30 成人・先着16人		6 13 20 金 金 金				心と体を整え安らぎを与えるヨーガ教室です。不眠・ストレスなどに効果的です。						
	4	フラワーアレンジメント(母の日)	1	松濱 忍 母の日のために、花をアレンジして心のこもったプレゼントを作る。	13:30 ~ 15:00 小学生から成人・先着28人		7 土				カーネーションを中心に「母の日」用に花をアレンジします。小学生から参加できます。						
	5	古事記を読む	3	平澤 敦人 古事記を読み、日本の歴史や神話に触れる。毎年のテーマは「海幸山幸」です。	13:30 ~ 15:30 成人・先着30人		9 25 月 水	9 木			「海幸山幸」をわかりやすく読み解く。						
	6	手作りウインナー	1	西野浩一 手作りウインナーの作り方を、ブログで紹介。	9:30 ~ 13:00 成人・先着16人		11 水				地元の肉屋さんから美味しいウインナーの作り方を学びます。						
	7	かわいいプラかご	4	嶋田香織 夏にぴったりの可愛らしく実用的なプラかごを作る。	13:30 ~ 15:30 成人・先着16人		12 19 26 木 木 木	2 木			夏にピッタリなプラスチックかごを作いませんか? 小さいめのサイズです						
	8	種ダンゴ	1	柳池 繁 いろいろな種を染みこめて作る。種物の個性を活かし、花を付けるのを楽しみながら作る。(種かき)	9:30 ~ 11:30 成人・先着15人		30 月				いろんな花が咲くのは「お楽しみ」! いろいろな花で玄関や庭を彩りましょう。						
	9	八幡史学館	5	山岸弘明 他 地域の歴史を振り返り、その背景を学ぶことで歴史への理解と愛着を深める。	9:30 ~ 11:30 成人・先着30人		14 火	14 火	2 14 金 水	2 14 火 水	11 火	17年目になる長寿講座です。					
	10	楽しく歌おう	1	原増夫 いろいろなジャンルの歌を楽しく歌ってリフレッシュするとともに、参加者同士の交流を図る。	9:30 ~ 11:30 成人・先着20人		15 水				いろいろなジャンルの歌を一緒に歌いませんか?						
11	楽しい英語(夜間)	4	山崎アンバー 国際社会に通用できるようにネイティブ英語を楽しく学び、いろいろな人との交流を目指す人を見つける。	18:00 ~ 19:30 夜間 成人・先着12人		16 23 30 木 木 木	7 木			ネイティブの先生が優しく分かり易く教えてくれます。「レッツ!スピーキングリッシュ!」							
12	フラワーアレンジメント(父の日)	1	松濱 忍 父の日のために花をアレンジし、生活に彩りを添える。	13:30 ~ 15:00 小学生から成人・先着28人		18 土				ひまわりやバラなど父の日にちなんだ花材でアレンジします。簡単なアレンジです。							
直接	13	子育てプラス	6	ネウボラセンター他 様々な活動を通して子育てする親同士のコミュニケーションを図り、交流の場づくりを目指す。	10:00 ~ 11:30 入園前の子と保護者・直接12組			20 月	1 金	4 木	1 木	3 月	7 月				
6月5日	14	陶芸教室	5	根本正男 器や茶碗を作ることで陶芸の基礎技術を身に付ける。でき上がった作品を文化祭に展示する。	13:30 ~ 16:00 成人・先着10人			19 火	2 16 火 火	20 火	18 火	陶芸に親しみ、文化祭に向けて作品を作ります。					
	15	夏休みこども塾	3	柳池 繁 他 夏休みにしかできない、体験学習や自然観察、バス研修を通して夏を過ごす。	①10:00~11:30 ②9:30 ~ 11:30 ③9:30~16:30 小学生と保護者・先着30人 バス研修						①DNA講座 ②自然講座 ③バス研修(千葉県中央博物館)						
7月5日	16	一日図書館員	1	小林順子 図書館の仕事を体験し、図書館やそこで働く人への理解を深める。	9:30 ~ 11:30 小学4年から8年生・先着6人					1 月	図書室のお仕事体験! カバーかけの実習もします!						
17	親子deイングリッシュ	4	山崎アンバー 親子で楽しく英語を学び、親子でコミュニケーションを図るような国際的な感覚を身に付ける。	10:00 ~ 11:30 5歳から小2までと保護者・先着8組						18 19 21 22 木 金 日 月	親子対象の英会話。簡単な歌・ゲーム・会話を楽しみましょう!						
18	一閑張りバッグ	4	小澤よし子 古文書や和紙を使って、歴史情報豊富なバッグを作る。文化祭で作品を展示する。	①9:30 ~ 11:30 ②11:30 ~ 15:30 成人・先着12人					24 31 水 水	14 21 水 水	和紙・着物生地を使って素敵なバッグに仕上げます。						
19	初級パソコン教室	2	伊藤弘一 ワードやエクセルを使って、パソコンが苦手な方を身に付ける。	9:30 ~ 11:30 成人・先着10人					25 26 木 金	公民館で行いますので、ご自分のパソコンをお持ちください。							
8月5日	20	レッツ!ピラティス(夜間)	3	黒澤奈緒子 背骨と骨盤を整えて、しなやかな体作りを目指す。体のゆがみを整える。	18:00 ~ 19:30 夜間 成人・先着12人						2 9 16 金 金 金	背骨と骨盤のエクササイズを行います。					
	21	暮らしの便利帳	3	かずさDNA研究所 他 暮らしに役立つ情報が盛りだくさん。年々たごとの生活に活かす。	①②9:30 ~ 11:30 ③10:00 ~ 11:30 60歳以上・先着20人						8 15 22 木 木 木	①救急法 ②体操(ボール) ③DNA					
	22	親子で作るハロウィンかご	1	嶋田香織 ハロウィンのかごを作る。オリジナルのデザインで、オリジナルのハロウィンかごを作る。環境を考えたかごを作る。	9:30 ~ 12:00 小学生と保護者・先着10組						10 土	文化祭での発表目指して「レッツ!ダンス!」					
	23	ヒップホップ	6	藤巻 彦 ヒップホップの基礎を学び、参加者と共に文化祭での発表を目指す。	9:30 ~ 11:30 21日のみ夜間 年長から中学生・先着20人						25 日	文化祭での発表目指して「レッツ!ダンス!」					
24	絵手紙	2	岩佐立一朗 季節感あるオリジナルの絵手紙を作成し、文化祭に作品を出品する。	9:30 ~ 11:30 成人・先着10人						29 木	6 木	オリジナルの絵手紙を作りましょう! 作品は、文化祭で展示します。					

令和4年度八幡公民館主催事業 5月5日より先着受付

第17シリーズ

# 八幡史学館

30人募集

回	月日	内容	講師
1	6月14日(火)	いまよみがえる「むかし八幡町」 ～映像と写真でみる郷土史～	山岸弘明 氏
2	7月8日(金)	飯香岡八幡宮と八幡 ～夏越えの大祓～現地見学	平澤牧人 氏
3	8月2日(火)	昔の八幡の思い出 パート3	時田光夫 氏
4	9月14日(水)	更級日記からみた千年前の八幡 ～平安時代後期人々の暮らし～	小関勇次 氏
5	10月11日(火)	市原の出羽三山信仰	立野 晃 氏

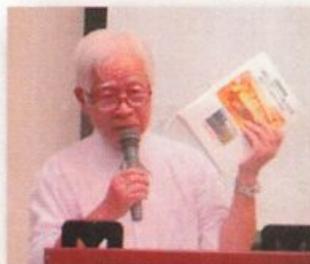
5回講座です。全ての回に参加できる方を対象とします。

時間 午前9時30分から11時30分

場所 視聴覚室

参加費 無料

持ち物 筆記用具



公民館天井絵

問い合わせ 八幡公民館 (41) 1984

山口 達画伯「四季草花園」

八公運委 第10号

令和4年 3月 1日

山岸 弘明 様

市原市立八幡公民館  
館長 池田 好徳

## 八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素、公民館事業に格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当公民館主催事業「いきいき八幡塾」「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。ご多用の折恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

## 記

1. 事業名 「いきいき八幡塾」「八幡史学館」
2. 依頼日時 「いきいき八幡塾」 八幡まち歩き<全3回の3回目>  
令和4年 4月28日(木) 9:00~12:00  
「八幡史学館」 <全5回の1回目>  
令和4年 6月14日(火) 9:30~11:30
3. 場 所 市原市立八幡公民館 会議室1と八幡まち歩き・視聴覚室
4. 内 容 八幡まち歩きと八幡の郷土史について
5. 受講対象者 成人 20名(いきいき八幡塾) 30名(八幡史学館)
6. その他
  - ・受講者への配付資料や公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきますようお願いいたします。
  - ・謝礼金は、交通費と税金を含めまして、1回七千円になります。謝礼金の見直しをさせていただきました。

〒290-0062

市原市八幡1050-1

TEL 0436-41-1984

FAX 0436-43-7457

担当 松濱 忍・及川 仁

八幡公民館主催事業「八幡史学館」第17シリーズ第1回

# ①いまよみがえる「むかし八幡町」

## ②史料紹介「誉田家系図」を読む

令和4年6月14日

山岸弘明



ライバル菅野儀作とのツーショット

映画界に憧れた青年時代の市川得三

### 両総電気株式会社＝新らたにわかった電灯の歴史

#### ①日本の電灯業界のあゆみ～市原の電灯開業前史

明治5年＝横浜で日本最初のガス灯が点灯

明治11年＝東京で中央電信局開局、電池によるアーク灯点灯、「電気の日」の由来

明治20年＝東京電灯、東京で日本最初の火力発電所建設、一般向け電力供給を開始

明治25年＝京都で水力発電所営業開始

明治40年＝山梨で大容量水力発電所建設、東京へ送電を開始

＝千葉電灯、千葉市寒川(本千葉駅近く)で火力発電所建設、市内に送電を開始

明治43年＝木更津電灯(社長石川貞次郎)、木更津で火力発電所建設、市内に送電を開始

このころ＝各地で電灯事業起り、関東地方で31社に達する

大正はじめ＝東京は猪苗代、群馬、長野からの過剰供給で市場競争激化、統合再編進む

大正2年＝千葉電灯は利根電気水力発電所からの低廉な電力売込みを受け入れ、市川→千葉間に送電線を結び受電を開始、自家発電所を停止

#### ②両総電気株式会社のあゆみ

大正2年＝2月市川石三、石川貞次郎中心に創立總會、7月第1回株主總會を開催

(資本金6万円＝過半を木更津側出資、社長石川か、専務市川石三)

大正3年＝1月五所現在エネオスガソリンスタンドの地で火力発電所を建設、八幡、五



大正15年の県内

### 令和4年度「八幡史学館」次回以降の予定

- 第2回 7月8日(金曜日) = 飯香岡八幡宮と八幡「夏越えの大祓～現地見学」  
平澤牧人(飯香岡八幡宮神主)
- 第3回 8月2日(火曜日) = 昔の八幡の思い出 パート3  
時田光男(八幡公民館運営委員会副会長)
- 第4回 9月14日(水曜日) = 「更級日記からみた千年前の八幡～平安時代後期人々の暮らし」  
小関勇次(清和大学特任教授)
- 第5回 10月11日(火曜日) = 市原の出羽三山信仰  
立野 晃(前鎌ヶ谷市立郷土資料館長)

### 「八幡公民館だより」第35号(令和3年11月)で両総電気会社を紹介

ふるやとの歴史  
八幡公民館工り尹ものがたり

#### ◆第三十三話◆



八幡で電力会社を興す 戦前の市川石三町長

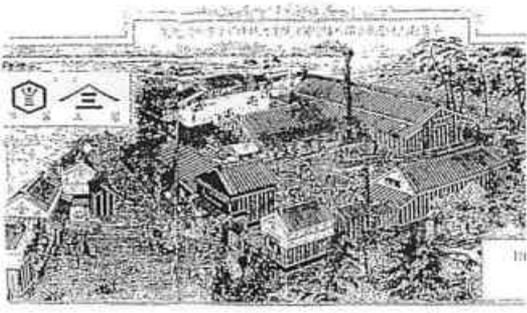
大正から昭和戦前の敏腕町長・市川石三もまた特筆すべき一人である。

慶応元年、神官家で老舗醤油醸造所でもあった市川甚太郎三男に誕生。明治二十三年、早稲田専門学校(大学)を卒業。大隈重信も写る集合写真が伝わる。

両親の長逝で家業を継ぐ。大正二年両総電気会社を設立、五所北川脇の現エネオススタンドの地で火力発電の電気供給事業を開始した。当初の従業員は九人、発電量は不詳。のち五井、姉崎などに広げた。石油ランプから明るく便利な電灯へ。アツという間に広がったが、戦時下の国策で東京電力に吸収された。

県内最大の千葉商業銀行、参詣路面電車の成田電気軌道、東京浅草水族館など県内外実業界で活躍、明治三十年推されて八幡町長、四十三年千葉県議二期、議長で勇退した。以後活動を地元八幡に絞り、大正昭和前期繰り返し町長を務めた。地方自治の首領として仕事は厳しく、一方「明るくやさしいお爺ちゃん」と子孫が家庭での一面を語る。

書を能くし、ペン字の「日記帳」は達筆で難解。晩年、内田羊之助宮司と趣味の碁を囲んだ。昭和三十三年没、八幡宮日誌は「九十四歳、巨星墜つ」と記した。



(山岸) 主催事業「八幡史学館」講師 写真説明 市川石三「千葉県博覧会」の自宅醤油醸造所

所、五井に送電を開始。5月ころ市川石三社長、本社事務所を市川宅とする(大正3年ほか領収書綴りが現存。発電所従業員=内河間多以下8~9名。株主配当年7分、稼働2年間のコークス仕入れは銀座秋葉商店87t、東京瓦斯コークス20tほか合計126t。月おおよそ5t=72円+運賃諸掛)

大正5年=2月五所発電所の操業を中止、千葉電灯からの買電に切り替える。作るより買った方が安く、千葉寒川一五所間に送電線を引く。発電所は2年間で終わる。(千葉電灯仕入れ電力料=2月103円、3月117円、4月109円……。

初期の決算報告書などは未発見だが、経営内容はよかったといわれている)

大正7年=逓信大臣あて姉崎地区延長工事申請、8年11月千種村変電所完成、送電を開始

大正9年=成田市内で電気供給と路面電車と兼業する成田軌道株式会社を買収、13年撤退

大正11年=養老川水力発電所を計画するが、小湊と競合か、不認可のため撤退

大正13年=第23期決算(千葉毎日新聞公告)貸借対照表、損益計算、利益金分配。株金150(千円)、総収入45、総支出32、差引13、純益金8、配当金年1割。取締役社長石川石三、取締役斎藤半三郎、東條良平、石川貞次郎、小川永司

昭和10年ころ=五井町か電灯料領収書控え=1か月電灯料=10燭光90銭、12燭光1円、外灯5燭光55銭。平均1円21銭、1.33灯。一般民家は10燭光1灯、90銭

昭和17年=戦時の配電統制令で関東配電創立、両総電気、木更津電灯が吸収合併される

昭和26年=電気事業再編政令により関東配電は東京電力となる



電気事業者

「八幡公民館主催事業 八幡史学館第17シリーズ記念企画」DVDビデオ

## いまよみがえる「むかし八幡町」

### 戦前・戦後、そして現在～映像で見る町の歴史

#### 1) 市川家（通称＝三太夫）と戦時に16ミリ映画を撮影した市川得三

- ①市川本店＝飯香岡八幡宮創建にさかのぼる旧社家  
江戸後期天保年間創業の醤油醸造、酒類元卸問屋を戦後まで続けた、八幡屈指の旧家。ご子孫は江戸後期、明治期建造の歴史的建物に現住されている。
- ②市川得三＝明治30年、八幡町地方自治と実業界の重鎮であった町長・市川石三4男に誕生、東京・麻布の姉の嫁入り先の下宿、旧制正則中学時代、エースピッチャーとして活躍、小西得郎（プロ野球創設期監督、解説者＝なんと申しましょうか）から母校・明大入りを勧誘された、という経歴もある。大学進学も無視した青年時代、トーキーの出現で黄金時代を迎えた映画界に憧れて、撮影所や映画館に通い詰めた。
- ③市原で最初の電気事業会社を起し、浅草水族館設立にかかわるなど新しもの好きだった父石三もまた、事業としての映画産業にも特別な関心を寄せていたのではないか。得三に米国社製撮影機を買い与え、東京での自由生活を積極的に支援した。
- ④得三のアルバムに昭和8年の撮影日と英字サイン付き、映画俳優風ポートレートが保存されていた。若き日の得三は、金持ち坊ちゃんの趣味が高じた「映画マニア」の一人ではあったが、残された作品には現在にも通じる洞察力とカメラワークがみられる。もしかりに彼のその後の人生に変化がなければ、ひとかどの映画人として活躍していたのかもしれない。
- ⑤昭和10年、市川得三38歳の時、人生の転機を迎える。嫡男であった慶応大学出の兄達也が病死、父石三の次期を託されることになった。得三は厳しかった石三の特訓を受けながら地方自治、実業界へと転身していった。
- ⑥家業のかたわらも趣味となった映画を忘れたわけではなかった。当時わが国は「軍事大国」への道をひたすら走り続けていた。飯香岡八幡宮と運動公園で開催された「市原郡男女青年団総決起大会」では、現役町長だった父石三の私設報道官？の特権を利用してカメラを縦横に駆使した。「出征軍人」の駅送りも列車内に乗り込んで見送り風景を撮影する熱の入れようだった。



孫たちとくつろぐ市川石三翁

市川得三

八幡公民館郷土史講座  
 八幡史学館  
 第17シリーズ記念企画



明治の市川本店博覧図

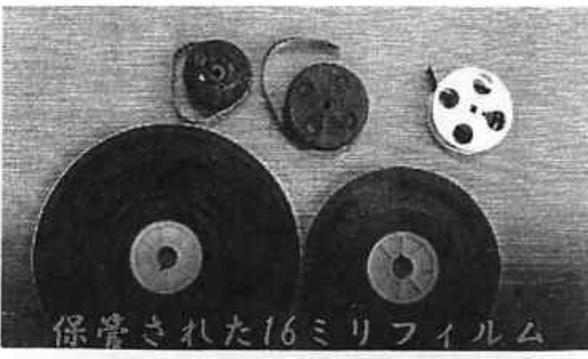


市川本店

八幡 元飯赤岡八幡宮神官家 醤油醸造所



市内唯一の現在商家造り帳場



保管された16ミリフィルム



撮影者 市川得三

明治40年～平成6年

第一景  
 なつかしの学び舎  
 ～ 八幡尋常小学校 ～



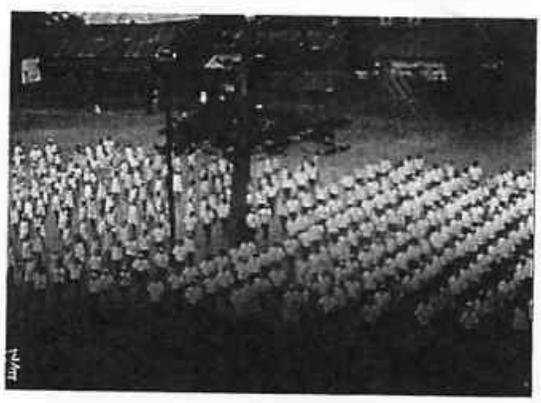
昭和10年代の八幡尋常小学校、  
尋常高等小学校



皇居遥拝



全校体操



- ⑦昭和 20 年、終戦時の八幡町長。22 年の県会議員選挙はダントツのトップ当選を果たすが、再選でライバル菅野儀作のちの参議院議員に敗れて政界を引退した。戦後の一時期、親戚だった日活・根本社長と能満の「こどもの国」一帯に映画村招致を企画したが実現しなかった。後半生は家業に専念した。平成 6 年没、96 歳であった。
- ⑧市川家には得三が残した 16 ミリ映画が部屋隅などに多数保管された。ご子孫によれば、貸出しなどで一部を散逸し、根本社長が残ったフィルムをラッシュ編集して大型リールにまとめた。
- ⑨この映像は市川家および市教育委員会博物館準備室によって作成された変換 DVD を原史料とし、ご子息・市川恵三、信三氏撮影の戦後、昭和 30 年代、海岸埋立て前後の記録写真、現在映像を加えた。制作は共作者石黒修一氏の多大な労に依った。  
 移り変わる八幡町の思い出シーンは日本の現代史そのもの、感動なくて語ることはできません。本講座ではあえて上映中の解説を極力抑えたいと思います。激動の時代を生きた市川得三がなにを見、何を伝えたかったのか。八幡町の現代史を通じて、思い思いの胸に「郷土八幡の歴史文化」を感じていただければ幸いです。

## 2) いまよみがえる「むかし八幡町」

### DVD ビデオジャケット

- 第 1 景 = なつかしの学び舎～八幡尋常小学校  
 (対比画像 = 旧八幡小学校跡、現在の八幡小学校)
- 第 2 景 = 賑わう八幡さまの祭り～飯香岡八幡宮  
 (現在の飯香岡八幡宮、柳楯神事)
- 第 3 景 = 失われゆく八幡の伝統行事  
 富士講、三山講お練り、大鳥居落成記念春季大祭お練り、称念寺稚児行列  
 (現在も続けられている出羽三山講と富士講)
- 第 4 景 = つかの間の楽しみ  
 八幡海岸の船遊び、房総東線の旅、安房小湊駅、内海海水浴場、誕生寺、鯛の浦、中山法華経寺参道、中山競馬場
- 第 5 景 = 戦場へ駆り出される若者たち ～泥沼へ突き進む日本  
 男女青年団総動員大会ならびに武運長久祈願祭 (3 千人参加を記録した飯香岡八幡宮日誌、会場となった現在の運動公園、町営プール絵はがき)  
 相次ぐ出征軍人の見送り (八幡・鈴木典男、白鳥達雄ほか。帰らぬ人となった 194 柱を祀る八幡町忠霊塔)
- 第 6 景 = 仕事と家族 ～市川家の人たち



### 戦後の八幡海岸と海岸埋立て～引き継がれた町の記録

撮影者市川恵三、信三 = ご子息兄弟が昭和 30 年代の八幡町を記録撮影  
 市原市市制施行 50 周年記念事業 = 写真アルバム「市原市の昭和」  
 表紙写真、扉ページ写真など 30 余点の両氏作品が掲載された

写真アルバム 市原市の昭和 (2013 年 = いき出版)

編集委員 = 大岩裕幸、山岸弘明、佐倉東雄、佐野彪、石井勇、遠山あき、谷島一馬ほか

⑥



八幡

八幡小学校旧校舍跡

第二景

賑わう八幡さまの祭り

～ 飯香岡八幡宮 ～



一の宮みこし出御 (宮出し)



一の宮みこし出御 (宮出し)

勇壮な宮出し



祭りの朝

浜本町



一の宮出御



拝殿前



柳楯とボンネットバス

連合渡御の光頭にたつ「柳楯」

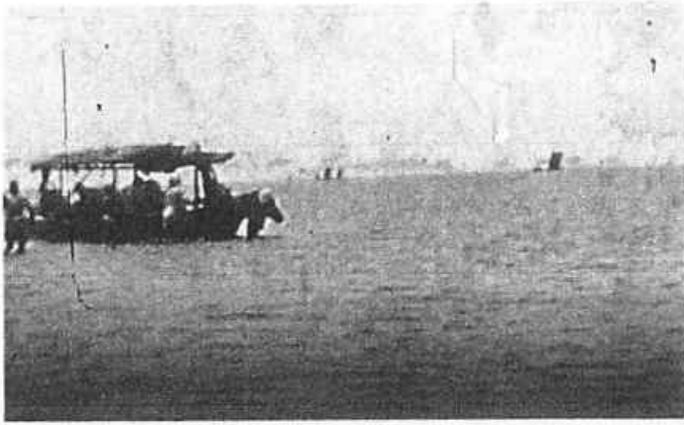


一の鳥居の賑わい



「奉幣の儀」にみこしが集結

身動きできない境内



14  
干潟地帯  
舟遊び



八幡海岸のスナップ映像

### 昭和30年代の八幡町

戦後の八幡海岸は東京に近いリゾート地として、潮干狩りや海水浴場としてにぎわった。一方「半農半漁」、海苔を養殖して貝を収穫した町びとにとっての海は「職場」でもあり、生きるための「生活の場」でもあった。

#### 潮干狩りや海水浴場としてにぎわう＝

岸壁から飛び出すように海の家が立ち並ぶ、潮が満ちて引き上げる生徒たち、記念写真に収まる、みやげの貝を求める小学生、すだてをたのしむ団体客、臨時駐車場となった八幡中学校校庭、東京の学童たちを乗せた観光バスの間を貝採取のお母さんたちが通り抜ける、潮干狩り客でにぎわう海の家、

昭和32年、八幡五所漁業組合は、県が提示した京葉工業地帯建設のため漁業権を放棄、八幡海岸はアツという間に埋め立てられて進出工場の大型プラントが建設された。

#### 海岸埋立て方法＝

- ①巨大浚渫船が海水混じりの土砂を浚渫する
- ②埋立て計画地を示す板囲いの内側にパイプで海底土砂を輸送する
- ③日照乾燥して工場用地が完成

戦前の八幡町は「海の恵みと八幡さまの信仰」に支えられた文化と賑わいを、戦後は一転「京葉工業地帯の中堅都市」へ。

懐かしかった「むかし八幡町」の思い出シーンは、わが国、そしてわが郷土八幡町の「現代・昭和史」そのものでもあった。

#### 制作スタッフ

制作＝山岸弘明 編集＝石黒修一(撮影、編集など技術全般を総括していただきました)

協力＝市川本店、八幡史学館チーム、ふるさと市原をつなぐ連絡会、市原市教育委員会博物館準備室、八幡公民館、飯香岡八幡宮、いき出版、  
三山講「敬愛会」のみなさん、富士講「丸八講」のみなさん、竹内 克、佐倉東雄、鷺津寛子、堆美登里



八幡

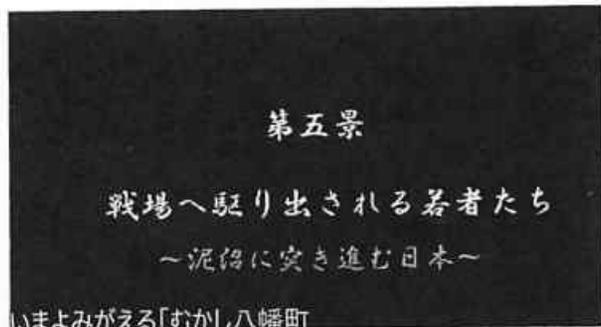


八幡海岸の舟遊び



富士講

富士講



第五景

戦場へ駆り出される若者たち  
~泥沼に突き進む日本~

いまよみがえる「むかし八幡町」



昭和9年の三山供養

三山講供養



行進する軍楽隊

昭和12年 武運長久祈願祭



三山供養の山車



戦勝と武運長久を祈願



浜本町鳥居を進む山車

鳥居落成を記念した春季大祭



日章旗を掲げる

男女青年団総動員大々

⑨



エブロン姿の婦人団



軍部が激励



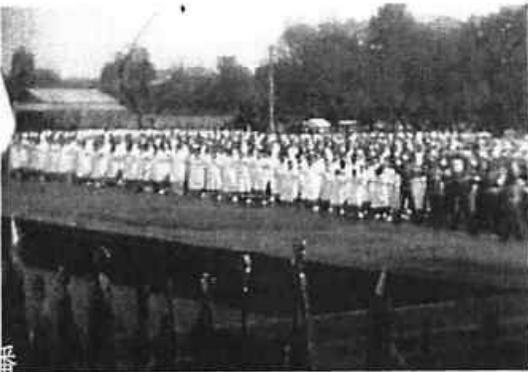
出征軍人と家族



2千人が運動公園集結



歓呼と万歳に送られる



相次ぐ出征兵士の見送り



日の丸  
寄せ書き



若者たちが戦地へ



蒸気機関車  
涙ぐむ家族



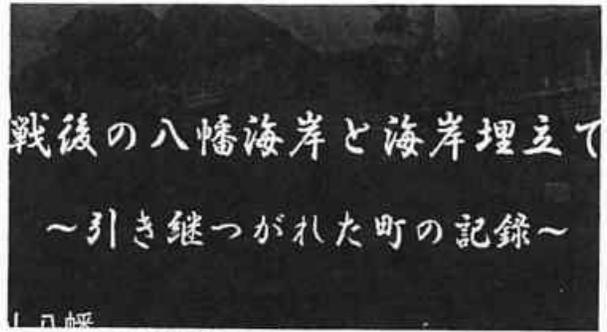
いつまでも  
手を振る



昭和10年代の市川家



撮影者得三の父市川石三  
慶應元年～昭和33年  
八幡町長、千葉県議会議員  
地方自治の道として活躍



よみがえる「むかし八幡町



潮干狩りで  
賑わう

よみがえる「むかし八幡町浴場としてにぎわう



海の家



海苔の養殖

よみがえる「むかし八幡町



みおを行く

まよみがえる「むかし八幡町

冬の風物詩  
海苔ほし



道路が完成



昭和32年、八幡五所漁業協同組合は、  
県が提示した京葉工業地帯建設のため  
漁業権を放棄、八幡海岸はアッと  
いう間に埋め立てられて進出工場の大  
型プラントがまよみがえる「むかし八幡町」



戦前の八幡町は「海の恵みと八幡さまの信仰」  
に支えられた文化と賑わいを、戦後は一転  
「京葉工業地帯の中堅都市」へ。懐かしかつ  
た「むかし八幡町」の思い出シーンは、わが  
国、そしてわが郷土八幡の「現代・昭和史」  
まよみがえる「むかし八幡町」

大型液漕船



埋立て枠板



工場都市として発展する現在の  
まよみがえる「むかし八幡町」



まよみがえる「むかし八幡町」

まよみがえる「むかし八幡町」

造成工事が  
すすむ



まよみがえる「むかし八幡町」

# 史料紹介＝飯香岡八幡宮文書

## 「誉田(市川主膳)家系図」を読む

### 1) 「源平藤橘」と誉田氏～家系図とは

- ①家系図(系譜)＝先祖から代々の血統、続柄、家系を記述した文書をいう
- ②氏＝男系先祖を同じくする同族血縁。「源平藤橘」が知られる  
皇族賜姓＝「臣籍降下」にあたり賜姓 源氏、平氏(皇室警固、武士)  
臣籍賜姓＝とくに功績のあった臣籍に賜姓 藤原氏、橘氏、豊臣氏
- ③姓(かばね)＝一族、名字、氏の尊称。現在では氏と同じ
- ④藤原氏＝鎌足を祖とする氏族。多くの公家を輩出、1200年に亘り一大勢力を掌握した
- ⑤誉田別命(応神天皇)＝八幡信仰。激しい力の神で、武神として尊崇された

### 2) 新姓で関白になった豊臣秀吉と源氏にこだわって将軍になった徳川家康

- ①関白＝天皇を補佐して政治全般をみた官職  
太政大臣＝臨時の太政官長官(将軍の上職)  
太閤＝太政大臣を子に引継いだ後の名誉職  
征夷大將軍＝えびす討伐のために派遣された将軍。武士政権の統率者
- ②名字 官位 氏 皇子皇孫 名前  
羽柴 関白・太政大臣→太閤 豊臣 秀吉  
徳川 征夷大將軍・太政大臣 源 朝臣 家康

#### ③源頼朝以来のルール＝源平以外は将軍になれない

秀吉は信長後継者として平、関白叙任にあたり前任者の猶子として藤原を名乗るが、天正14年前例踏襲を拒否してあらたに「豊臣」の姓を創始した。将軍を飛び越えたため幕府創立の機会を失し、天下人・秀吉の死で豊臣政権が崩壊した。

- ④家康の松平家は始め藤原氏で、三河統一の時、本姓の徳川氏に戻したいと願い出て三河守に叙任した。以来清和源氏新田氏の子孫を称したが「にせ系図」が定説になっている。しかし、戦国乱世から徳川300年の太平の世を築きあげた家康の偉業はまさに武家棟梁としての「征夷大將軍」の名にふさわしいものであった。

### 3) 「誉田家系図」の成立は明治10年ころ、第60代市川邦教が作成

- ①市川邦教＝文化5年生れ、文政7年市川姓3神官家の1つ主膳正家第60代。明治7年全国の神官解職にともない一般人となる。最終職位・社司(禰宜＝神職16名中、神主市川信明に次ぐ2位)。明治18年没、78歳。事績＝当社旧事記調査、「神代の絵巻」(飯香岡八幡宮蔵)。書画を能くし、国学や八幡信仰、俳諧などに精通した。
- ②元となる系図類は現存なく、飯香岡八幡宮の古来伝承、「由緒本記」「御実記」などの基本文書を底本としたものと考えられる。

③社家の1つ山下家の無量寺墓地の先祖累代の墓は第1代を庸明とし、天慶9年946東州に下り上総国八幡山下に住し、飯香岡八幡宮の祠官に任ぜられたとする。以下41代を刻む。山下家も同様系図が保有した可能性がある。

#### 4) 神話時代の第10代崇徳天皇後胤に始まる

①菅田家系＝八幡神の菅田氏を名乗り、元和年間藤原氏に改める

上古時代(神話の時代)

\*豊城入命(とよきいりひこのみこと)＝第10代崇神天皇の男子、垂仁天皇の弟

崇神天皇(開化天皇15年西暦前148年、開化天皇長男として誕生、崇神天皇元年前97年即位、同68年前30年崩御、119歳)＝ヤマト王朝国家の基盤を築く。実在した可能性のある最初の天皇

\*八綱田王(やつなたのおう)＝天皇の孫、3代までが皇族

\*伊静武彦臣(いしづかたけひこのおみ)＝八綱田王末男。天皇のひ孫。皇籍を離脱

垂仁天皇25年前4年、受火命(うけひのみこと)御影神社神官に任ず

\*石塚の地名伝承は古く、もとは「石握の里」で八幡の旧地といわれている。石塚公園の「庚申神社由来碑」によれば「往古この付近に村落が形成され石塚村を称したという。のちに飯香岡に八幡宮が勧請され八幡宮の氏子区域として八幡郷が形成されたため石塚村は併合されて小字名を残すのみとなった」とされる。

飯香岡八幡宮の旧地伝説を反映している

\*市川姓3家の成立

豊珠武彦菅田斎宮祖(市川斎宮家＝代々神官)＝垂仁天皇65年西暦34年、長男が神主家を相続、子孫連綿として継承した

豊木武彦菅田主膳祖(市川主膳家＝代々祠官)

豊庫武彦菅田三太夫祖(市川三太夫家＝代々祠官)＝2男、3男家が祠官(社家)として代々長男家を補佐した

②日本武尊が「ご飯の香りよろし」と宣われ、「飯香岡」の地号を賜る

\*第1代豊木武彦＝景行天皇43年110日本武尊東夷御征伐の御時、当社御臨降御目見あらせられ、酒飯奉り、御悦び給い飯香岡の地号を賜る。よってこれより御影郷を改めて飯香岡称す

\*当系図によれば第1代豊木武彦の創設から第15代美貴麿家督まで563年あり、平均在位が40年、没年令はおおむね100歳になる。作者はどのようにして神話時代にその切り口を求めたのか、当時の「日本の文化」に思いをはせるのも楽しい。

奈良時代

\*第16代美智麿＝天武天皇5年677家督。従五位式部大夫。実は藤原武智麿胤養子。天武天皇白鳳4年当飯香岡へ八幡大神宮勧請奉り、よってこれまで飯香岡御影神社として祠官のところ、このたび改めて、以後代々八幡宮祠官たる旨、定め置かれ候こと、

参考・藤原美智麿は天兒屋根命21世、正二位左大臣大織冠藤原鎌足曾孫贈太政大臣正一位藤原武智麻呂胤

参考・菊間若宮八幡宮社らんしょうほか＝当宮(菊間若宮神社)勧請は天武天皇白鳳2年、仁徳天皇勧請奉るなり。斎主久々麻国造大鹿国直代々宮司たり

平安時代

\*第35代義守＝平治元年1159家督。従五位民部大夫。安元2年千葉介平常胤公、当社神田10町御寄付あらせられ御目見、御盃賜る

参考・菊間若宮八幡宮らんしょうほか＝当宮再興は長保2年、千葉介、平良文より7代の後裔、平常重、菊間領知の節も当若宮再興にてござ候

③源頼朝が戦勝祈願して150町歩を寄付

## 鎌倉時代

- \*第36代義國=治承3年1179家督。従五位治部大夫。治承4年武将源頼朝公、当社御供田150町歩御寄付あらせられ御目見御盃賜り、下総葛飾まで供奉す。建久3年大將軍源頼朝公当宮御造立あらせられ、よりにて御礼として菅田義重、同義國、同伴登城、御目見御盃賜る
- 参考・頼朝伝説=源氏再興をめざす頼朝が戦勝を祈願した「さかさいちょう」伝説
- 参考・菊間若宮八幡宮らんしょうほか=頼朝出陣の節、千葉介も御加勢のため供奉致され候節、当宮へ御祈祷遊ばされ、それよりとんと悪徒御誅伐なされ候ゆえ若宮神領貫目にて下され候
- \*第38代朝國=貞応元年1222家督。従五位織部正。室義父義忠娘、実は伊東祐親娘佐殿胤子なり
- 参考・伊豆に流された頼朝と監視役・伊東家の娘八重姫の子千鶴丸(被殺とされる)を養子に迎える
- \*第39代朝康=寛元元年1243家督。従五位大内記。室伊東舎人祐高娘
- \*第41代朝光=正安2年1300家督。従五位中務大夫。元享2年初めて藤原姓を賜る。これより菅田の姓を家氏と定める

## ④足利義満のみこし寄進と謎多い元亀2年の兵火

## 南北朝時代

## 室町時代

- \*第44代善国=永徳2年1382家督。従五位下玄蕃頭。至徳元年9月源義満公、当社御神輿4社御寄付あらせられ、御礼として菅田式部大夫信重、同菅田善国登城、御玉串献上、御目見御盃賜る。
  - \*第49代正邦=弘治3年1557家督。菅田勘解由。元亀2年織田勢兵火発し、家財、旧記焼失、なお神領召上げられる。しかれども神主先祖ども開発田畑12町はそのまま居置られ、よって以前のとおり所持致し候こと
  - 参考・上麻惣社飯香岡八幡宮由諸本記ほか=古来伝書は文明事実に止まる。(中略)よって今これを正し社伝の書を小冊に註写す。(中略)元亀2年織田家の軍兵、兵発に及び(中略)社領は次第に破壊に及び(中略)天正4年、御造営自力かないがたく、よりにて諸郷勸進御免の儀、国主北条家へ願ひ奉るところ(中略)さっそく御聞き済みの上、勸進御免許下し置かれ候
  - 参考・菊間若宮八幡宮社格昇格願ほか=時に治乱盛衰やむをえざること、社領も武家に押領、神司なども散り散りになると云々。武家と称するは元亀2年織田氏のため押領せられたり
  - 参考・元亀2年の八幡周辺は千葉原氏と里見氏の戦乱の渦中にあつたが織田家との接点はない
- ⑤徳川家康150石の寄進と新神主家の登場

## 江戸時代

- \* (○印に注目=新しい家系をさす) 第50代正好=天正16年1537家督。菅田主膳正。室正邦娘。実は菅田齋宮藤原義信舎弟養子なり
- 天正18年源家康公御召しよりにて神主菅田齋宮ならびに正好同伴、まかり出御目見、盃を賜る。
- 天正19年大納言源家康公より先祖ども開発田畑12町をもって高150石と御定め、御墨印御証文頂戴仕る 女子=養子正好室。 女子=永井式部少輔家臣小堀治郎右エ門正室
- 参考・菊間若宮八幡宮社格昇格願ほか=天正年中に至り天下泰平なり、よって同19年11月徳川家康武運長久祈願のため菊間郷の内高20石八幡宮領として寄進、その時宮司平重元神主家再興、社付きの子孫また相尋ね歩き…
- \*第51代重正=元和4年1618家督。太兵衛、菅田主膳正。元和4年菅田氏は尊神号によって市川と改める
- \*第52代勝正=寛永13年1636家督。市川主膳正。元禄5年同郡菊間村隠居、すなわち若宮社家市川主膳正という
- \*第55代正景=元禄6年家督。市川主膳正。実は堀飛騨守内老士西尾帯刀保正二男養子なり
- \*第57代康正=寛保2年家督。市川主膳正。実は松平大和守老臣好田左膳亮康忠二男養子なり
- \*第60代邦教=文政7年家督。市川主膳正俊、大和正、一学藤原邦教。明治7年世襲神官廃止にともなって退任。10年ころ当系図を作成。(明治維新以降を省略した)



市川邦教自画像

市川邦教が作成した「神代の絵巻」



響田家系

豊城入彦命長子  
八綱田王木男  
○豊木武彦 仁天皇丁酉六年  
伊静武彦臣 孝命御孫性神  
三 豊木武彦香皇孫  
三 豊珠武彦臣香皇孫  
三 豊雄武彦香皇孫

○豊木武彦 仁天皇丁酉六年  
御影神社住神官

豊木武彦 景行天皇庚辰丁酉年  
同社祠官家督

景行天皇四十二年日本武尊東渡御征伐之御時  
當社御賜降板為在御見奉酒飯御悅給北  
飯香岡地号子賜依五足御影郷半改皇  
飯香岡地

豊長武彦 成毅天皇庚辰丁酉年  
同社祠官家督

豊雅武彦 仲哀天皇乙卯八年  
同社祠官家督

豊固武彦 神武天皇甲申八年  
同家督

綱伴武彦 神武天皇乙未八年  
同家督

豊貴推彦 仁德天皇庚辰三十九年  
同家督

豊相武彦 仁德天皇乙未十五年  
同家督

綱守推彦 反逆帝丁未二年  
同家督

豊足推彦 雄略帝乙未三年  
同家督

綱武彦 顯宗帝乙未元年  
同家督

豊 彦 經德帝丁酉十年  
同家督

津田彦 敏德帝戊辰十九年  
同家督

種彦 崇峻天皇壬午五年  
同家督

美智彦 推古天皇丁丑五年  
同家督

美智彦 天智天皇丙寅五年家督  
從五位式部次全書藤原武智智皇孫子  
八幡本中本本抄藤原武智智皇孫子  
此後改以後代々傳世可及列官皆被此皇孫  
號美公彦丁丑五年七月廿七日七歲

美智彦 養子家督菅室

美津彦 文武天皇乙未三年家督  
從五位左京大夫 皇中臣今皇孫  
号册公彦丁丑五年四月廿日行年五歲  
倉橋良家室

女子

邦推彦

養德丁酉元年 家督  
從五位武安 室中修德手鏡  
号 敏元真人 敏彦于壬午年行年百八歲  
神代御理人父長子

勝推彦 天智天皇甲申年 家督  
從五位中書大夫 室中修德手鏡  
号 真正彦 天長元年丙午十月廿日

為清 三良太夫 伯則系孫  
中川藏公直孫

勝彦 室承八丁巳年 家督  
從五位武安大夫 室中修德手鏡  
号 宗康真人 天長元年壬午七月廿日行年五歲  
佐野帶刀養子

矩維 佐野帶刀養子

基良 延暦丁酉巳年 家督  
從五位武安大夫 室中修德手鏡  
号 基良彦 天和元年九月廿日行年七歲  
朝倉内舍人盛尊養子孫  
中條左近室

基道 弘仁十四甲申年 家督  
從五位武安大夫 室中修德手鏡  
号 義仁彦 垂承元年甲午十月廿日行年七歲  
阿野直彦室

基邦 美和甲子年 家督  
從五位左馬頭 室中修德手鏡  
号 貞仁彦 自觀十七年十月廿日行年七歲  
初原右門家室

義慶 貞觀元年 家督  
從五位藏人 室中修德手鏡  
号 德衡彦 寬平元年十月廿日行年七歲  
田内左馬頭養子  
田中主計正行室

邦實 元慶甲辰年 家督  
從五位右門外 室中修德手鏡  
延喜元年於延喜官長為修德  
号 宗自彦 延喜二年庚辰七月廿日行年七歲  
高橋左門尉

義道 延喜九年 家督  
從五位武安 室中修德手鏡  
号 義道彦 養正二年十月廿日行年七歲  
中條權次養子  
田邊水主父室

義康 延喜九年 家督  
從五位武安 室中修德手鏡  
号 義康彦 養正二年十月廿日行年七歲  
中條權次養子  
田邊水主父室

義重 延喜九年 家督  
從五位武安 室中修德手鏡  
号 義重彦 養正二年十月廿日行年七歲  
堀川國書亮室

信重 延喜九年 家督  
從五位武安 室中修德手鏡  
号 義重彦 養正二年十月廿日行年七歲  
堀川國書亮室

義宗 天曆六年 家督  
從五位中書大夫 室中修德手鏡  
号 義宗彦 自元丁丑二月廿日行年五歲  
大炊次

義邦 天曆六年 家督  
從五位中書大夫 室中修德手鏡  
号 義仁彦 寬仁元年十月廿日行年八歲  
大炊頭  
田邊時親室

貞光 天曆六年 家督  
從五位中書大夫 室中修德手鏡  
号 義仁彦 寬仁元年十月廿日行年八歲  
大炊頭  
田邊時親室

女子

女子

女子

女子

教基

寬政五年申年 家督  
從五位下 實業  
治部省 平太左衛門  
邊内内藏主 養子

義重

承和三年 家督  
從五位下 實業  
高倉治部省 養子  
立良治良

信房

承和三年 家督  
從五位下 實業  
藤太左衛門 養子

義嗣

承和三年 家督  
從五位下 實業  
外山右衛門 養子

豐永

承和三年 家督  
從五位下 實業  
足直丹治部省 養子

義光

保元三年 家督  
從五位下 實業  
寫保忠孝 養子  
中上左衛門 養子

教長

承和三年 家督  
從五位下 實業  
中上左衛門 養子

義守

平治元年 家督  
從五位下 實業  
安元二年 養子  
中上左衛門 養子

義國

治承三年 家督  
從五位下 實業  
治承四年 養子  
中上左衛門 養子

義忠

建久三年 家督  
從五位下 實業  
寫義忠孝 養子  
中上左衛門 養子

義矩

山内治部省 養子  
中上左衛門 養子

朝國

貞應元年 家督  
從五位下 實業  
寫義忠孝 養子  
中上左衛門 養子

朝光

延應三年 家督  
從五位下 實業  
元亨二年 養子  
中上左衛門 養子

朝庸

山内治部省 養子  
中上左衛門 養子

朝重

貞應元年 家督  
從五位下 實業  
寫正德孝 養子  
中上左衛門 養子

重義

文和三年 家督  
從五位下 實業  
寫純德孝 養子  
中上左衛門 養子

重國

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重國孝 養子  
中上左衛門 養子

重邦

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重邦孝 養子  
中上左衛門 養子

重直

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重直孝 養子  
中上左衛門 養子

重好

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重好孝 養子  
中上左衛門 養子

重勝

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重勝孝 養子  
中上左衛門 養子

重正

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重正孝 養子  
中上左衛門 養子

重永

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重永孝 養子  
中上左衛門 養子

重好

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重好孝 養子  
中上左衛門 養子

女子

養子正好室  
小長治長直正室

女子

元和元年 家督  
從五位下 實業  
寫重直孝 養子  
中上左衛門 養子

勝正

實業  
從五位下 實業  
寫勝正孝 養子  
中上左衛門 養子

正長

中上左衛門 養子

忠勝

小宮山長直室

邦重

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫邦重孝 養子  
中上左衛門 養子

重俊

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫重俊孝 養子  
中上左衛門 養子

女子

養子正景室

正景

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫正景孝 養子  
中上左衛門 養子

正勝

田中長祐養子

女子

養子正直室

康正

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫康正孝 養子  
中上左衛門 養子

女子

養子正信室

女子

原田純祐室

康信

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫康信孝 養子  
中上左衛門 養子

女子

養子長信室

邦教

承和三年 家督  
從五位下 實業  
寫邦教孝 養子  
中上左衛門 養子

女子

養子長信室

23  
令和四年度 八幡公民館 主催事業 「八幡史学館」二回目

# 飯香岡八幡宮と八幡

（夏越ゆきこの大神し）

講師

飯香岡八幡宮宮司 平澤牧人

令和四年 七月八日（金）

江戸後期

文政二年行事

明治六年行事

昭和期現行祭祀

一月

中祀(一日-七日)

天智天皇祭 四方拝式

歳旦祭

清和天皇祭

清和天皇祭

水神祭

崇神天皇祭・元始祭

崇神天皇祭・元始祭

人日祭

安寧天皇祭

安寧天皇祭

金刀比羅神祭

御田打神事

元明天皇祭・御田打神事

魚業祭

人日之祭

人日之祭 大草がし

鎮火祭

神籬神事

神籬神事

月次祭・筒粥神事

大御神筒粥神事

大御神筒粥神事

月次祭

月次祭

孝明天皇祭

月次祭

月次祭

神武天皇御即位祭

月次祭

朔日

折年祭

月次祭

二月

節分祭

月次祭

初卯日

卯の日祭

月次祭

初午

初午祭

初午祭

三日 立春日

節分祭 立春

陪従神事

卯の日祭

初午

初午祭

四月	十一日			東照宮任征夷大將軍ノ日記	紀元祭 厳島祭	海神 水神
	十二日			仁徳天皇祭		
	十三日			大御神祭日	月次祭	
	十五日	月次祭			祈年祭	
	十七日	月次祭			天神祭	
	二十五日	月次祭	菅公忌日		月次祭	
	二十八日	月次祭				
三月	朔日	月次祭			月次祭	
	三日	式日			上巳祭	
	十日	コウレン行事				
	十三日		応神天皇祭			
	十四日	中祀	大御神祭幣式	宵宮祭		
	十五日	大祭 八雲大御神誕生月	大御神祭日	春季大祭		
	十六日	朝務		翌日祭		
	十七日	月次祭		八坂祭		
	二十日		春季祭			
	春分の日			春季皇靈祭 遙拝式		
	二十八日	月次祭			月次祭	
	三十日		鎮花祭	八雲大御神誕生月		

十五日	十一日	朔日	六月	二十八日	二十七日	十五日	五日	五日	朔日	五月	二十九日	二十八日	二十七日	十七日	十五日	十四日	七日	四日	三日	朔日
月次祭		月次祭		月次祭	新箸神事		月次祭	式日	月次祭			月次祭		朝夕兩度	月次祭					月次祭
大御神祭日	月次祭・神今食		桶贈左中將忌日		大御神祭日	玉依媛命祭日							大和祭	東照宮忌日・三枝祭	大御神祭日	神衣祭	天武天皇祭	大忌祭・風神祭		
月次祭		月次祭・淺間祭(旧曆)		月次祭	月次祭		端午祭	月次祭			天長祭	月次祭			月次祭				神武天皇祭	月次祭

九月	二十八日	月次祭		月次祭
	二十七日	月次祭		
	二十三日	流鏝馬神事・十二座神楽		
	十五日	大祭・神輿渡御	大御神大祭式	翌日祭(旧曆)
	十四日夜	幣開神事	賦幣神事	秋季大祭・神幸祭(旧曆)
	十四日	柳楯行事		宵宮・御盥入(旧曆)
	十三日	神輿飾付	大御神祭幣神事	柳楯行事(旧曆)
	十一日	神輿奉安		
朔日	八月	月次祭		月次祭
	二十十日	月次祭		月次祭
	二十八日	月次祭		月次祭
	二十二日夜	干満両珠捧神事 道ハカハナ	龍燈祭	月次祭
	十五日	月次祭	大御神祭日	月次祭・八坂祭
	七日	式日		七夕祭
	朔日	月次祭	大忌祭・風神祭	月次祭
七月	三十日	夏越祭	大祓 鎮火祭・道饗祭	大祓式
	二十八日	月次祭		月次祭

茅子輪人

朔日	九月	十一日	十四日	十五日	十七日	二十三日	秋分の日	二十八日	三十日	十月	朔日	十五日	十六日	十七日	二十八日	二十九日	三十日	朔日	三日
月次祭		式日		月次祭				月次祭			月次祭	月次祭			月次祭			月次祭	
		例幣祭	神衣祭	大御神祭日	神嘗祭	秋季祭						大御神祭日	大織冠忌日		天武天皇祭				
月次祭	重陽祭					秋季皇靈祭遙拝式		月次祭	神立祭(旧暦)		月次祭	月次祭	月次祭	神嘗祭当日祭	月次祭	神嘗祭(旧暦)	月次祭	明治祭	月次祭

初卯ノ日	新嘗祭	大御神初卯祭・相嘗祭	
五日		神宮遙拜式	
中寅ノ日		鎮魂祭	
中卯ノ日	新嘗祭		
中辰ノ日		豊明節会	
十一日		天長節会	
十五日	月次祭	大御神祭日	月次祭
二十三日			新嘗祭
二十八日	月次祭		月次祭
朔日	月次祭		月次祭
三日		天智天皇国忌祭	
十一日		月次祭・神今食	
十四日		御誕辰祝	
十五日	月次祭	大御神祭日	月次祭
二十八日	月次祭	大祓・鎮火祭	月次祭
晦日	年越祭	道饗祭・荷前	大祓式・除夜祭

新嘗祭

新米  
新神  
新嘗

大御神初卯祭・相嘗祭

鎮魂祭

大祓・鎮火祭  
道饗祭・荷前

天皇 → 金米  
全國神社に

大祓

水無月の女と天の夜之かゝ人  
年歳の命を  
送る

令和4年度 八幡公民館 主催事業

# 「八幡史学館」③

## 昔の八幡の思い出

### パート3

— 心に残る思い出が今よみがえる。

写真が語る八幡の昭和！ —

8月2日（火）視聴覚室

午前9時30分から11時30分

講師

市原地区社会福祉協議会顧問

八幡公民館運営委員会副会長

# 時田光夫

# 講座目次と予定

## ○ふるさとの暮らしと祭り

### 1. 昭和のはじまり

～特色ある地域から～      ～ふるさとの原風景～

### 2. 銃後を守る

～贅沢ハ敵ダ～      ～戦前・戦中の教育～

### 3. 思い出の街並み

～開発と都市景観の変化～      ～若潮国体～

## ※ここまで令和2年度実施。

### 4. 変貌する風景

～50年の歩み～      ～土に生きる～

### 5. 交通の変遷      ～市内交通と暮らし～

### 6. 臨海工業地帯

～埋め立てと開発～      ～漁業とにぎわう浜辺～

## ※ここまで令和3年度実施。7から今年度実施。

### 7. 暮らしのなかで      ～地域社会の変化～

### 8. 暮らしと伝統行事

～未来への継承～      ～七五三～

### 9. なつかしの学び舎

～戦後教育の改革と子どもたち～      ～戦後の子どもたち～

令和4年度



7. 暮らしのなかで  
—HMC1022—



八幡公民館での浪曲大会  
吾妻おとめ (S.26)



八幡警察署  
(S.40)



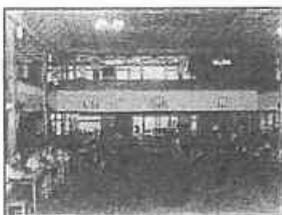
忠霊塔建立の落慶式  
(S.30)



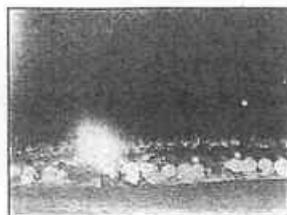
市川本店前での職人  
(S.32)



八幡公民館での成人式  
(S.27)



修武会剣道講習会  
(S.28)



ボーイスカウトガールズ  
カウト市原郡大会 (S.28)



森永ロボット象トッファイ  
一君 (S.32)



正月の風揚げ風景  
(S.30)



八幡中学校での野球大会  
での応援風景 (S.30)

2024年  
自筆



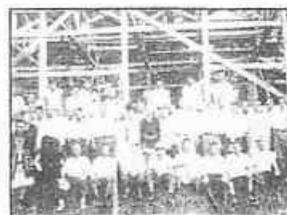
八幡中学校グラウンド整備 (S.29)

13?



八幡公民館仮装大会  
(S.29)

13



中学校校会上様式  
(S.23)



野球大会の応援を終えて  
(S.30)

山六  
宮戸



八幡料亭の餅まき  
(S.35)



八幡公民館での結婚式  
(S.20)



市内料亭での八幡中学校  
同窓会 (S.45)



学校対抗女子ソフトボ  
ール大会 (S.30)



飯香岡八幡宮での結婚式  
(S.20)



港まつり演芸大会  
(S.40)



小浜タクシー五所営業所  
前 (S.44)



シャチが迷い込んだ五所  
海岸 (S.45)



八幡海岸の埋め立て工事  
① (S.35)



八幡海岸の埋め立て工事  
② (S.37)



埋め立て地側から八幡中  
学校を望む (S.37)



修復する山口達西伯  
(S.47)



交通安全パレード  
(S.52)



## 8. 祭りと伝統行事



市原市市制施行一周年  
(S.39)



区画整理事業説明会  
(S.39)



飯香岡八幡宮境内舞台の  
ミス千葉港 (S.30)



飯香岡八幡宮の祭り  
(S.41)



飯香岡八幡宮秋季大祭①  
(S.49)



飯香岡八幡宮秋季大祭②  
(S.48)



市内料亭での八幡中学校  
同窓会 (S.45)



学校対抗女子ソフトボ  
ール大会 (S.30)



飯香岡八幡宮での結婚式  
(S.20)



港まつり演芸大会  
(S.40)



小湊タクシー五所営業所  
前 (S.44)



シャチが迷い込んだ五所  
海岸 (S.45)



八幡海岸の埋め立て工事  
① (S.35)



八幡海岸の埋め立て工事  
② (S.37)



埋め立て地側から八幡中  
学校を望む (S.37)



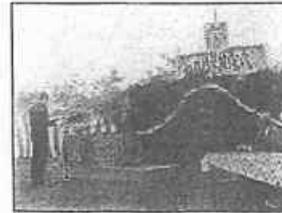
修復する山口達画伯  
(S.47)



交通安全パレード  
(S.52)



## 8. 祭りと伝統行事



市原市市制施行一周年  
(S.39)



区画整理事業説明会  
(S.39)



飯香岡八幡宮境内舞台の  
ミス千葉港 (S.30)



飯香岡八幡宮の祭り  
(S.41)



飯香岡八幡宮秋季大祭①  
(S.49)



飯香岡八幡宮秋季大祭②  
(S.48)



八幡小学校ソフトボール部 (S.30)



海遊び風景 (S.30)

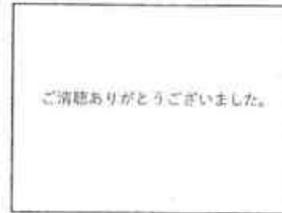


放課後の八幡中学校グラウンド風景 (S.30)

おん  
影  
影  
水  
影



旧織袴跡



干潮時の八幡海岸水門付近での水遊び (S.29)



潮干狩り場に立つ飯香岡八幡宮二の鳥居 (S.30)



干潮時の八幡海岸 (S.32)

おん



埋め立て前の八幡南町風景 (S.32)



五所金杉川 (S.30)



農家の庭先 (S.36)

おん 海

おん... 影 → のりも  
おん... おん... 21

③ 生活の様子は・・・八幡は半農半漁の自給自足的な生活をしていました（資料3）。

# 庶民の暮らし

## 市・庶民の生活

**生業** 平安京初期の庶民の多くは、下級役人や役所の下働きをした「雑色」、貴族邸に仕える「僕（下部）」などとその家族で、多くの者は兼業していた。この他には、京の衣食住を支える人たちが、市で働く「市人」「市女」、店で商売をしたり行商したりする「商人」「販女」、職人の「工」などになる。運送業の「車借」



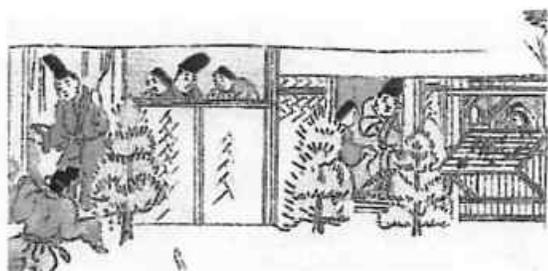
貴族邸に荷物を運ぶ僕  
【年中行事絵巻】から

市に商品運ぶ市女  
【年中行事絵巻】から

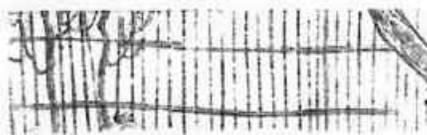
「馬借」、米や金銭の高利貸の「借上」などもいた。

都市として成熟してくると、猿蓑などの芸能者、観女（巫女）などの歌能者、博徒、遊女なども住人となり、諸国からの流民は、職がないと「乞食」になった。

**市** 平安京には、七条に「市司」が監督する公設の東市と西市があった。東市は月の前半、西市は後半の担当で、正午に市門が開かれて日没まで売買が行われた。「市人」「市女」が働き、店は「肆（市座）」と呼ばれ、一つの店では一品しか扱えなかった。東西の市で売れる商品は、共通の



魚屋の軒先 右の魚屋の店先に、鯖や鰯、貝などが並べられ、軒先には網が束ねられている。  
【年中行事絵巻】から



洗濯をする女 井戸端で水をくむ女と、足踏みで洗濯をする女。  
【信貴山縁起絵巻】から

品目と独占の品目とがあり、「銭」が使用されていた。西市は九世紀中ごろには衰退し、東市も「町」と呼ばれる商店街が他所に形成されて平安時代後期には役割を失った。

「源氏物語」「玉鬘」巻に、「あやしき市女、商人」が住む九条に筑紫から上京した玉鬘一行が仮寓したとある。

**食事** 市で売られた食材は、米・麦・塩・醬（現代のなめ味噌のようなもの）・木醬・味噌。現代のものと同じかどうかは未詳）・素餅（麵状の唐菓子）・心天・海苔・菓子・蒜・干し魚・生魚などで、庶民も口に

ていた。肉は、貴族は鳥肉しか食べなかったが、庶民は、鹿・うさぎなども口にしていた。米は、蒸した強飯よりも、粟・芋・大根などと一緒に煮る汁粥にすることが多かった。副食は、生食か塩漬けや酢漬け、または、焼くか煮るかであり、それらは塩や酢につけて食べた。魚介類や野菜を鍋で煮た「羹」と呼ぶ汁物も好まれ、貧民の食事風景が描かれた絵巻物では、五徳の上に鍋を置いて煮る様子がある。

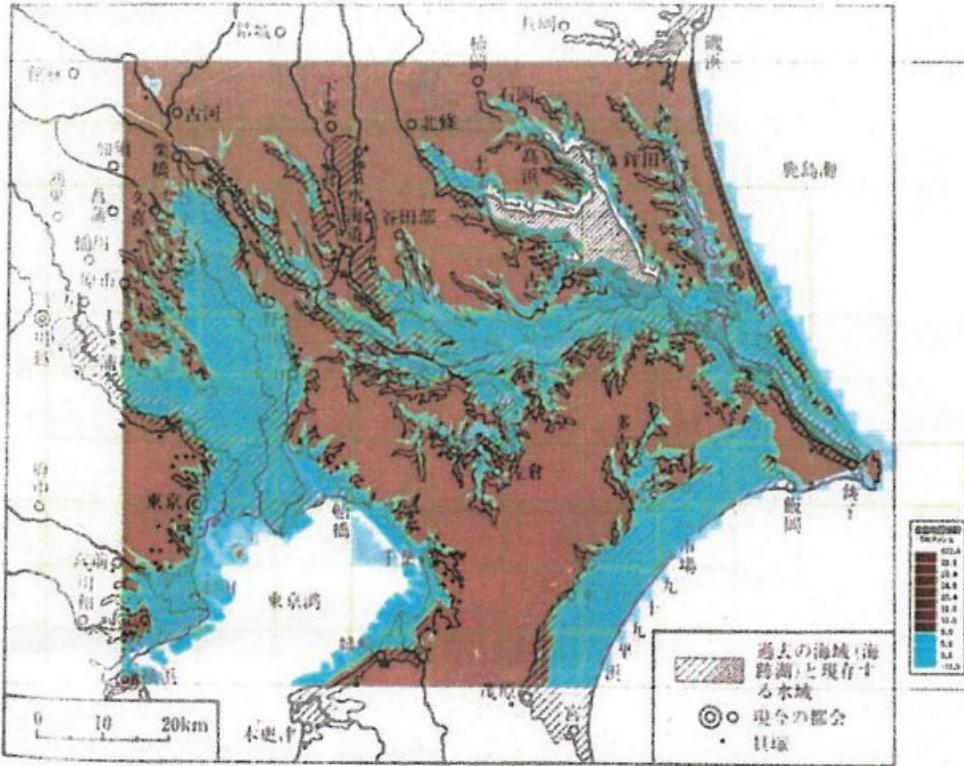
**日常生活** 庶民は、夜明けごろには起きていた。食事は朝夕二回で、昼ごろには間食をした。調理は、貴族と同じく男性がしていた。平安京内では水田は禁止だが、空き地を菜園にしていたので、その世話をしながら各自の生業に従事したらしい。下級官人や雑色などは、午後から本業以外の仕事に就くことができた。家にいる女性は、裁縫や洗濯もしている。家に面した道路の清掃は義務であり、京職（京内をつかさどる役所）の監督を受けた。夜は手内職などをしたようである。

# 千年前の八幡

清和大学 特任教授 小関 勇次

1 はじめに 千年前の八幡を想像してみましょう。

① 自然環境は・・・縄文海進・平安海進の湿地帯の広がる海浜地域を見てみましょう (資料1))



資料1 貝塚夷平他編、2000、東京大学出版会より引用

② 千年前の社会情勢は・・・武士の時代ではないですが不安な世の中でした (資料2)。

平安時代・9~12世紀

## 反乱の時代

資料2 まんが市原の歴史 (市原市教育委員会より抜粋)

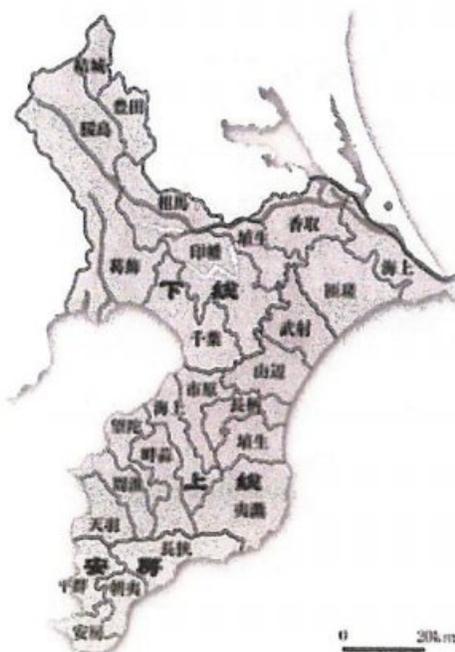
④ 千年前の村は・・・千葉県で一番古い村はどこでしょうか（資料3）。

### 現在地に比定できた郷名一覧

- ・市原郡菊間郷(千葉県)    ・市原郡山田郷(千葉県)    ・市原郡市原郷(千葉県)    ・市原郡海部郷(千葉県)
- ・市原郡湊津郷(千葉県)    ・海上郡馬野郷(千葉県)    ・海上郡佐是郷(千葉県)
- ・海上郡石井(いわい)郷(千葉県)    ・海上郡神代郷(千葉県)    ・海上郡島穴郷(千葉県)
- ・海上郡石田郷(千葉県)    ・海上郡船木郷(千葉県)    ・海上郡城内郷(千葉県)    ・海上郡大倉郷(千葉県)
- ・海上郡横根郷(千葉県)    ・海上郡倉橋郷(千葉県)    ・海上郡三宅郷(千葉県)    ・武射郡押篠郷(千葉県)
- ・武射郡加毛郷(千葉県)    ・武射郡片野郷(千葉県)    ・武射郡長倉郷(千葉県)    ・武射郡新居郷(千葉県)
- ・武射郡大蔵郷(千葉県)    ・朝夷郡御原郷(千葉県)    ・朝夷郡溝祿(まろ)郷(千葉県)
- ・朝夷郡新田郷(千葉県)    ・山辺郡武射郷(千葉県)    ・山辺郡菅屋郷(千葉県)    ・山辺郡高文郷(千葉県)
- ・山辺郡草野郷(千葉県)    ・山辺郡岡山郷(千葉県)    ・長柄郡串持郷(千葉県)    ・長柄郡柏原郷(千葉県)
- ・長柄郡兼陀郷(千葉県)    ・長柄郡刑部郷(千葉県)    ・香取郡香取郷(千葉県)    ・香取郡大槻郷(千葉県)
- ・香取郡磯部郷(千葉県)    ・夷隅郡長狭郷(千葉県)    ・安房郡塩海(しおみ)郷(千葉県)
- ・安房郡神余郷(千葉県)    ・安房郡白浜郷(千葉県)    ・安房郡大井郷(千葉県)    ・葛飾郡栗原郷(千葉県)
- ・長狭郡丈部(はせつかべ)郷(千葉県)    ・長狭郡壬生(にぶ)郷(千葉県)    ・長狭郡伴部郷(千葉県)
- ・長狭郡日香郷(千葉県)    ・周准郡凡田(わだ)郷(千葉県)    ・周准郡山家(やまいえ)郷(千葉県)
- ・周准郡湯坐(ゆえ)郷(千葉県)    ・周准郡三直(みのう)郷(千葉県)    ・周准郡山名郷(千葉県)
- ・周准郡額田郷(千葉県)    ・望陀郡倉戸郷(千葉県)    ・望陀郡鉢富郷(千葉県)    ・千葉郡物部郷(千葉県)
- ・千葉郡山梨郷(千葉県)    ・埴生郡山方郷(千葉県)    ・埴生郡酢取郷(千葉県)    ・埴生郡阿佐郷(千葉県)
- ・埴生郡坂本郷(千葉県)    ・埴生郡埴生郷(千葉県)    ・平群郡川上郷(千葉県)    ・平群郡砥河郷(千葉県)
- ・平群郡穂田郷(千葉県)    ・平群郡石井(いわい)郷(千葉県)    ・平群郡狭隈(さくま)郷(千葉県)
- ・平群郡達良(たたら)郷(千葉県)    ・匝瑳郡須賀郷(千葉県)    ・匝瑳郡幡間(はま)郷(千葉県)
- ・匝瑳郡石室郷(千葉県)    ・匝瑳郡中村郷(千葉県)    ・匝瑳郡田部郷(千葉県)    ・匝瑳郡玉作郷(千葉県)
- ・印旛郡印旛郷(千葉県)    ・印旛郡三宅郷(千葉県)    ・印旛郡言美郷(千葉県)    ・印旛郡余戸郷(千葉県)
- ・印旛郡古高郷(千葉県)    ・印旛郡長隈郷(千葉県)    ・印旛郡船穂郷(千葉県)    ・印旛郡八代郷(千葉県)
- ・印旛郡村神郷(千葉県)    ・天羽郡雨ルウ郷(千葉県)    ・天羽郡調岐郷(千葉県)    ・天羽郡長津郷(千葉県)
- ・相馬郡布佐郷(千葉県)

資料3 和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)で比定できた地名(上一覧表)と千葉県の郡名(下地図)

- ・ 上総国
  1. 夷隅郡：略
  2. 海上郡：略
  3. 山辺郡：略
  4. 望陀郡：略
  5. 市原郡：略
  6. 周准郡：略
  7. 埴生郡：略
  8. 長柄郡：略
  9. 天羽郡：略
  10. 畔蒜郡：略
  11. 武射郡：略
- ・ 安房国
  1. 安房郡：略
  2. 朝夷郡：略
  3. 長狭郡：略
  4. 平群郡：略



・ 参照：「千葉県の歴史」通史編古代2 下巻は略

それでは学校で習った歴史の授業を思い出してみましょう。歴史の学習には年表を使いますね。歴史の流れをつかむために日本の歴史年表を確認しましょう。次に郷土史の年表で調べていきます。時代の大きな流れ（日本の歴史）の中で市原市の歴史や八幡の歴史（郷土史）を比較していくことが大切です。中学校の歴史年表（図1）から千年前を調べてみましょう。

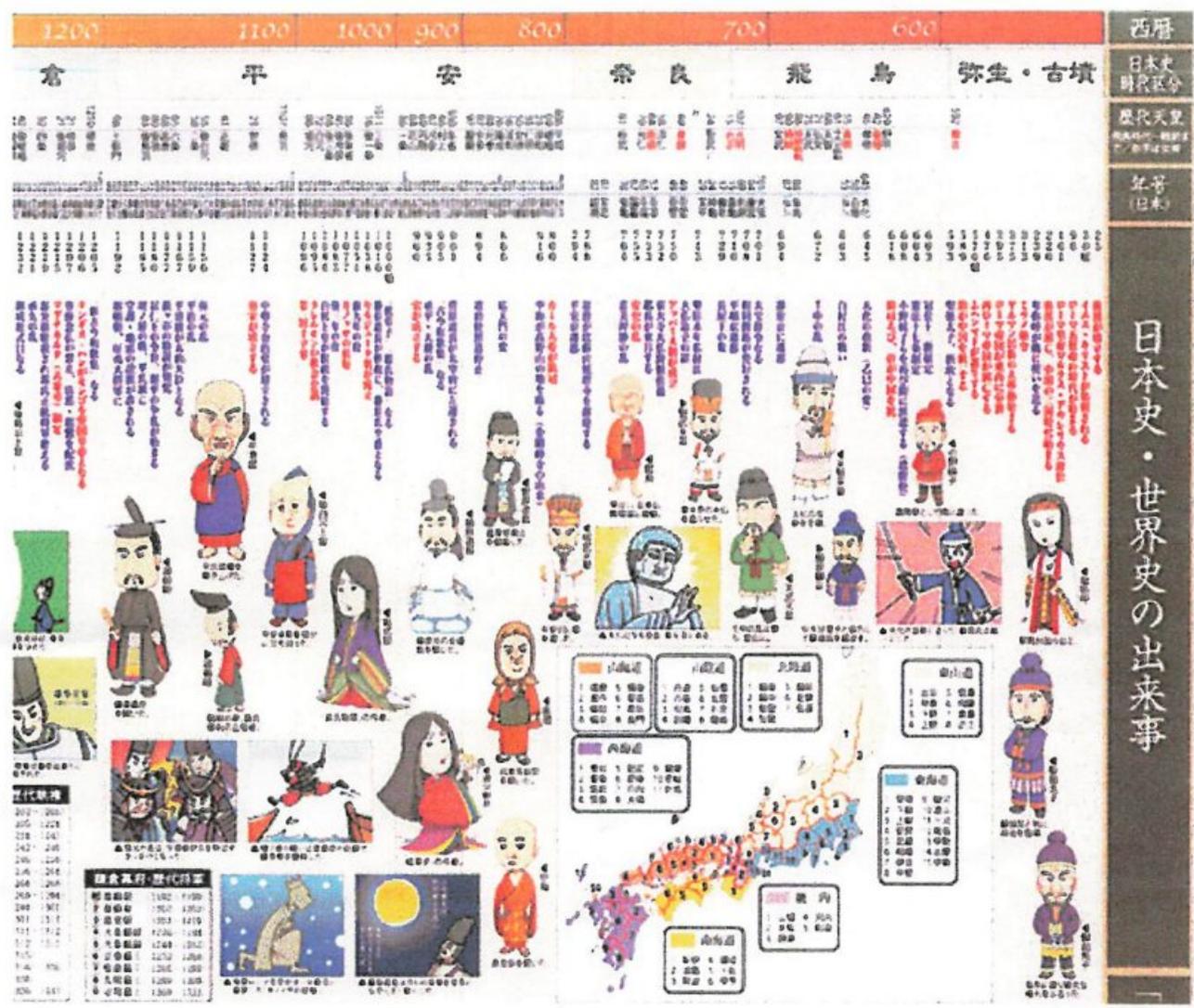


図1 中学校歴史年表 講談社

平安時代ということがわかりました。平安時代は貴族の時代です。平忠常の乱や藤原純友の乱など勃発して武士の時代がすぐそこまで来ています。やがて「鎌倉殿の13人」。次の時代の主役ですね。ヨーロッパでは十字軍の遠征ですからキリスト教的世界観の中世の時代です。年表をよく見ると、1000年頃「枕草子」「源氏物語」とありますね。八幡に關係する偉人というと、菅原孝標の女「更級日記」が同じ時代です。この時代、紫式部や清少納言や菅原孝標の女など宮廷に仕える女性が人間の心・内面を歌い上げる優れた物語や和歌を生み出しています。これらの女流文学を支えた女性達は下級貴族の出身でした。菅原孝標の女は父親が上総の国の国司（受領）でした。この菅原孝標が上総から帰京した年から千年前にあたり、昨年は市原市主催の「更級千年紀」も主催されました。はじめにこの上総国府から考察してみましょう。

### 3 上総国府

国府の都市機能を考えた場合、前述したように中心業務は政治機能です。そのために国府の所在地は中央と地方を結ぶ交通の重要な位置に立地することは明らかです。やがて国府に人口が集中し、経済や文化の中心地としての機能を持つようになると都市域は拡大していきます。このような都市機能から上総国府の立地場所について推定してみましょう。

初期の推定国府は養老川右岸の村上説・総社説が有力でした。それは地政学的に見ても歴史舞台の条件が揃っていたためです。律令国家時代に整備された古東海道は、三浦半島から海を渡る南回りの海路で、鳴穴駅から見ると村上、総社は上総国の玄関にあたります。この村上説・総社説は国分寺の西門から直線上に延びる道路を基軸線として推定されたもので、この基軸線を天平道路として八町四方の広大な国衙域としました（写真1）。ところが、その後の発掘調査で西門から延びる天平道路の時代考証が疑わしいことが埋蔵文化財調査センターの調査から明らかになりました（上総国府推定地確認調査報告書1994）。つまり、国分寺西門は現在より北で確認され、天平道路を基軸線とした村上説、総社説の論拠がなくなったのです。また、この地域では養老川が洪水を繰り返した氾濫原で不安定な地形でした。そのため、低湿地や養老川左岸の海上郡（うなかみぐん）では栽培条件の適した「麻」の生産が古くから盛んで、これは条里区画で整然と整備された市原郡の水田地帯と大きく土地利用が異なります。

しかしながら、上総国では「麻」を貢納物として平安京に運ぶ都合上、この村上、総社の近くには国府津（こうづ）か郡衙としての機能を持つ施設があったのかもしれませんが。

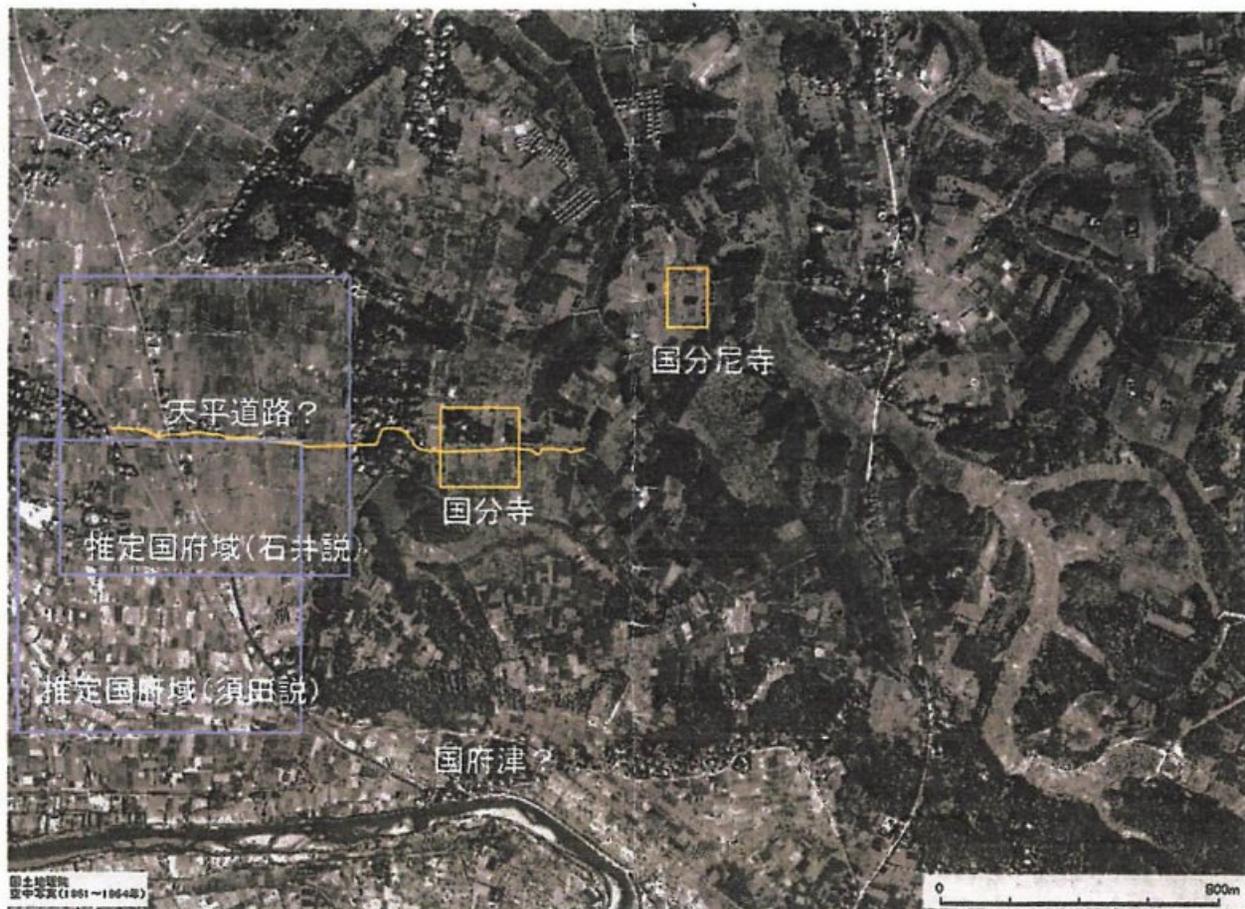


写真1 推定国府 村上（石井）・総社（須田） 国分寺台の開発以前（1964）の国土地理院空中写真に作図

## 2 国府と国分寺

国府とは大化の改新（645年）により中央集権の政治体制確立を目指した大和朝廷が、それまでの国造（くにのみやつこ）などの地方豪族による地方統治から、中央官吏（ちゅうおうかんり）による直轄統治とするために、全国に国府を定め、中央から国司を派遣して、徴税、軍事、治安維持等にあたらせたことに始まります。天皇を中心とする中央集権体制は次第に体制を整えて、大宝律令（701年）の成立によって完成することになります（図2）。

この国府の都市機能は政治的条件がもっとも優先され、地方の役所である郡衙（ぐんが）と中央から派遣された国司の公邸と国庁のある国衙（こくが）を置きます。また、国府は中央と地方を結ぶ官道近くに立地します。最近では地形的観点からみた国府の立地に関する研究も進んでいます。



図2 全国の国府と国分寺

例えば、平野立地型と台地立地型とに分類して、それぞれ国衙域の建物の大きさや方位などを測定することで、国府の立地条件を類型化しています。その概要は以下のとおりです。

- ① 国庁のサイズは概ね90m×110m程度
- ② 国庁正面が南面（向）やや縦長 国庁正面部に高低差を有する
- ③ 安定地形 水利良好
- ④ 台地立地型が多い 平地立地型には盛り土（地形勾配）がみられる
- ⑤ 古代道（駅路）に隣接 国分寺（尼寺）・総社に近接
- ⑥ 周囲に条里区画 六町四方（一辺が約654m四方）の土地区画制度

地形的観点からみた国府の立地に関する基礎的研究 2014 石倉・二井 国士舘大学

一方、国分寺は、741年（天平13年）に聖武天皇（しょうむてんのう）が仏教による国家鎮護のため建立を命じた寺院で、国分寺と国分尼寺に分かれます。律令体制下では宗教的機能と政治的機能の結びつきは強く、国分寺は国府に近接する場所に建立されました。さらに建立の条件として、地形的条件や政治的条件を備えた場所も考慮されました。理想的な建立場所は以下のような条件となります。

- ① 国華として仰ぎ見るのによい地形
- ② 水害の憂いなく長久安穩の場
- ③ 南面（向）の土地
- ④ 人家の雑踏から離れている
- ⑤ 人の集合することに不便でなく、交通至便の地
- ⑥ 条里制区画（六町四方を一里とする方形地割にもとづく土地制度）の拘束を甘受すること
- ⑦ 国府（役所）に近いところ（国司が国分寺を監督したことによる）

国分寺市教育委員会ふるさと文化財課「見学ガイド武蔵国分寺のはなし」1989年 p16-17より

次に台地上の国府の候補地を考えてみましょう。有力な国府の候補地としては市原、郡本（古甲）、能満、稲荷台古墳周辺などがあげられます。これらの説はすべて市原台地上に立地するので、台地上に位置している武蔵国の国府を基準として考えてみましょう。

図3は武蔵国の国府です。国衙中枢建物の内郭の区画幅は約90m×110mと外郭の区画幅が約220m×360mです。これに対して、市原台地は起伏の激しい地形ですから、外郭幅を持つ広大な国衙域は不可能です。内郭幅程度の国庁を建造したことが推定されます。

台地上の推定国府で議論される場所で最も重要な場所は稲荷台古墳周辺です。王賜名鉄剣（おうしめいてっけん）をはじめとする出土品からみても、古代では最も重要な地域と言えます。ここは市原台地上で最も標高が高く、見晴らしが良く、南西方向に国分寺、尼寺が一望できただろうし、古代国家にふさわしいランドマーク的な位置に該当しています。また、近くに古代道路に結ぶ伝路も発掘されています。初期の国庁が置かれていた場所とみるべきでしょう。

ところで上総国に通じる古東海道は初期の段階では三浦半島から海を渡る海路でした。その後、古東海道終点の常陸国から南下、もしくは武蔵国から下総国を経て上総国に向かう陸路が一般的になりました（図4）。この上総国への流入ルートは非常に重要で、上総国府に通じる道路を整備する必要があります。この引き込み道路に該当する古道が発掘されています（図5）。図5のAが現在の五所、Bが五所小学校、Cは条里区画の残る水田地帯、Dは阿須波（あすは）神社です。これは県指定無形民俗文化財「柳楯神事」（やなぎたてしんじ）の渡御ルートとほぼ同じです。平安時代では官道として機能していたことが推定できます。このことから、菅原孝標一行の帰京ルートはこの古道を通過して京に向かったはずです。

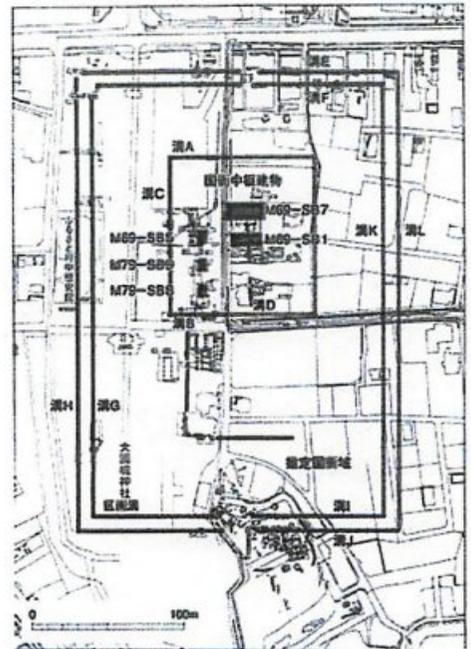


図3 武蔵国の国府（国衙）域



図4 房総の古道と駅路 赤枠が上総国府

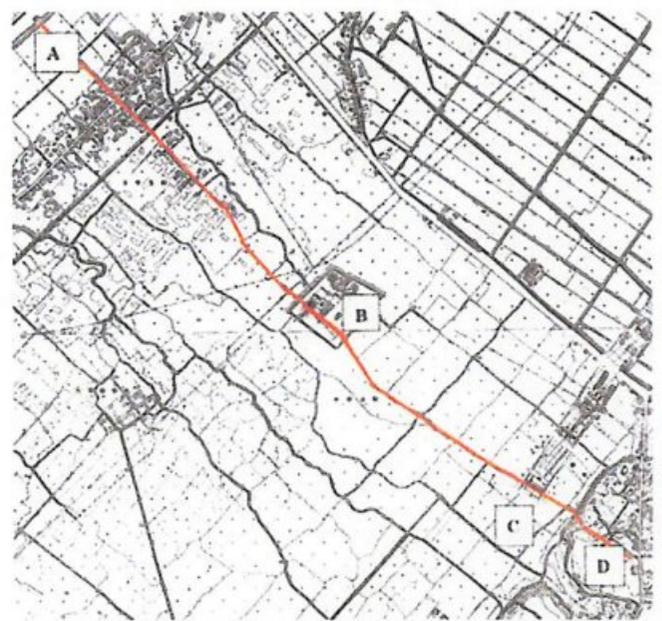


図5 発掘された古代道 オレンジの線が推定帰京ルート

#### 4 更級日記からみた国府

平野と台地の接点にあたる市原、郡本地区は下総国を経て上総国に入る玄関口となり、人的・物的交流のターミナルとなる交通の要地（図6）です。台地下には条里が広がり、東京湾岸では魚貝類の採取など、海山の幸に恵まれた上総国の中心地として発展していきます。さらに人口が増加すると、上総国の役人や官吏（かんり）の業務も煩雑になっていきます。しかし、市原台地は平坦地が少なく起伏の激しい地形であったため、広い国衙域を建造することは不可能でした。かつて稲荷台古墳付近にあった国庁では二千人を超える役人や僧侶が暮らしていましたが、稲荷台古墳から市原まで約3 km（現在の国道297号線）とかなり距離もあります。やはり郡衙と国衙は隣接した方が機能的です。はじめの頃は国庁業務の一部を市原、郡本地区に分散させたのかもしれませんが、国庁も老朽化すれば修改築するでしょうが、国分寺のように永遠に同一の場所ということはありませんので、移転という選択もあるはずです。私の持論ですが、平安時代の中期にはすでに新しい国庁は郡本の古甲（ふるこう）地区に移転したと思われます。この古甲という地名は「古い国府」を意味するだけでなく、「竹ノ内」（館の内）という字地名が残っていますし、四面庇（しめんびさし）といわれる格式の高い建造物の遺構も発見されています。ここが菅原孝標女の暮らした国司館と推定します。それは『更級日記』の中で彼女は、富士山について「わが生い出でし国には西面に見えし山なり」と記述しています。西面に富士を望み、古道に接続する古甲はこの条件に合致します。

昨年の夏、信濃の更級を取材して長野歴史館の学芸員と信濃国府の所在について懇談する機会を持ったのですが、偶然にも信濃国の国庁は千曲川沿いに何度も移転していました。今後の調査ではどのように国庁が移転（変遷）したかに重点を置くそうです。上総の国府論争の一助となれば幸いです。

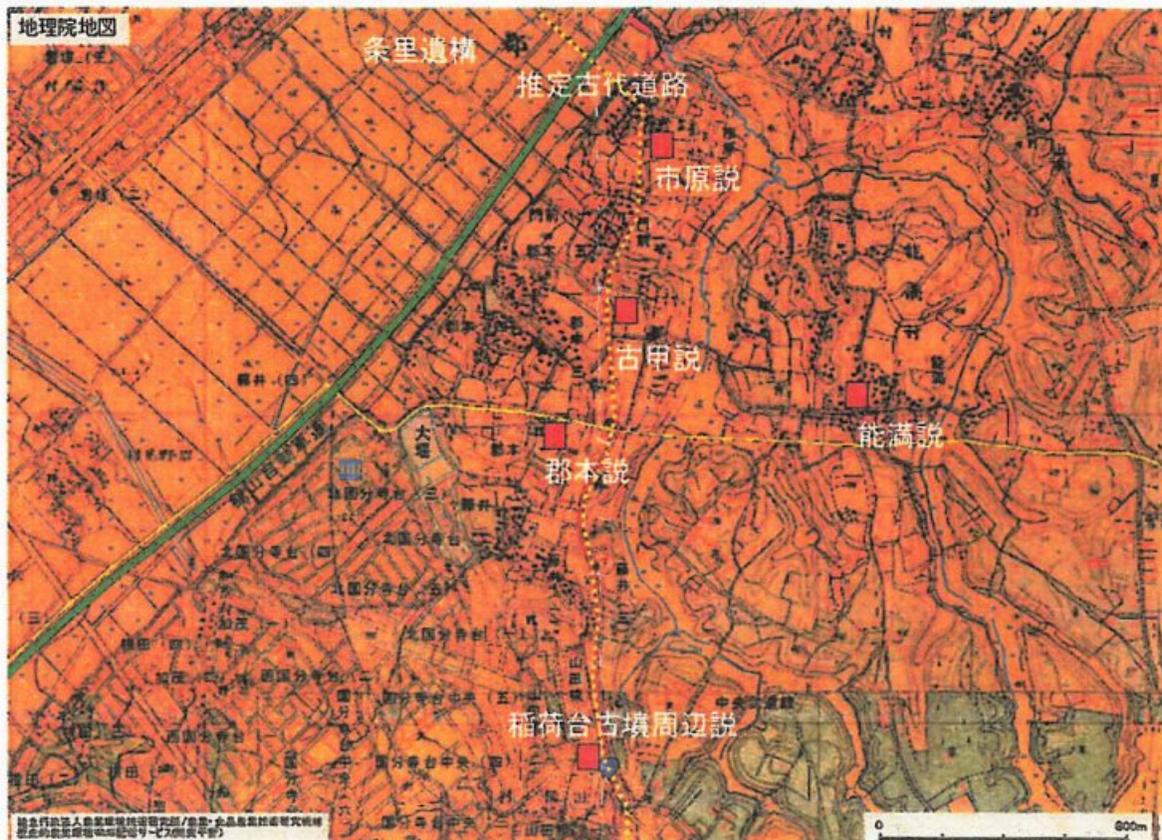


図6 市原台地における推定国府 ■ 国衙内郭域として90m×110m・南向き・平坦面を条件で配置

原地形のわかる迅速測図上に推定古代道路.....を表示

## 5 市原条里遺構から千年前のくらしを想像する

市原条里制遺跡は、村田川から養老川にはさまれた通称「市原台地」下の低地部に位置し、北は千葉市との境から南はJR五井駅東口付近、東は台地直下から西は市道平成通りに及ぶ、たいへん広範囲の遺跡です。

本来条里制遺跡は、古代の律令制班田開発のための、大規模水田耕地開墾区画整理の跡を意味しています。八幡周辺では千葉県立八幡高等学校前のスポレクパーク敷地南側の館山自動車道側道から、市道「平成通り」手前までの全長680mの区間が条里遺構です。この範囲には古代道路も発掘され地方と中央を結ぶ道で、菅原孝標一行の帰京ルートもこの古道と推定されます。

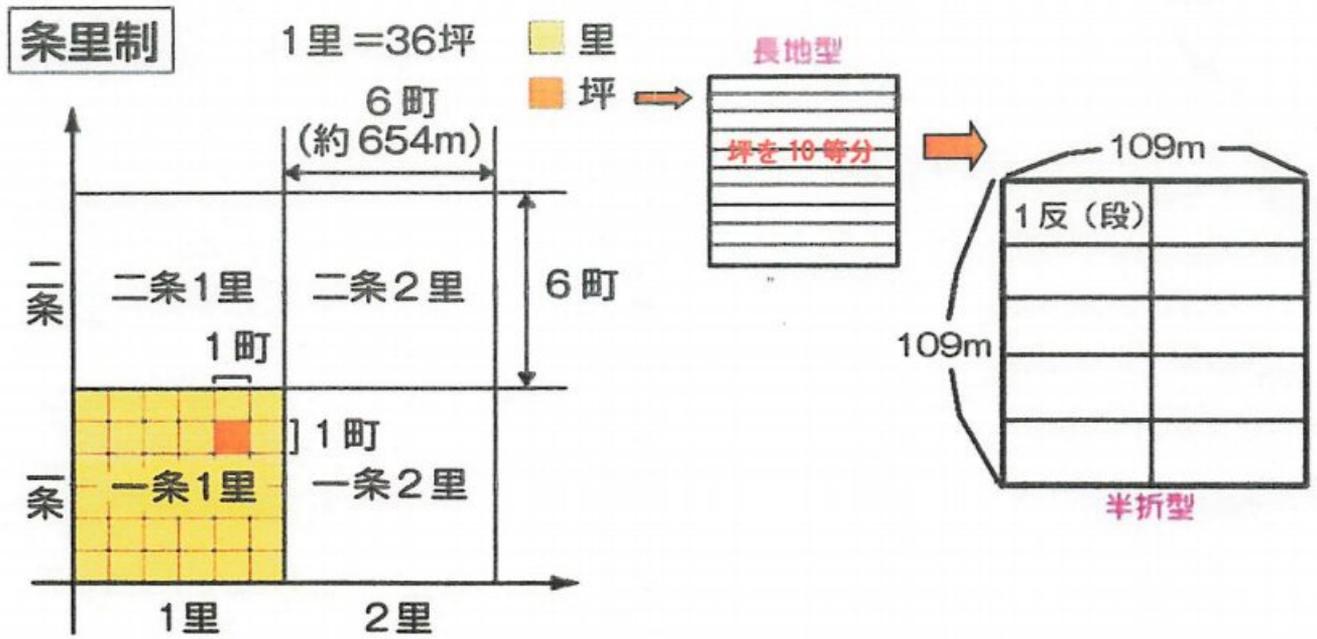
さて、千年前の八幡の写真2をご覧ください。といってもこの写真は昭和33年に撮影（「市原市の100年」より）されたもので、阿須波神社から飯香岡八幡の社を望んでいます。なんと手前に広が水田は発掘された条里遺構をそのまま再現しています。遠くにかすんで見えるのが八幡です。



写真2 市原条里遺構 市原の100年より

小さな田んぼは口分田くちぶんでんといひます。要するに土地を私有として税金（年貢）をとるためです。大化改新以後、口分田は全国にわたって全国民に実施するたてまえでした。しかし、実施が遅くなったところや、平安時代初期には口分田を与えられない農民も生じました。また、農民の側にあっても戸籍を偽り、口分田の売買、質入れをする者も出たり、10世紀初めにはほとんど崩壊するにいたっています。

ただ、口分田の土地割りは現代まで続き（耕地整理が行われる前まで）、現在の田んぼサイズの原型になっています。



- ・条里のサイズ 一片の距離は (①) m
  - ・坪の1辺の長さは何メートルか? (②) m ・坪の10等分を何というか? (③)
  - ・1反の短辺は (④) m 長辺は (⑤) m
  - ・口分田は男が (⑥) 反 女にその (⑦) 反の土地を与えた。
  - ・大婦に子どもが長男・次男・長女・次女の6人家族の場合、家族合計の口分田は何反か(⑧)
- 条里復元には人工改変のない地域や耕地整理のない時代の資料を用います。写真3は市原条里跡の空中写真(1964年)です。この写真に条里を復元してみましょう。

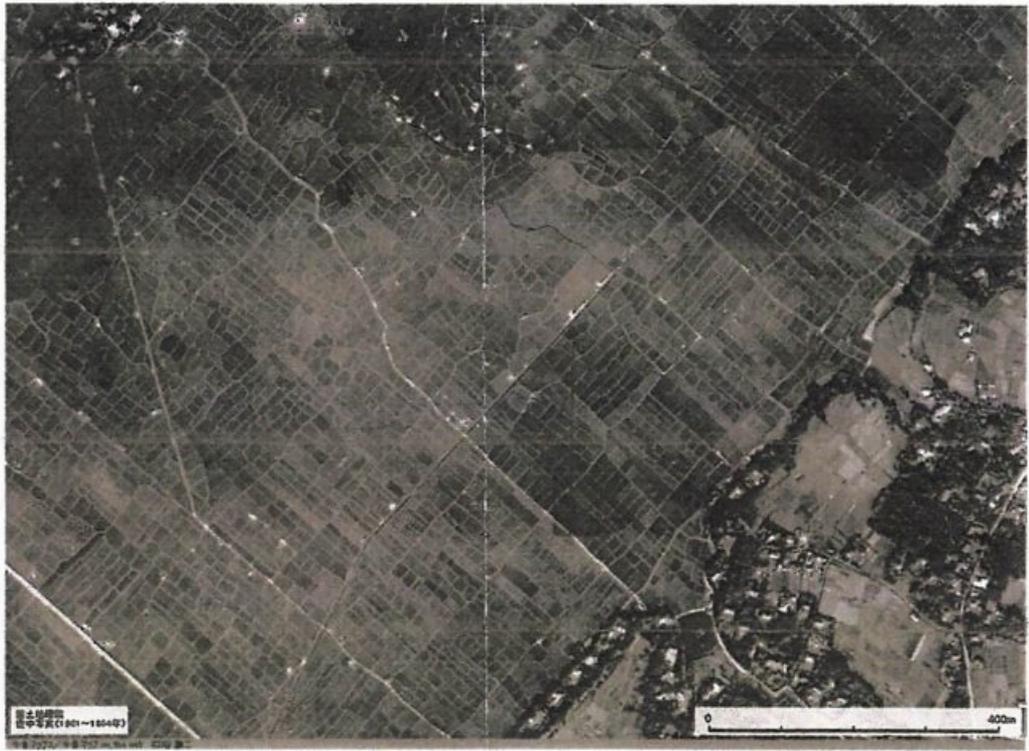


写真3 市原条里空中写真 10

221011(火)

「八幡史学館」第17シリーズ 第5回

# 市原の出羽三山信仰

鎌ヶ谷市郷土資料館

学芸員(再任用)：立野晃

## 1 はじめに

○原体験

## 2 講について

### (1) 講とは

#### ① 講会

#### ② 近世～近代は民衆による講の時代

#### ③ 現代化の中で消滅した講

経済更生運動／太平洋戦争前後／高度経済成長期／昭和末～平成初年

### (2) 講の分類

#### ① ムラの講…信仰対象がムラ(大字)内にあり、定期的に集まりを持つ。年齢階梯

別・性別に集団を作っていることが多い。

→天神講、子安講、念仏講、題目講、庚申講、観音講、地藏講  
など

#### ② 参拝の講…ムラ外にある著名な霊山・寺社などを参拝することを主目的として結成

○代参講：籤や持ち回りで選ばれた少人数の者が1か所の遠隔地の霊地を参拝

○巡拝講：多人数が比較的近隣の複数の霊地を参拝

・八十八か所札所巡拝(大師講)

・観音霊場三十三か所巡拝(西国・坂東・秩父など)

#### ③ その他(職人の人たちの講、経済的な目的で結成された講)

太子講、無尽講(頼母子講)など

### (3) 房総地方の代参講

出羽三山講(奥州講・八日講など)、富士講、大山講、三峰講、御岳講、  
武州(武蔵)御獄講、古峰講、板倉講、雷神講(金村講)、大杉講、

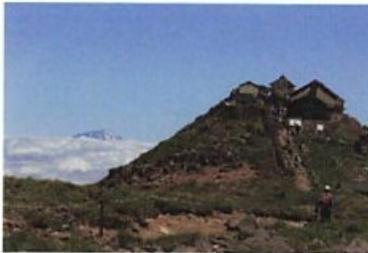
みのぶ とがくし はるな かとり かしま やまくら てこな  
 身延講、戸隠講、榛名講、香取講、鹿島講、成田講、山倉講、手児奈講、  
 かろうざん ぜんこうじ あさば いせ こうやさん こんびら  
 鹿野山講、善光寺講、秋葉講、伊勢講、高野山講、金比羅講 など

### 3 出羽三山講の歴史の変遷

#### (1) 出羽三山信仰の概要

##### ①出羽三山

山形県の中央部に位置する月山<sup>がつさん</sup> (1,980m)・湯殿山<sup>ゆどの</sup> (1,504m)・羽黒山<sup>はぐろ</sup> (419m)の総称



月山



湯殿山



羽黒山

##### ②古代よりの信仰の山

- ・山麓地方では、祖霊<sup>そらい</sup>のこもる山(「山中他界<sup>さんちゆうたかい</sup>」)として考えられ、また水の神あるいは農耕の神として信仰される
- ・蜂子皇子(崇峻天皇の第一皇子とされる架空の人物)の開創伝承
- ・東日本における修験道<sup>しゆげんどう</sup>の修行道場の一つ→羽黒派<sup>やまぶし</sup>の山伏  
 cf 大峰山<sup>おおみね</sup>(奈良県)を修行道場とする本山派<sup>ほんざん</sup>(天台宗系)・当山派<sup>とうざん</sup>(真言宗系)の山伏

##### ③民衆の出羽三山登拝

- ・中世末以降、特に近世に入ると、東北・関東地方中心に村単位の代参講が結成され、盛んに登拝
- ・「(出羽)三山講」「奥州講<sup>おうしゅう</sup>」など様々な呼称

#### (2) 関東地方への展開

- ①「羽黒山中興<sup>ちゆうこう</sup>の祖」別当天宥<sup>べつとうてんゆう</sup>  
 ・寛永18年(1641)、東叡山寛永寺の初代别当天海<sup>てんかい</sup>の弟子となり、天台宗系となる  
 cf 湯殿山は真言宗系
- ・承応2年(1653)、江戸に「十老(行人頭<sup>じゅうろう</sup>)」、地方に「錫杖頭<sup>しやくじょうがしら</sup>(のち「触頭<sup>ふれがしら</sup>」「袈裟頭<sup>けさがしら</sup>」)をおき、関東地方への進出をはかる

②羽黒派の里修験と山伏寺

延享3年(1746)の調査によると、関東8国+信濃・駿河・遠江で合計1,390寺

(3) 御師と檀那場

①「八方七口」の登山口(図1)

〈庄内〉手向、七五三掛、大網(いずれも現鶴岡市)

〈最上〉肘折(現最上郡大蔵村)

〈村山〉本道寺、岩根沢、大井沢(いずれも現西村山郡西川町)

※最大かつ関東地方の登拝者が最も利用するのは手向口



図60 出羽三山の八方七口  
岩鼻通明『出羽三山信仰の歴史地理学的研究』より転載

図1 出羽三山の八方七口



手向の集落



宿坊の神林坊

②御師の活動

- ・御師=特定の信者と師檀関係を結び、その人々のために守札などを配布したりして御祈禱を行い、その代償として米銭などの寄進を得る宗教者
- ・門前や登山口で宿坊を経営し、信者を宿泊させる
- ・信者が登山・参拝する際には、先導する(先達)

- ・手向口には、文政7年(1824)段階で336軒の宿坊が存在(→現在は約30軒)
  - ・出羽三山の御師の場合、信者の住む村とは代々師檀<sup>かすみば</sup>関係を持ち、それを震場<sup>だんなば</sup>(東北地方)・檀那場<sup>だんなば</sup>(関東地方)などとよび、御師同士では売買の対象となった
  - ・冬季に震場や檀那場を廻り、出羽三山の御札(火防<sup>ひぶ</sup>せの黒牛<sup>さんめんたいこく</sup>・三面大黒などの絵札)を配るとともに、登拝<sup>だんなまわ</sup>を勧誘<sup>だんかい</sup>(「檀那廻り」「檀廻」)
  - ・御師の呼称は「××坊」
- ※市域に関係する主な御師は養清坊<sup>ようせいぼう</sup>・正伝坊<sup>しょうでん</sup>・大江坊<sup>おおえ</sup>(長存坊<sup>ちようぞん</sup>)・西蔵坊<sup>さいぞう</sup>・中將坊<sup>ちゆうじやう</sup>・勝木坊<sup>かつぎ</sup>・大進坊<sup>だいしん</sup>・神林坊<sup>かんぼやし</sup>など

③「関東檀那場御祈禱帳」

・宿坊への宿泊者の氏名・年月日が村ごとに書き記された帳簿



神林坊の「関東檀那場御祈禱帳」

(4) 房総への出羽三山信仰の展開

①出羽三山講の分布状況(図2)

- ・ほぼ全域に分布
- ・市原・袖ヶ浦・木更津の各市など上総地方西部に濃密に分布
- ・九十九里地方中南部(「七里法華」<sup>しちりぼつけ</sup>地帯)に空白地域
- 市域では、旧湿津・市東村域一円やその他の日蓮宗地帯

②房総における出羽三山信仰の始まり(「関東檀那場御祈禱帳」と金石資料より)

- ・県内最古の出羽三山塔  
上総国市原郡青柳村(現市原市)の寛永7年(1630)の大日如来像台座
- ・最古の出羽三山登拝記録  
上総国武射郡木戸村(現山武市)の慶安4年(1651)  
(cf 下総国海上郡岩井村(現旭市)では寛永5年(1628)に登拝した記録があるという)

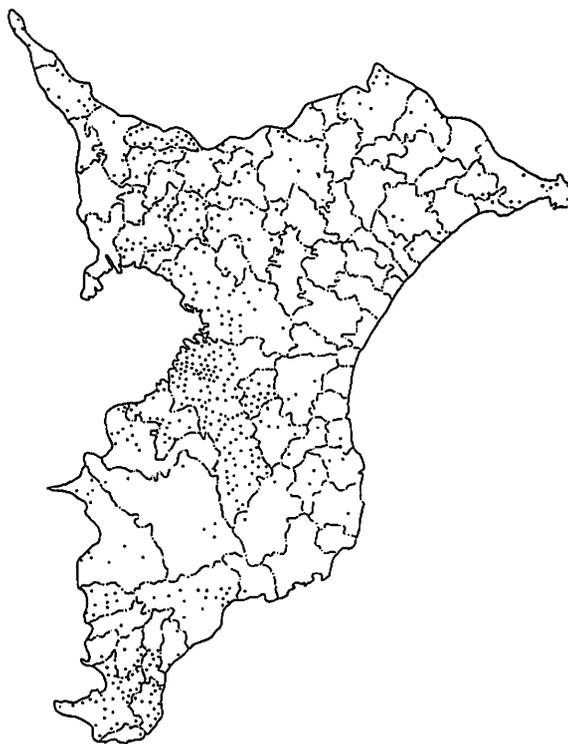


図61 房総における出羽三山講の分布  
千葉県立上総博物館・企画展「出羽三山信仰」パンフレットより転載

図2 房総地方の出羽三山講の分布

表2 養清坊への宿泊人数の変遷

表119 養清坊への宿泊人数の変遷

年代	安房	市原	長柄	天羽・望陀	千葉	葛飾	合計
1673~1682	0	42	0	0	10	12	64
1683~1692	0	64	10	0	12	0	86
1693~1702	17	64	0	0	13	6	100
1703~1712	11	231	0	0	41	52	335
1713~1722	31	297	49	13	0	4	394
1723~1732	54	181	23	0	0	7	265
1733~1742	21	232	62	0	1	4	319
1743~1752	39	276	31	19	16	5	386
1753~1762	21	292	29	22	16	18	398
1763~1772	28	249	68	30	29	18	422
1773~1782	28	587	96	28	44	22	805
1783~1792	28	259	51	10	11	29	388
1793~1802	37	446	80	4	40	10	617
1803~1812	36	432	54	12	44	14	592
1813~1822	42	379	39	10	23	22	515
1823~1832	38	519	30	2	35	0	624
1833~1842	24	336	23	0	10	0	393
1843~1852	6	365	32	10	38	20	471
1853~1862	8	237	10	0	4	13	272
1863~1872	3	327	8	0	0	12	350
年未詳	7	262	74	19	0	8	370
合計	479	6077	768	179	387	276	8166

附官(代参)は含めていない  
山形県鶴岡市屋野家(養清坊)文書より作成

表1 市域の出羽三山登拝の始まり

表117 養清坊・正伝坊  
檀那場村々の初登拝年代

年代	養清坊	正伝坊
延宝(1673~1681)	3	0
天和(1681~1684)	0	0
貞享(1684~1688)	0	0
元禄(1688~1704)	10	10
宝永(1704~1711)	11	12
正徳(1711~1716)	2	5
享保(1716~1736)	11	1
元文(1736~1741)	1	0
寛保(1741~1744)	0	2
延享(1744~1748)	2	0
寛延(1748~1751)	0	0
宝暦(1751~1764)	0	1
明和(1764~1772)	0	1

「市原市史 中巻」より作成

・一般的には、一部の村で延宝年間(1673~81)に、大半の村では元禄~享保年間(1688~1736)に登拝が始まる(表1)

③出羽三山登拝者の変遷

(養清坊の事例:表2)

- ・18世紀後半~19世紀前半が江戸時代におけるピーク
- ・幕末・維新期に落ち込み
- ・上総国市原・望陀・長柄郡や下総国千葉郡などでは明治期に復活、一方他の地域では衰微したまま

## 4 出羽三山講の民俗

### (1) 奥州参り(出羽三山登拝)

①「男は一生に一度は出羽三山に登拝するもの」という観念が存在(西上総地方)

※近代以後? : 近世のうち、1回の登拝者数は4~5人程度(代参<sup>だいさん</sup>)

※特殊な登拝: 女性のみ、親子、夫婦などを少数確認

→講による登拝ではなく、巡礼<sup>じゆんれい</sup>?

②道中日記(房総全体で明治初年までの事例が20例確認)

・上総<sup>かずさ</sup>国市原郡<sup>かやはし</sup>栢橋村(現市域)の天保4年(1833)の例

※三峰山・秩父<sup>みつみね</sup>観音<sup>ちちぶ</sup>霊場<sup>かんのんれいじょう</sup>三十四か所(以上現埼玉県)、榛名山・伊香保(以<sup>はるな</sup>上現群馬県)、善光寺<sup>ぜんこうじ</sup>・戸隠山<sup>とがくし</sup>(以上現長野県)なども巡り、37日間

③登拝の時期

・旧暦6~7月(現在の7~8月)がほとんど

→梅雨明け直後の天候の安定、比較的農業(稲作)が手透きの時期

④登拝の持つ意味

・「行人<sup>ぎやうにん</sup>」になる資格を持つことができる

※自らの住むムラの外(=他界)を遍歴あるいは霊山に登拝した(=死)のち帰郷した(生き返り)人は、信仰的に優れた呪力<sup>じゆりよく</sup>を持つ(「擬死再生<sup>ぎしさいせい</sup>」)

※出発に際しての前行(立行<sup>ぜんぎやう</sup>)とボンデン(梵天<sup>たちぎやう</sup>)

※水<sup>みず</sup>杯<sup>さかすき</sup>・坂(境<sup>さか</sup>)迎えや氏神(鎮守<sup>むか</sup>)・道祖神<sup>うじがみ</sup>などへの無事祈願(ちんじゆ どうそじん)

・年齢階梯集団への加入資格の獲得や農作物の技術・品種の習得、社会的な見分・体験、同行<sup>どうぎやう</sup>の絆<sup>きずな</sup>の強化などの意味もある

### (2) 定例の民俗行事

#### ① 行屋<sup>ぎやうや</sup>

・精進<sup>しやうじん</sup>潔斎<sup>けつさい</sup>ができるように川などの近くに建てられた、行人たちが寝泊まりするための小屋(1~2間+土間)

※一般の村人による行屋見舞

・大日如来像などが安置された仏壇<sup>ぶつだん</sup>と囲炉裏<sup>いろり</sup>、煮炊き用の竈<sup>かまど</sup>がある土間<sup>どま</sup>

・「行屋言葉」を使用したり、独特の禁忌がある

・行屋の歴史資料→埋もれているものが多数あると予想→後述

ex 一宮<sup>だいにちどう</sup>大日堂<sup>ちやうせい</sup>行屋旧蔵文書〔長生郡一宮町〕(睦沢町立歴史民俗資料館蔵<sup>むつざわ</sup>)

総点数: 1,154点(明治12年<1879>~平成18年<2006>)

・古くから存在する建物と公民館などに建て替えられたものを使用する場合があります



行屋（市原市八幡）



出羽三山講の行衣(当館整理番号1326865)

三山講の行人が亡くなると行衣を着せてお棺に入れるということから、行衣が行人の没後に残ることは稀だという。展示の行衣は遺族により残されたことで、このたび展示されることとなった。使用者は市原市の人で、羽黒山養清坊を宿坊にしたという。

行衣

## ② 行衣

- ・ 行人が登拝や行事の際に身に着ける白装束。亡くなった時に、遺骸といっしょに棺に入れて葬る

## ③ 様々な行

- ・ 正月行・盆行、正五九の行（2～4日間）
- ※辻切り（辻ボンデン）
- ・ 仕付け行、疱瘡祈禱、天気祈禱、雨乞い祈禱→ムラの祈禱者集団
- ・ 百八日の行：満行によって本当の行人になれる

## ④ 八日講

### (3) 行人の死に関する民俗

#### ① 供養塚（梵天塚・行人塚）

- ・ 墓地もしくはムラを見下ろす台地上に立地する三段の方形の塚
- ・ 出羽三山を身近に再現：死後に行人たちの霊がこもると考えられていた
- ・ 墓地にある場合は、この周囲が行人の墓域とされる
- ※行人と非行人（女性、子ども、出羽三山に登拝していない男性）を区別
- ・ 市原市内の供養塚は、江戸時代に築かれたものが103基、古墳を改作したものが16基、合計109基が確認されている（消失ものを含む）。

（インターネット版「市原市埋蔵文化財調査センター研究ノート」29所収の「出羽三山信仰の考古学 市原市域1」〈牧野光隆氏〉）

#### ② 葬礼の際の特殊な儀礼

※ボンデンや鳥居などを立てる

③出羽三山の山号（神社名）を刻んだ墓石



供養塚（市原市山倉）



図版-67 ボンデン

ボンデン〔梵天〕（鎌ヶ谷市栗野）

(4) 梵天供養

①供養の事例

○上総国市原郡小草畑村（現市内）で安政2年（1855）に行われた供養の記録  
 供養塚は、山頂にある三段の塚で、その規模は根置きが10間（約18m）四方、上段が6間（約11m）四方である。そして、塚には304尊の梵天（内、真体の梵天は高さ3丈余（約9m）、村々より納めた梵天は20余りで、高さ1丈8尺（約5・4m）～3丈）が建てられていた。この付近には、1万2、3000人余りの群衆が供養を見ようと押し寄せていた。供養の行列は次の通りである。大導師は市原郡米原村（現市原市）大通寺（曹洞宗）、御供は夷隅郡横山村（現大多喜町）宝聚院（曹洞宗）、村内金光寺（曹洞宗）、それに数十人の白衣（行衣）の行者（行人）が続いていた。取持の村（ツキアイムラ）は、田尾村・平蔵村平沢・同堀切・山小川村・新井村・月出村・古敷谷村・吉沢村（ともに現市原市）の8村で、村々はいずれも、高さ1丈2、3尺（約3・3～3・6m）から3丈の美しい細工の飾り物（万灯）を持っていた。また、取持村の若者たちが、きらびやかな衣装を身にまとい、手には鍬・小さな幣束・とび口などをもち、猿楽や田楽ともちがう踊りをしていた。供養のありがたい安養浄土の仏菩薩の御前におもむいたようであり、おもしろいことは宿所に帰って三日三夜語るとも尽きない」（「供養一見」意訳）

（→まもなく開館する市原歴史博物館の常設展示）

## ②供養の意味

- ・行人の逆修ぎやくしゅう：生前に木製の梵天（「腰梵天」「剣梵天」）を供養塚に納める
- ・ツキアイムラだし まんどう（山車や万灯を繰り出し、お祝いにかけつける）  
→個人の葬式の時の近い親戚に相当
- ・「酔いつぶれた（酔い倒れた）人が多いほどいい供養」  
→昭和30年代後半で「大供養」は行われなくなる（以降は「アサメシマエクヨウ」）

## (5) 出羽三山塔

## ①種類

- ・供養塔：梵天供養の際に供養塚に造立
- ・参拝記念塔（碑）：鎮守境内などに造立  
（このほかに石造奉納物〈手水鉢・狛犬など〉・先達頭彰碑、せんだちけんしやう えま（絵馬））

## ②供養塔の分類

- ・像塔：大日如来像こんごうかい たいぞうかい（金剛界、胎蔵界）
- ・文字塔：湯殿山・月山・羽黒山の山号を刻む

- ・おおむね明治5年（1872）以前は、湯殿山を中央にして一段高く刻む
- ・明治6年以降は、月山を中央に一段高く刻む。また、山号の下に「神社」や「大神」が付け加えられ、羽黒山ではなく出羽神社が刻まれる場合もある

- ・近世造立の塔に三山の各本地仏の種子が刻まれている場合もある

湯殿山 = 大日如来 = アーンク、バーン  
 月山 = 阿弥陀如来 = キリーク  
 羽黒山 = 聖観音 = サ



出羽三山塔（大日如来像塔）



出羽三山塔（湯殿山中心の文字塔）



出羽三山塔（月山中心の文字塔）



出羽三山塔で使用される種子①

出羽三山塔で使用される種子②

- ③他と習合した供養塔
- ・六十六部の日本廻国供養塔との習合〔上総〕
  - ・百観音（西国・秩父・坂東）との習合〔下総〕

(6) 市原市域の出羽三山講

①上高根の事例（千葉県指定無形民俗文化財（平成13年（2001）指定））

A) 市原市教育委員会ホームページ掲載記事

（中略）出羽三山信仰が最も顕著な地域は上総地方、特に市原市周辺で、ここでは俗に三山と称している。ほぼ集落ごとに供養塚や、行人たちが祈禱などを行う「行屋」が設けられている、上高根地区はその中でも典型的な三山信仰をよく残している約150戸の集落である。

行人によって敬愛講社が構成され、八日講や二十日講など毎月行屋に集まって祈禱し、囲炉裏を囲んで共同飲食を行うほか、夏には出羽三山に登拝し、供養塚に梵天を納めるとともに八社参りと称して、近辺の8か所の行屋に参ることなどが今でも活発に行われている。

社会構造の変化に伴って本来の形態が失われることの多い民俗行事のなかで、伝統を守り続けている上高根の三山信仰は、千葉県の民俗を代表する文化財といえる。

B) 立野調査（昭和56年（1981）3月）

○行屋（別称「大日堂」）

- ・ヤツ（谷津）の中にあり、かたわらに湧き水。もと寺があったところという。
- ・木造寄せ棟造りで、内部は4間（土間、ホドバ、八畳の間、十二畳の間）。八畳の間は拝みが行われる場で、奥に木造大日如来像が安置された祭壇が

ある。壁には、額や絵馬などが掲げられている。土間にはカマドがあり、調理用具や薪が置かれている。ホドバは囲炉裏がある板間で、以前はこの部屋で煮炊きをしていたというが、この時点で使用されず、調理は十二畳の間で行われるようになっていた。八畳の間に掲げられている奉納物の中で、最古は嘉永7年（1854）のもの絵馬。

#### ○八日講と二十日講

- ・八日講は行人が毎月8日に行屋に参集して「拝み」の詞をあげた後に共食するという内容。二十日講も同じ内容で毎月20日に行うものであるが、起源は新しく、昭和40年代半ばころに始まったものという。行人の中で実際に集まることのできるお年寄りのレクリエーションの機会を増やすためであったという。
- ・昭和56年3月20日に行われた二十日講は次の通りの内容。午前9時に行屋へ集合（この日参集した行人は9名）。11時になるとホラ貝が吹き鳴らされた後、八畳の間で「拝み」が開始され、「三山拝詞」「般若心経」「不動経」の順に唱えられる。終わると共食となる。料理は、豆腐と野菜の煮込み、豆腐の煮物、大根おろし、ほうれん草のおひたしなどで、肉を一切使っていない。

#### ○行

- ・年間4回の行をおこなう。
- ・大寒の日（毎年1月20日ころ）に行うのが正月行（寒行）で、この時は前日から行屋に泊まり込む。以前は「三日行」「四日行」とも言われていたという。行の期間中は、行屋の囲炉裏の火は絶やさなかった。当日はボンデン（梵天）が1本作られ、行屋の前にあるイチョウの巨木にくくりつけられる。ボンデンの作り方は次の通りである。長さ約2mに伐った竹の先に藁苞を巻き付ける。それに、オカシラ（1本）、サンカク（3本）、カラボウ（3本）という名称の3種類の幣束と榊の枝をさし、オタレとよばれる切り紙を3か所に垂らす。また、藁苞に特殊な結び方をした袈裟を巻く。竹の真ん中付近にリョウブとよばれる幣束を2本くくりつける。
- ・毎年節分の日（2月3日ころ）には節分会を行う。前日、行屋に伝わる古い版木で元三大師の御札を刷っておき、これを当日各戸へ配布する。家々ではこれを玄関に貼っておく。こうしておけば魔除けになるのだという。
- ・毎年7月20日・21日の両日には土用行が行われる。正月行と同内容。
- ・土用の丑の日には、川垢離が行われる。沢辺（大字馬立内の地区）を流れる養老川にかかる二瀬橋まで出かけていき、そのたもとで川の水を浴びる。

#### ○奥州参り

- ・「男は一生に一度は出羽三山登拝を行わなければならない」と考えられている。
- ・宿坊は手向口（現山形県鶴岡市）の西蔵坊。ちなみに、最古の登拝は、天和元年（1681）の19名。西蔵坊の上総地域檀那場では最も古い。（文献⑨）

- ・登拝する年齢は、以前は跡継ぎとして切り盛りする者がいなければ長期間家をあけておくことができなかつたため50~60歳の人が多かつたが、この時点では30~40歳の人が増加していた。該当する年齢の人は、古行こぎよう（すでに「奥州参り」と供養くようをすませた人）や宿坊の主人の勧めに従って、連年もしくは数年間隔で登拝する。1回の登拝者の人数は、2、3人から多い時で50人くらいである。
- ・登拝は、出羽三山の山開き期間の関係で7~8月に行われる。
- ・出発の前日、古行たちは登拝者しんぎよう（新行）の人数分のボンデンを作り、行屋の前に立ててお祓はらいする。但し、1本1本を個人に特定することはしない。もし、決まっていると、その人のボンデンが倒れた場合、残った人たちが気を病むからである。
- ・「奥州参り」の期間中には、毎日朝早く新行の家族がオサゴを持ってボンデンをお参りする。これをルスマイリという。
- ・新行が無事帰村すると、翌日このボンデンはオツカ（供養塚）に納められる。
- ・登拝当日を特別な日と見なして、残った年寄りの行人たちが、行屋に集まり、無事登拝できるよう祈願する。これを「お山祝い」という。
- ・新行たちは帰村後に「八社参りはつしやまい」を行う。これは近隣の行屋を廻り、「奉修三山参拝大願成就」などと印刷された御札おふだを貼ってくるというものである。上高根の場合、南岩崎みなみいわさき・寺谷てらやつ・根本ねだ・枝えだ・上原あず・沢辺こうざか・田村あずを廻り、上高根と合わせて八社となる。古くは「百八社参り」といい、中高根あず・安須こうざか・高坂あず・土宇つちうなど、現在より多くの行屋を廻っていたという。

#### ○供養

- ・出羽三山に登拝すると、宿泊した坊でコシボンデン（「腰梵天」「輿梵天」、別称「ボッケン」という木札を各自1本ずついただいてきて、自宅に保存しておく。地区中でコシボンデンが数十本以上集まると、それらを一括して供養塚に納める儀礼を行う。これを「供養」とよんでいる。供養には「大供養」と「アサメシマエ（朝飯前）供養」がある。
- ・大供養は、他の地区の行人たちも参集して、臨時の祭礼的に行われるもので、莫大な費用がかかるため、豊年の年の秋でなければ行えなかつた。上高根で最後に大供養が行われたのは明治33年（1900）10月14日である。なお、この際には、他地区の行人中から灯明料とうみょうりようが贈られるが、そのほか特別な関係にある地区はマンド（万灯）とよばれる山車だしを仕立て、これを曳ひいていき供養を祝った。このような地区をツキアイ（コウサイ）ムラとよんだ。上高根のツキアイムラは、南岩崎・中高根がさと・風戸かやはし・栢橋ふかしろ・田村・沢辺・根本・深城・土宇
- ・二日市場ふつかいちば（以上市域）と川原井かわらい（袖ヶ浦市）であった。
- ・供養の当日、各自で保存していたコシボンデンを晒さらしにくるみ、この日のた

めに用意しておいた輿にくくりつける。もし、供養を待たずして死亡した行人がいた場合には、その人のものは黒い布を巻く。この輿を行人たちが供養塚まで担いでいき、塚上にコシボンデンを刺す。また、供養碑を建てる。これが終わると一同で共食を行う。なお、他地区へは通知せず、自らの地区でだけこの儀礼を行う場合がアサメシマエ供養である。

#### ○行人の葬式

- ・行人が死亡すると、地区の行人たちは葬式の前日に行屋に集まり、ボンデンを3本作っておく。
- ・当日の昼食後、行人たちはこのボンデンを持って葬家へ行き焼香<sup>しょうこう</sup>する。出棺の直前になると、一足先に共同墓地へ行き、葬列が到着するのを待つ。葬列が到着し、遺体が埋葬されると、その遺体の頭の上にあたる場所に小さな塚を築き、これを芝でくるむ。そこに携えてきた3本のボンデンを立てる。中央のボンデンは「親ボンデン」といい、他の2本より少し長い。以前はボンデンを18本作り、塚のまわりを囲むように立てたという。この間、僧侶の読経<sup>どきょう</sup>とは別に行人たちは「拝み」をあげている。

(立野「上高根の出羽三山信仰」：『南総郷土文化研究会誌』第14号〈昭和58年〉)

#### ②ボンデンの民俗

##### A) 文献⑩に市内のボンデンの写真と民俗が多数掲載

八幡、飯沼<sup>いひぬま</sup>、西・北青柳<sup>あおやぎ</sup>、今津朝山<sup>いまつあさやま</sup>、西広<sup>さいひろ</sup>、不入斗<sup>いりやまず</sup>、上高根<sup>あそうばら</sup>、朝生原

##### B) 立野調査(昭和54年〈1979〉～55年)

###### ○奥州参りとボンデン

- ・海岸が埋め立てられる以前は、奥州参り<sup>おうしゅうまい</sup>に発つ二日前に、新行<sup>しんぎょう</sup>は水垢離<sup>みずごり</sup>をとり行屋で拝みをあげたあと、潮が干ている時を見計らって、浜から約1km沖合のフナミチまでボンデンを担いでいき、潮水をかけて浄めたあとそこに立てたという。また、これとは別に、オヤマ(供養塚)にもボンデンを3本立てた。〔八幡〕
- ・登拝者が帰るまでの毎朝、家族のうち一人(通例は妻)が世話人とともに、ボンデンが立てられている宿大神社<sup>しゆくだい</sup>、続いて白山神社<sup>はくさん</sup>→大宮神社<sup>ちんじゆ</sup>(鎮守)という順序で参拝する。〔南五井〕

###### ○辻ボンデン

- ・正月・5月・9月の28～30日に<sup>ぎょう</sup>行をおこなう。その2日め、すなわち各月の29日には、川垢離<sup>かわごり</sup>を取って身を浄めたあとでボンデンを1本こしらえ、ムラの中央の三叉路<sup>さんさろ</sup>に立てる。行人たちの住むムラを守ってもらうためだという。〔平田〕
- ・草が出始める2月と草枯れの時季である9月には、ムラ境の6か所にボンデ

ンを立てる。悪い病が流行るのを防ぐためだという。このボンデンは、高さが2mほどで、先端には3本の御幣を刺した藁苞がつけられている。藁苞には袈裟が巻き付けられていて、人間の目・鼻・口・耳が象られている。ボンデンの中ほどには、椎の枝が括り付けられてある。同じ場所には、板に貼り付けられた「浅間神社」の御札も下げられている。〔青柳台〕

- ・行（寒行と夏行がある）の最終日にはボンデンを4本作り、ムラの東西南北に立てて拝みをあげる。ボンデンの先端には6本の御幣を刺し、五色の色紙と宝冠をかぶった形に袈裟が巻き付けられた藁苞がつけられる。中ほどには幣束1本と五穀を2、3粒ずつつけておく。〔五所〕
- ・正月と6月の28日に行をおこなうが、この日にはボンデンをいくつも作る。このボンデンは、長さ約3尺5寸の枝付きの青竹に藁苞をつけ、幣束を刺したものである。途中の枝には、榊の枝を結わえると同時に輪注連をつける。ボンデンのうちの1本はオヤマ（供養塚）に立てる。行人の安全を祈願するためであるという。残りは「仮ボンデン」といい、ムラ内の要所や隣ムラとの境に立てる。悪い病気が入ってこないようにするためであるという。〔惣社〕
- ・毎年6月ごろ、田植えが終わったあとにボンデンを作り、ムラの水源である溜池の前まで持っていき、祝詞をあげたのちにこれを立てる。〔畑木〕

#### ○葬送儀礼とボンデン

- ・行人が死亡すると、ムラの年寄りの行人は、葬式の当日出棺するまでの間に行屋でボンデンを3本作っておく。この間葬儀には一切関与しない。野辺送りに出発する直前、行人たちは葬家へ行き、葬列が仮門をくぐると、ボンデンを担ぎ、法螺貝を吹き、鉦を鳴らし、拝みをあげつつ、ソトナントまで先導する。そして、僧侶の読経がすみ、一般の参列者が去ったあと、ボンデンを立てて行人たちだけで拝みをあげる。3本のうち中央に立てるものは他の2本より長く伐った竹を使用しているため、一段高くなっている。出羽三山をあらわすものであるという。朽ち果てるまでそのままにしておく。

〔飯沼〕

- ・行人の墓には様々な葬具が立てられる。まず、注連を張って、月山神社・出羽神社・湯殿山神社と書かれた板をつけた鳥居を立てる。また、3本のボンデンを立てるが、このうちの中央のものをハトバといい、他の2本よりやや高くして、先端には杉の枝、その下には口紅・白粉・櫛・鏡・扇
- ・女性の長い髪などをつける。〔大厩〕

（立野「出羽三山信仰におけるボンデンの諸相」：『歴史科学と教育』準備号（昭和56年））

#### ③八幡の事例

##### ○行屋と先達



八幡出羽三山講 (八講) の歴代先達氏名掲額 (昭和34年〈1959〉、八幡行屋内)

〈先達の登拝経歴〉

・中島市太郎

明治25 (1892) 年・29年・32年・34年・35年・36年・37年・38年・39年・40年・  
41年・42年・43年、大正元年・2年 計15回

・川島鞆負<sup>ゆきえ</sup>

昭和9年・14年・17年・26年・27年・28年・29年 (3回)・30年・31年・32年・  
33年・34年・35年・36年・37年・38年・39年・40年・41年・42年・43年・45年・  
46年・47年・48年 (2回) 計30回

※川島鞆負顕彰碑：行屋前所在、昭和35年〈1960〉造立

市原町八幡港町川島鞆負氏ハ資性高潔ニシテ敬神ノ念厚ク、特ニ大正拾三年初  
登山以来拾六回登山ノ大行ヲ遂ゲ、三山講ノ先達トシテ敬神思想ノ高揚普及ニ  
努メラレ、更ニ今般講員多年ノ願望タル出羽三神奉安殿ノ新築ニ際シテハ、率  
先挺身盡瘁セラレタル功績ハ数ウルニ違ナク、今茲ニ後進ノ路ヲ開キ、後任者  
ニ譲ルニ當リ、講員一同相諮リ頌徳碑ヲ建立シ永ク其ノ徳ヲ後世ニ讃エ伝ヘン  
トス

表3 八幡地区の登拝者数変遷(10年ごと)

年 代	登拝者数	女性数	組数	1組平均	30年合計
元禄6年(1693)～元禄15年(1702)	0		0	0	5
元禄16年(1703)～正徳2年(1712)	5		1	5.0	
正徳3年(1713)～享保7年(1722)	0		0	0	
享保8年(1723)～享保17年(1732)	0		0	0	5
享保18年(1733)～寛保2年(1742)	0		0	0	
寛保3年(1743)～宝暦2年(1752)	5		2	2.5	
宝暦3年(1753)～宝暦12年(1762)	2		2	1.0	3
宝暦13年(1763)～安永元年(1772)	0		0	0	
安永2年(1773)～天明2年(1782)	1		1	1.0	
天明3年(1783)～寛政4年(1792)	0		0	0	23
寛政5年(1793)～享和2年(1802)	2		2	1.0	
享和3年(1803)～文化9年(1812)	21		2	10.5	
文化10年(1813)～文政5年(1822)	22		4	5.5	52
文政6年(1823)～天保3年(1832)	18		1	18.0	
天保4年(1833)～天保13年(1842)	12		4	3.0	
天保14年(1843)～嘉永5年(1852)	32		6	5.3	181
嘉永6年(1853)～文久2年(1862)	64		8	8.0	
文久3年(1863)～明治5年(1872)	85		10	8.5	
明治6年(1873)～明治15年(1882)	61		8	7.6	168
明治16年(1883)～明治25年(1892)	68		5	13.6	
明治26年(1893)～明治35年(1902)	39	1	6	6.5	
明治36年(1903)～大正元年(1912)	112	2	13	8.6	423
大正2年(1913)～大正11年(1922)	124		9	13.8	
大正12年(1923)～昭和7年(1932)	187		13	14.4	
昭和8年(1933)～昭和17年(1942)	108		8	13.5	759
昭和18年(1943)～昭和27年(1952)	125		5	25.0	
昭和28年(1953)～昭和37年(1962)	526	8	19	27.7	
昭和38年(1963)～昭和47年(1972)	650	115	24	27.1	2484
昭和48年(1973)～昭和57年(1982)	1028	241	62	16.6	
昭和58年(1983)～平成4年(1992)	806	121	34	23.7	
平成5年(1993)～平成14年(2002)	839	83	37	22.7	1520
平成15年(2003)～平成24年(2012)	480	12	20	24.0	
平成25年(2013)～平成30年(2018)	201	4	7	28.7	
合 計	5623	587	313	18.0	

近世 : 1693～1872 43組 : 269人 平均 6.3人

近・現代 : 1873～2018 270組 : 5,354人 平均 19.8人

『出羽三山信仰の歩み 出羽三山参詣道者』(令和元年、羽黒山正伝坊)より作成)

○供養塚と供養塔

〈供養塚〉



現在の供養塚(飯香岡八幡宮境内)

※明治初年までは満徳寺(真言宗)境内か?

→幕末期とみられる境内絵図に「行人塚」の記載

〈供養碑など〉

表4 八幡地区の出羽三山塔一覧

No.	所在地	種類	年代	西暦	内容
1	供養塚中壇	供養	文化9年2月8日	1812	文字塔(湯殿山中心)
2	供養塚下壇	供養	天保2年9月	1831	文字塔(湯殿山中心)
3	胴埋塚墓地	供養	嘉永6年10月	1853	文字塔(湯殿山中心)、大日如来座像 28名連記 ※
4	供養塚下壇	供養	明治3年9月	1871	文字塔(湯殿山中心)
5	供養塚下壇	供養	(近世)		文字塔(湯殿山中心)
6	供養塚中壇	供養	明治12年10月8日	1879	文字塔(月山中心)、57名(+21名)
7	供養塚中壇	供養	明治20年旧9月8日	1887	文字塔(月山中心)
8	供養塚下壇	供養	明治24年9月12日	1891	文字塔(月山中心)、35名
9	供養塚上壇	供養	大正5年9月	1916	文字塔(月山中心)、 世話人9名、先達1名連記
10	個人宅	先達	大正8年5月8日	1919	文字塔(月山中心)、大成教敬愛講社、 世話人6名、他88名連記 ※
11	供養塚敷地左	供養	昭和9年11月11日	1934	文字塔(月山中心)、 先達2名、世話人8名、他106名連記

12	供養塚下壇	先達	昭和27年9月8日	1952	三山歴代先達、先達9名、発起人9名連記
13	供養塚敷地左	供養	昭和33年3月15日	1958	三山祭典記念 先達2名、世話人等42名、他311名連記
14	行屋敷地	先達	昭和35年4月3日	1960	頌徳碑、先達15名、世話人11名連記
15	供養塚敷地右	供養	昭和40年1月3日	1965	三山祭典記念、 先達40名、世話人等19名、他38名連記
16	行屋敷地	先達?	昭和45年3月8日	1970	大願成就、先達66名、世話人17名連記
17	供養塚敷地左	供養	昭和47年3月16日	1973	三山祭典記念、 先達74名、世話人等20名、他78名連記
18	供養塚敷地左	供養	昭和50年4月6日	1975	三山祭典記念、 先達40名、世話人等23名、他70名連記
19	供養塚下壇	先達	昭和52年3月15日	1977	文字塔（月山中心）、 先達14名、発起人29名連記
20	供養塚敷地右	供養	昭和58年4月17日	1983	三山祭典記念、先達2名、世話人等25名、発起人21名、他78名連記
21	供養塚敷地右	先達	昭和59年4月8日	1984	文字塔（月山中心）、大願成就、先達9名、発起人32名+昭和57・59年度役員連記
22	供養塚下壇	先達	昭和62年5月8日	1987	文字塔（月山中心）、歴代先達、先達9名、発起人等43名連記
23	供養塚敷地右	先達	平成21年3月	2009	（月山中心）、歴代先達、先達5名、世話人等43名連記

（調査による。※は『市原市八幡の石造物研究』（平成24年）を参照）

### ○八日講



令和4年（2022）5月1日に行われた八幡行人の八日講

(6) 千葉県内で知られる特殊な関係行事など

① 天道念仏 (船橋市など：『江戸名所図会』(天保5年(1834))所収)



天道念仏踊の図

船橋宮の内の東光寺、及び漁師町の不動院、夏見の薬王寺等の境内に於いて執行せり。毎歳二月十六日に始まり、同十八日に終る(昔は一七日の間、執行せしが今は二夜三日とす)。堂前に土を以て壇を築き、竹を以て柱を設け、これを梵天と称し、その四方に四の門を開き、四十八柄の神幣を建て、注連を引きはゆる等、皆悉く諸の仏天に表したり。内に大日如来の像を安じて本尊とし、百味の飲食を供養せり。その詰衆の道俗は、各一昼夜の間六度づゝ垢離して浄衣を着し、白布を以つて造る所の宝冠を頂き、三宝諸尊の御号を称へて敬礼し、六根懺悔の文を唱ふ。又その間には弥陀の称号を唱へ、鉦太鼓を打ち鳴らして、梵天の四方を右繞する事数回、昼夜に間断なし。相伝ふ、往古弘法大師出羽国湯殿山を

始めて踏み分け給ひし頃、同国山形の東南天道村といふ地に於いて、これを開闢し給ふを興基として、こは五穀成就の為の行事なりと云ひならはせり。

② 中島の梵天立て (木更津市：国指定無形民俗文化財(平成4年(1992)指定))

舟輪を祀めた年中行事

【交通事情】  
木更津市金田船屋【国鉄内房線木更津駅からバス】  
まぼんでん立

な幣束を受取つたものであるが、海中に立てるのは大きな幣束を竹に懸糸で結びつけたものである。海中に入る青年は朝からだを清め、家で精製の舞台に立つたためにしたくをしとくる。頭には白木製の鉢巻、腰から胸までまっ白なさらしを巻き、まっ白いさらしに木製の袴をしめ、背には十字の袴をする。袴は裾によって色分けがなされ、赤・紫・青などまことに精れやかである。  
正月七日私塾であるから海は極度に冷える。行者の再度吹き鳴らすホラ貝を合図に、若者はポンテンを抱いて海に飛立を立てて駆け入る。行者は若者が岸に帰るまで、しつらえられた笹の葉を引つた幣束で飾を鳴らし、数珠をもみながらかき三山を拝して般若心経を声高らかに口誦する。  
海は最初夜風を切るように冷たいが、途中ではまったく何も感じなくなるという。  
沖にポンテンを立てて海岸に到着するころ、ようやく朝となる。無事に行事が終わると、若者は自宅に帰って風呂でからだを温め、各宿ごとに集まって夜更を聞く。  
海岸に立てたポンテンは浜から持ち帰って宿に立て、小さな幣束は若者が各家を回ってヒナツにさして歩く、こうして行事が終わる。  
本来この行事は、人生の通過儀礼のうちの式八式が、三山信仰を基盤にしてヨトリという歌になつて民俗化したものかもしれない。

◇ まぼんでん立

◇ まぼんでん立

【木更津市金田】

毎年一月七日になると、木更津市金田の沖合に新鮮しいポンテンが金田の青年たちによって立てられる。この行事は三山信仰に基づくと考えられ、古くからその信仰のあったことが知られる。  
伝承では江戸中期の元禄年間の中島の沖で建造物の崩壊した事件があり、船の人たちは中島の漁師が崩壊したという疑いをかけ、きびしく取り調べた。中島の人たちは疑いをはらすため、三山の行者に祈禱してもらったところ、満願の日に砂の中から鐘が浮きあがり、身の潔白を証すことができた。このため三山の神徳を感謝したのがポンテン立ての起源であるといふ。  
ポンテン立ては中島の六つの宿の青年によって行われるが、海に入るのは、ことし若衆組に加わる者である。  
一月七日の私塾、行者のホラ貝の合図によって六つの宿から青年たちはポンテンをかついで海岸に集まってくる。ポンテンは各宿とも二本で、一本は海中に立てる真竹の長いもの、もう一本は海岸に目じるしとして立てる藁宗竹の短いものであり、それぞれ竹の先端にポンテンといわれる色紙で作られた、色あざやかな幣束がつけられている。  
海岸に立てるポンテンと海中に立てるポンテンとは作り方が異なり、海岸のものはワラットに小さ

(『生きている民俗探訪 千葉』より)

③大塚ばやし（市内海保、千葉県指定無形民俗文化財〈昭和45年（1970）指定〉）  
 海保地区の梵天納め（大供養）の際、供養塚（大塚）までの行列に随行する山車だしの上で演じられた囃子。海保地区の大供養は、大正10年（1921）が最後であり、その後は演じられなくなっていたが、第2次世界大戦後に囃子連ができ、さらに保存会も結成された。その後、海保神社（鎮守）の祭礼などで定期的に演じられるようになっている。大太鼓1、小太鼓2、笛1、鉦1で演じられる。動作が大きくて派手なのが特色で、神田囃子の系譜をひくものと考えられている。演目には「五囃子」「岡崎」「大塚囃子」などがある。このうち「大塚囃子」は、全身を大きくゆさぶりながら、3色の房をつけた撥で太鼓をうち、また時折高く投げ上げる「曲撥」の所作が見られる。  
 （千葉県教育委員会ホームページより要約）

(7) 出羽三山信仰への期待

○「二世安楽」から「天下泰平」「国土安穩」「五穀成就」「村中安全」へ

表5 市原市域の出羽三山塔に刻まれた祈願文言（近世）

表124 市原郡域の出羽三山塔に刻まれた祈願文言

年代	村名	祈願文言
1714(正徳4)	武士村	老若男女二世□□
1719(享保4)	高野村	□世安楽
1720(享保5)	石川村	二世安楽
1722(享保7)	永藤村	二世安楽
1723(享保8)	荻作村	二世安楽
1758(宝暦8)	西広村	二世安楽
1762(宝暦12)	武士村	二世安楽
1763(宝暦13)	枝村	邑中安全
1765(明和2)	深城村	自他平等、二世安楽
1767(明和4)	西国吉村	二世安楽
1792(寛政4)	小草畑村	天下泰平、国家安全、五穀成就、村中長久
1798(寛政10)	永藤村	天下泰平、国土安穩
1809(文化6)	大厩村	国土泰□、天長地久
1811(文化8)	大坪村	天下泰平、国土安穩、村中安全
1825(文政8)	小谷田村	天下泰平、五穀成就
1829(文政12)	土字村	天下泰平、国土安穩、郷中安全
1843(天保14)	皆吉村	郷中安全
1848(弘化5)	安久谷村	天下泰平、国土安穩
1853(嘉永6)	惣社村	天下泰平
1857(安政4)	久保村	天下泰平、五穀成就
1872(明治5)	上高根村	五穀成就

執筆者の調査による

→近世後半以降高度経済成長期ころまで、地域の生業や現世での生活の維持・向上に対する期待により、篤く信仰され、近年まで各地区ごとの講が維持。

(8) 出羽三山信仰と講についての史料・写真・映像などの発掘

① 史料などの所在 行屋、先達宅

② 発見された史料の事例

○海保中郷<sup>なかごう</sup>の行屋保存史料

明治12年（1879）・同34年（1901）・大正10年（1921）の大供養の記録、大正14年  
および昭和10年（1935）の「三山登山心得帳」など

（立野「行屋の史料」：『歴史科学と教育』第1号、1982）

○平蔵堀切<sup>へいぞうほりきり</sup>の旧行屋史料→現在千葉県文書館寄贈

万延2年（1861）の「行人頼母子金覚帳」など

○北五井行人の史料

大正2年（1913）・4年の北五井の供養の史料、大正～昭和のツキアタイムラその  
他の供養への参加に関する記録など

（出羽三山里大先達高澤誠喜氏『出羽三山信仰—北五井三山 講歴史—』：平成12年（2000））

③ 『市原市の昭和』（平成25年、いき出版）所収の写真

昭和34年（1959）の玉前<sup>たまさき</sup>の供養／同年の出津<sup>でつ</sup>の出羽三山登拝前の川垢離<sup>かわごり</sup>／  
昭和51年（1976）の松ヶ島<sup>まつがしま</sup>の供養

④ 昭和9年（1934）11月11日に行われた八幡の大供養の映像

『いまよみがえる「むかしの八幡町」』に所収（故市川得三氏撮影16ミリフィルム）

-----  
〈参考文献〉

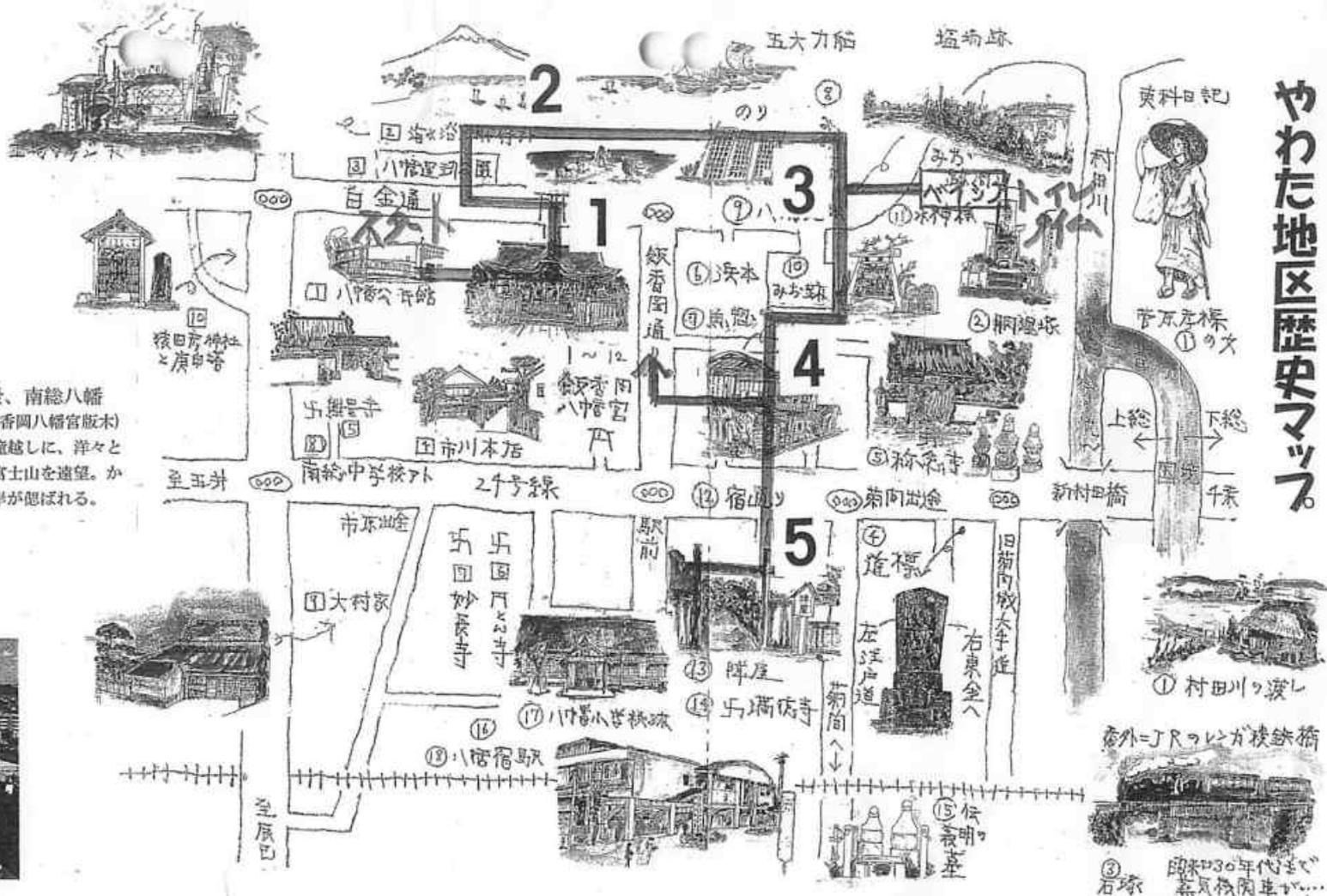
- ① 戸川安章『出羽三山修験道の研究』（1973、校正出版社）
- ② 高橋在久『生きている民俗探訪 千葉』（1978、第一法規）
- ③ 岩鼻通明『出羽三山信仰の歴史地理学的研究』（1992、岩田書院）
- ④ 岩鼻通明『出羽三山の文化と民俗』（1996、岩田書院）
- ⑤ 對馬郁夫『房総に息づく出羽三山信仰の諸相』（2011、自費出版）
- ⑥ 岩鼻通明『出羽三山—山岳信仰の歴史を歩く—』（2017、岩波書店）
- ⑦ 『市原市史』中巻（1986、市原市）
- ⑧ 『千葉県の歴史』通史編近世2（2008、千葉県）
- ⑨ 映像記録『房総の出羽三山信仰』（DVDおよび解説書）（2011、千葉県伝統文化再興事業実行委員会）
- ⑩ 企画展『出羽三山と山伏～はるかなる神々の山をめざして～』（2011、千葉県立中央博物館）
- ⑪ 平成24年度トピックス展『神の依り代・梵天～房総の出羽三山信仰～』（2013、千葉県立房総のむら）
- ⑫ 第15回館蔵名品展『房総の出羽三山信仰』（2018、睦沢町立歴史民俗資料館）



飯香岡真景、南総八幡  
(明治43年=飯香岡八幡宮版木)  
八幡宮の清見の滝越しに、洋々と  
広がる東京湾と富士山を遠望。か  
つての八幡海岸が偲ばれる。



高層マンションから八幡宿駅周辺をのぞむ



やわた地区歴史マップ

八幡公民館主催事業「いきいき八幡塾」③八幡歴史ストリート  
「八幡さまと海の町」を歩く

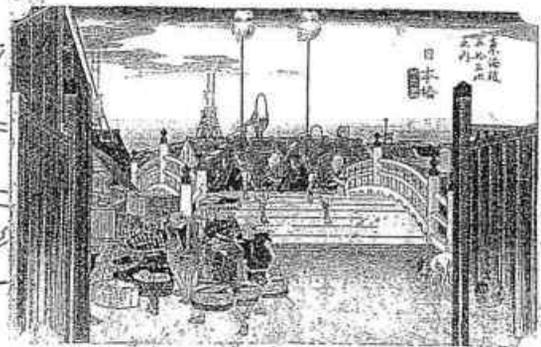
令和4年4月28日

山岸弘明

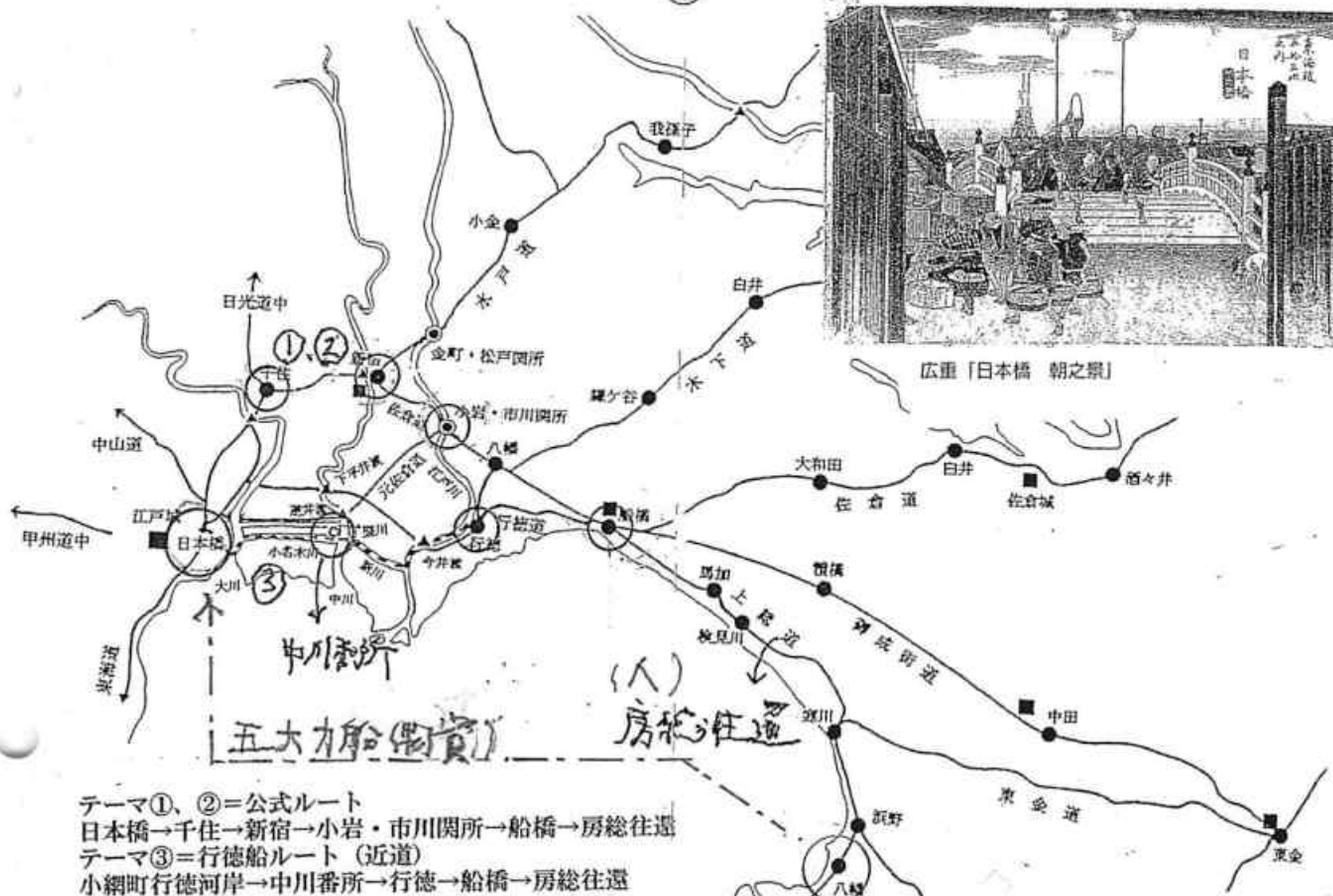
みなさんはむかし八幡が「海の町」だったことをご存知でしょうか。目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せました。気候温暖、加えて人柄も温厚、かつて五大力船が江戸・東京と結ぶ「物資供給拠点」として発展した八幡は「信仰」と海に支えられた「歴史の町」でもあったのです。昭和の八幡海岸は潮干狩りや海水浴場としてにぎわう一方、町びとたちの多くはわずかばかりの田んぼで農業のかたわら、海苔を養殖し、貝を拾って生活しました。「高度成長」が始まると千葉県は「京葉工業地帯」造成を計画します。海を埋め立てるといふ巨大プロジェクトに人々は驚きます。年寄りたちは先祖からの海をなくしてはいけないという意見でしたが、若い人たちの考えは違っていました。海苔や貝に頼る将来に不安を持つ一方、雇用拡大による新しい街づくりに期待したのです。昭和32年、地元「八幡五所漁業協同組合」が「漁業権」を放棄、八幡海岸はあっという間に埋め立てられて、進出企業の大型プラントが建設されました。あれから60余年、八幡町はすっかり様変わりしました。歴史や文化など海岸埋立てで失った代償も決して少なくありません。しかし今日、工業都市としての八幡地区の発展は先祖伝来の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあったのです。きょうはみなさんを昔の「八幡さまと海の町」へとご案内します。



④



広重「日本橋 朝之景」



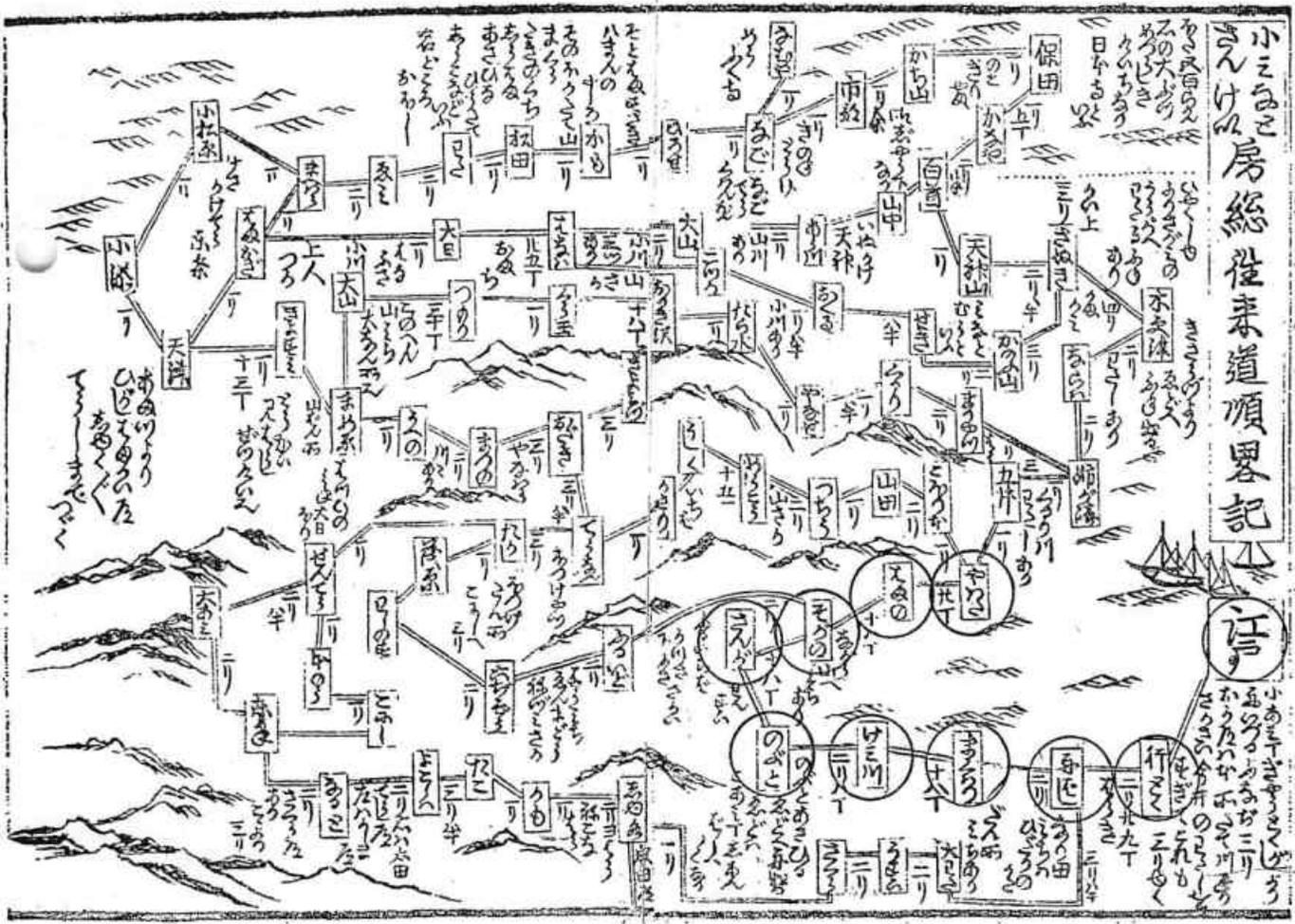
五大舟船(船賃)

(八) 房総往還

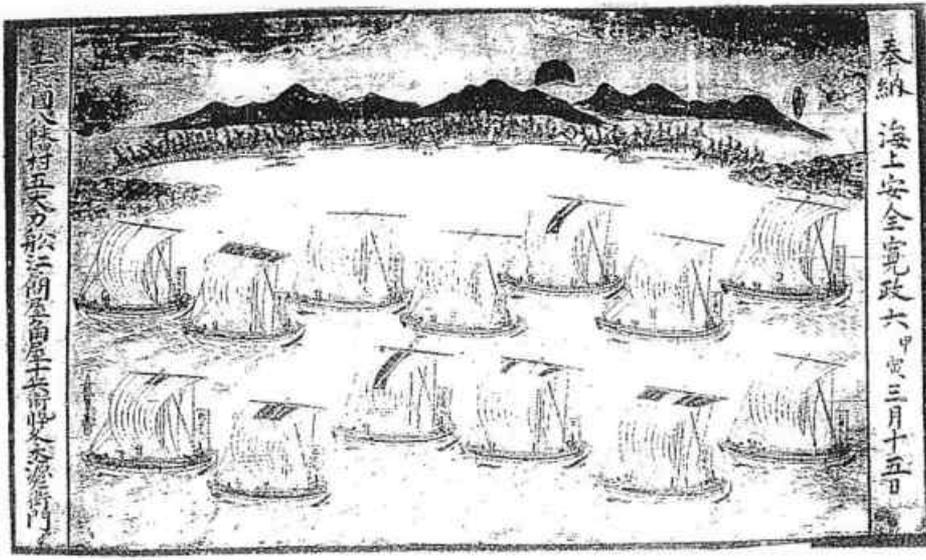
テーマ①、②=公式ルート  
 日本橋→千住→新宿→小岩・市川関所→船橋→房総往還  
 テーマ③=行徳船ルート(近道)  
 小網町行徳河岸→中川番所→行徳→船橋→房総往還

小名木川  
 上総から江戸への主要道順

江戸時代、道名や川名は統一されず  
 地方ごとに呼び変わった  
 いろいろ呼び方が存在



寛政十七年



奉納 海上安全寛政六 三月十五日

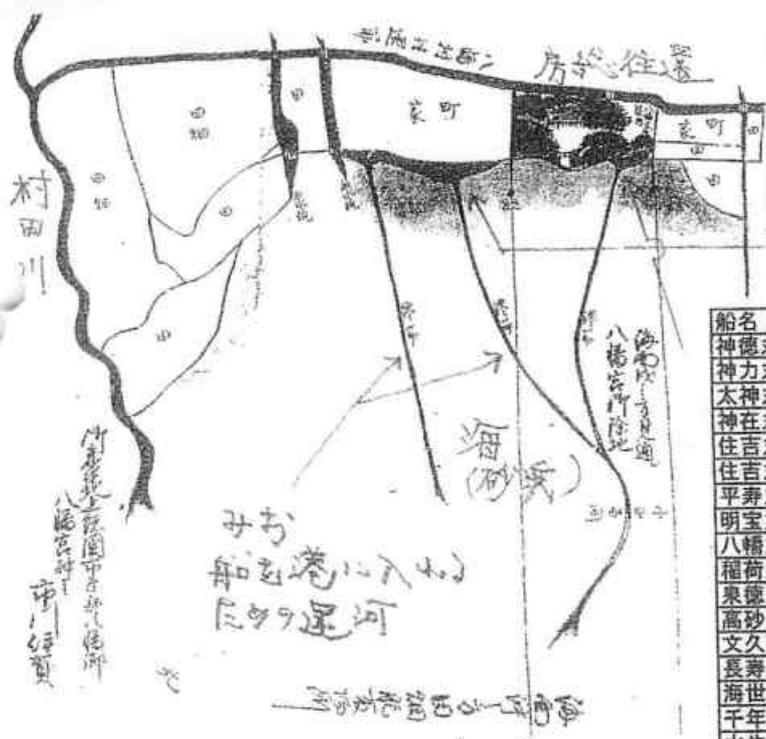
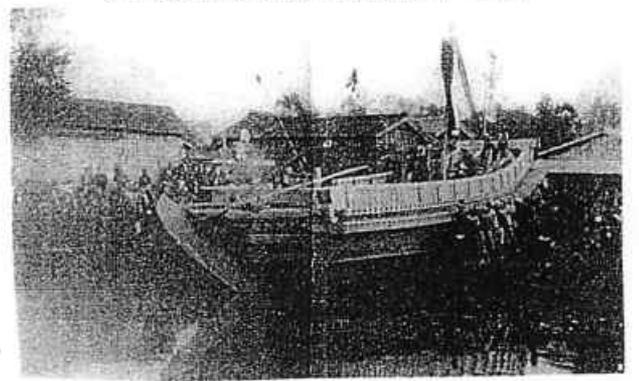
八幡村五大力船々揃い図

(寛政6年=飯香岡八幡宮宝蔵庫展示大絵馬)

初代登亭北寿画。ピカソに影響を与えたとされる葛飾北斎の門人で、北斎の洋風版画を引き継いだ個性的作品が多い。市原台地の日の出、青松林などに片鱗、五大力船は船名や帆印、船乗りや積荷、手信号などが詳しく描写している。

八幡港の五大力船  
五大力船は江戸内湾で発達した荷物運搬用海川両用の大型帆船である。積載量60~150石、長さ10~20m、乗組み3~4人。力強さを五大力菩薩に例えた。八幡湊は木更津とならぶ江戸への物資供給拠点で、船株30艘、実働およそ13艘、最盛期の明治末期に30艘を数えた。明治6年の八幡船改所文書群が現存、地元「市原の古文書研究会」が船舶台帳、出帆免状、積荷明細などを解析している。

大正時代の五大力船船下ろし



幕末慶応2年の八幡港みお図

明治6年の八幡村五大力船と積み荷

船名	積み石	船主	母港	出帆数	米(俵)	炭(俵)	薪(束)
神徳丸	100	石橋清次郎	八幡	48	50	24,340	8,900
神力丸	120	石井仲蔵	八幡	44	2,551	29,107	10,810
太神丸	100	永野誓五郎	八幡	43	685	17,850	35,750
神在丸	115	城谷伴蔵	八幡	38	1,404	24,960	9,950
住吉丸	100	丸長次郎	八幡	32	4	3,486	1,600
住吉丸	90	雪本権次郎	八幡	31	45	8,635	0
平寿丸	81	北嶋巳之吉	八幡	31	1,438	4,040	1,500
明宝丸	90	藤本五郎治	八幡	31	1,580	13,753	1,000
八幡丸	80	木村善吉	八幡	31	1,120	11,260	6,621
稲荷丸	120	松田豊吉	八幡	30	0	5,334	1,000
泉徳丸	80	小林七次郎	八幡	28	308	6,960	3,900
高砂丸	140	松田喜三次	八幡	26	0	7,145	900
文久丸	130	白鳥喜一郎	八幡	26	387	16,699	4,000
長寿丸	120	宮原六郎平	八幡	24	55	3,020	8,110
海世丸	80	白鳥曾次郎	八幡	22	495	10,950	9,720
千年丸	100	伊藤久次郎	八幡	19	15	4,575	13,800
水生丸	100	白鳥喜八	八幡	11	230	3,300	1,700
明王丸	60	大宮常太郎	八幡	1	0	694	0
明治丸	58	小川龜吉	八幡新規	8	39	4,200	1,000
山王丸	50	板倉久八	八幡茶船	2	32	450	500
仙元丸	50	松田喜三次	八幡茶船	1	0	0	1,200
稲荷丸	79	久保寺金左	野島浦	10	1,193	0	0
伝合丸	80	石橋伝吉	村田	3	190	250	0
朝日丸	80	高田徳兵衛	横須賀	2	0	440	0
神力丸	150	鈴木平七	木更津	2	450	0	0
取方丸	140	成島基左衛	市原	2	0	0	0
浅間丸	58	近藤清蔵	横浜	1	85	0	0
合計				547	12,336	201,448	121,961

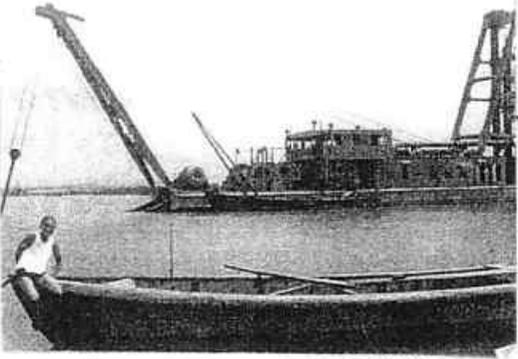
八幡宿船改所文書群解析

# 六 臨海工業地帯―埋め立てと開発

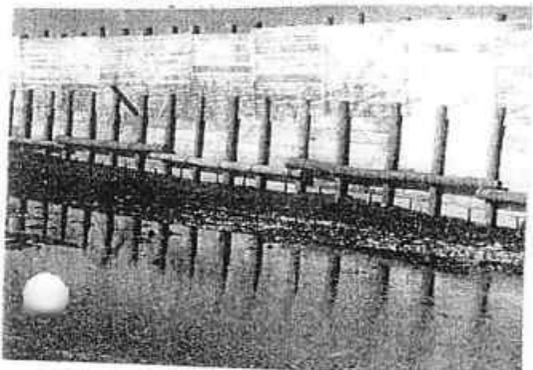
⑥



五井市海岸地区の埋立と造成地。左岸は善老川の河口域で、正面奥にはコンクリート建設が進む埋立地。五井火力発電所と丸石石油が中心。(昭和35年頃)



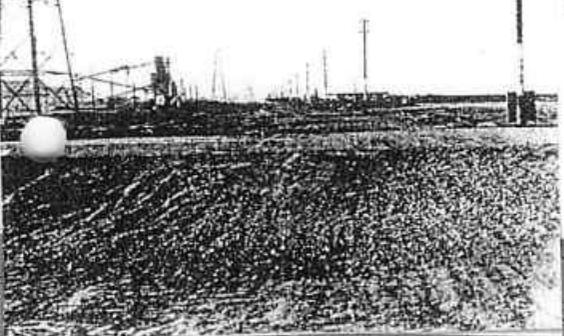
海水土砂の大型浚渫船



工事場所を囲む板囲い



浚渫の作業用土管



昭和三十一年(一九五〇)千葉県は「産業振興三カ年計画」を策定したが、その後の「総合開発計画」を含めた事業規模は浦安から船橋、千葉、市原、袖ヶ浦、木更津、君津におよぶ内湾部四十万坪を埋め立て、日本最大規模の「京葉臨海工業地帯」を建設するといふものであった。

最初の交地となったのが八幡地区であった。この年十一月、県は八幡五所漁業協同組合に対し、八幡沖の埋め立てを指示した。海を埋めるという突然の県の方針に当初は全員が反対、しかし年明けのころから情勢が一変した。漁師や貝に頼る漁業への不安と雇用拡大による断しなまじつくりの期待をかけたのである。

同三十二至十月、組合は「漁業解放案」を盛り入れて県と調印し、五井や姉崎地区の漁業組合もこれにならった。いくばくかの補償金を手にした家に自動車や銀行の外交員が押しかけ、

一部の漁師よりは「五井核」の異名を生んで語り草となった。

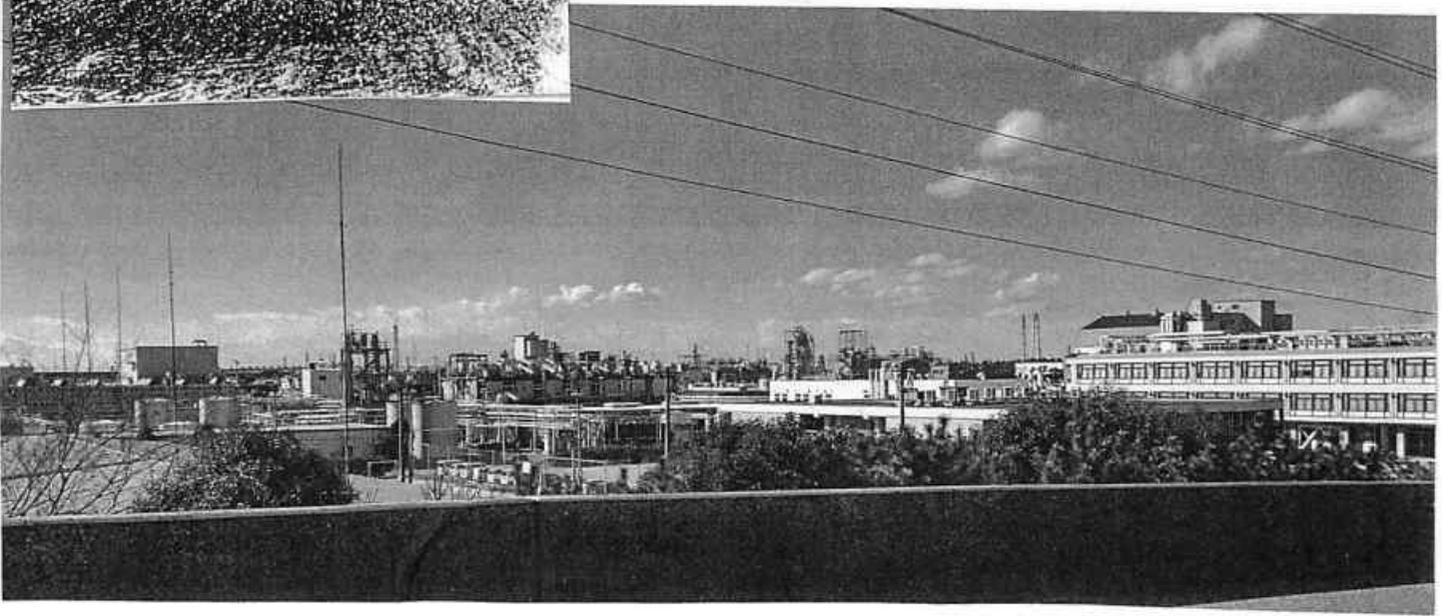
埋め立て工事はすくじに始まった。大型浚渫船ですくい上げた土砂が送泥管で運ばれ、八幡から五井、姉崎に続く市原の埋め立て造成がいつきにできあがった。

昭和三十五年、八幡地区では造船や電機、ガラス工場などが操業、五井、姉崎は石油コンビナートの大型プラントが建設された。また五井と姉崎火力発電所が送電を開始し、物流ルートとして産業道路と臨海鉄道が敷設された。

昭和四十年代の高度成長期には、石油系製品の需要が拡大した。工場は増設につぐ増設、製造ラインがフル稼働した。市原は京葉工業地帯の中核として、日本有数の工業都市へと成長していった。

市制五十年、今日の市原市の発展は先代々々の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあった。(山屋弘明)

## 市原市制 50 周年を記念した「市原市の昭和」埋立て工事が進む



## 「いきいき八幡塾」町歩き ご案内主要行程

- 9時00分(20分) 八幡公民館第1会議室(行程説明、房総往還、五大力船)  
 9時30分(30分) 飯香岡八幡宮(本殿=平澤直人神主)  
 10時10分(10分) 八幡海岸(潮干狩り、海の家、海苔養殖、塩田)  
 10時25分(10分) 八幡港浜本町みお(海神さま、みお筋、豎みお、横みお)  
 10時45分(10分) ベイシア(トイレ)  
 11時00分(10分) 浜本町河岸(荷揚げ場、蔵地、船関係者、湯屋、米穀薪炭  
 などの問屋・商店、料亭、船大工)  
 11時15分(10分) 宿場中心地(高札場、本陣、伝八幡藩陣屋跡=省略するこ  
 とがある)  
 11時30分 八幡公民館第1会議室(まとめ)

## 1 始めに飯香岡八幡宮ありき=平澤牧人神主に国重文・本殿を解説いただく

## ①「八幡」の地名となった地神さま

社伝は白鳳年間(7世紀後半ころ)「一国一社八幡宮」、天平宝字3年(759)全国放生の地に勧請された国府八幡宮の2説を記す。はじめ「御影山」といい、往古、日本武尊が東征の途中着陣し、「この飯の香りしごくよろし」と宣われ、「飯香岡」の地名を賜ったとされる。また、中世、三宝院文書「国役庄役注進状」にみえる「市原八幡神社」は当社の前身社といわれている。

鎌倉、室町、江戸幕府から手厚く保護され、源頼朝は治承4年150町歩を寄進、足利義満は至徳元年銘神輿4基を、足利義政は長祿3年現本殿を建立し、徳川家康は天正19年150石の朱印を定めた。

祭神は「八幡神」で、応神天皇を祀った「誉田別命(ほんだわけのみこと)」を主座に、「比売大神(ひめおおがみ)」の宗像(むなかた)3女神、神功(じんこう)皇后の「息長帯姫命(おきながたらしひめのみこと)」3座とされる。全国八幡宮の本社は大分の宇佐神宮で、京都の岩清水八幡宮、福岡の宮崎宮、鎌倉の鶴岡八幡宮を日本三大八幡宮とする。もとは弓矢、力の神様で、源氏の氏神となって以来、武神としてしばしば歴史の表舞台にも登場した。現在は殖産興業、安産子育て、交通安全などのよろず神様として広く庶民の信仰を集めている。

## ②本殿(国重要文化財)=外観は力強く簡素、室町中期の特色を伝える。内陣は足利義満寄進神輿を収納する特別な造りになっている。

拜殿(県指定文化財)、幣殿=屋根の唐・千鳥破風や彫刻、海老虹梁、組み物など、江戸初期の建築美が調和している。

## ③宝蔵庫=義満寄進みこし、徳川家康銘大太刀、家康印判状、足利義明の武運長久祈願経典、当世具足、五大力船ほか大絵馬などを展示している(毎年3月15日春季大祭に一般公開。本日は見学しない)

## ④柳楯神事=秋季大祭の朝、市原台地で調整された柳の楯を神前に奉納する特殊神事

## ⑤夫婦いちょう(県指定文化財)、逆さいちょう(頼朝伝説)、放生池、1の鳥居、出羽三山・富士講塚、市原出途道標(移築)

## 2 東京から観光バスで潮干狩りに押し寄せた～埋立てで工場街に変身

### ①遠浅で波静か、「白砂青松」の景勝

八幡運動公園の八幡運河先は、埋立地であつて遠浅で波静かな東京湾だった。満潮時は岸壁まで波が押し寄せ、干潮時は4kmほど砂浜になった。海岸堤防にそつて「白砂青松」が五井に連なり、帆船が浮かぶ大海原に遠く富士山や丹沢山系を望んだ。

### ②昭和の戦前、戦後期は、東京最寄りの潮干狩り場、海水浴場として観光バスを連ねた学童たちで賑わつた。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が立ち並び、現在、運動公園になっている八幡中学校グラウンドが臨時バス駐車場となった。

### ③海はまた、八幡の人たちの生活の場で仕事場でもあつた。大正初めから「千葉海苔」の養殖が始まる。養殖はつらい厳冬の素手作業、早朝シガ波をかきわけてベカ船を走らせた。海苔の胞子が伸びたところで収穫。夜明けを待って大きな包丁で刻む。どの家からもトントンと海苔を刻む音が響いた。次いでヨシで作つた海苔簾に刻み海苔を漉く。最後は乾燥、海岸や町中の空き地にならんだ海苔干し台は冬の風物詩となつた。「ピカリ(収穫日一晴れ)1万円」、サラリーマンが手弁当月給8千円の時代。海苔業者の羽振りはよかつた。

### ④漁業権放棄による海岸埋め立て=昭和32年、千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、海が埋め立てられ、旭硝子、大日本インキ、富士電機、古河電工、三井造船などが相次いで操業を開始した。

## 3 江戸へ米穀、薪炭、材木を運んだ～五大力船の母港・浜本町みお跡

### ①江戸時代の八幡港は南町みおと浜本町みおの2港で構成した。八幡は遠浅で大きな船が接岸できなかつたため、人工運河の「みお」を開いて海と結んだ。

### ②「南町みお」は慶長19年、八幡村を所領とした本多正信、正純父子、永井直勝、家康側近3氏の年貢津出し湊として創建、八幡宮に「みお証文」が現存する。「大坂冬の陣」に従い多くの犠牲者を出したことで特権を得たとされる「木更津港」より早かつた。

### ③「浜本町みお」は「船主仲間」が共同で築いた。「みお筋」と「堅みお」は航路で、「横みお」は船だまり(港)。船主仲間が「みお浚い」と船つなぎ杭「ぼん木立て」を行った。

### ④沢口靖子のデビュー作、銚子港の「みおつくし」はみおを通航するための標識、春のつくしにみえたか。八幡はみおつくしの呼び名に覚えなし?

### ⑤五大力船はいったん海上の「ぼん木」に係留し、積み荷は海上で「はしけ舟」が積み下ろした。港には「はしけ作業」や蔵の出し入れといった雑作業があり人が集まつた。

### ⑥江戸時代、港から近郷の村への「物流」は、本来、権利をもつた公設の「伝馬所(継立場)」の仕事だが、資料が乏しく解明されていない。

### ⑦五大力船は荷物を下ろし、帆をたたみ、満ち潮に乗じてみおに戻つた。横みおや雁田川を広げたベイシアや胴埋塚、称念寺裏の船溜りに停泊した。

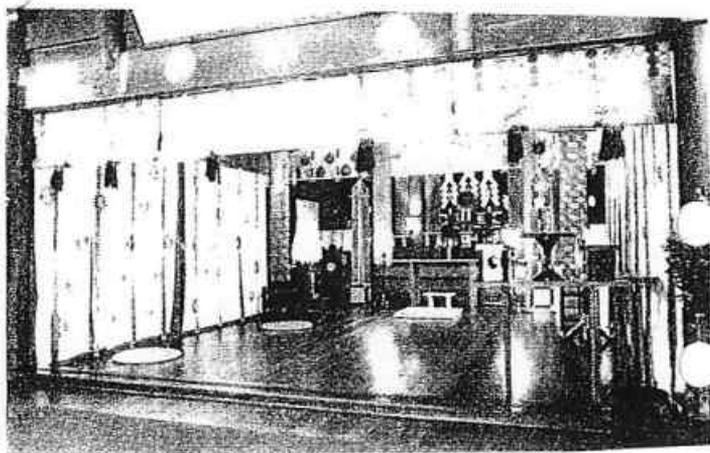
### ⑧八幡湊は巨大消費都市・江戸への米穀、薪炭、木材、わら製品の供給拠点として、また帰り船で衣料品や酒、日常雑貨、江戸文化を運んだ。

### ⑨八幡の五大力船は江戸時代30艘といわれたが、株仲間=権利者の総数で、稼働実数は13、4艘、八幡と並ぶ上総最大の湊木更津もほぼ同数であつた。最盛期の明治後期に30艘となつたが、大正時代鉄道と自動車普及、その役割を終えて消滅した。

### ⑩「大海住(おおわたつみ)神社」=古来八幡の五大力船々乗りたちが崇拝した水神様。立ち並ぶ「力石」は船乗りたちの力くらべの名残、1番の大石は「八幡宮力石、五十貫目、江戸霊岸島木場町」をきざむ。



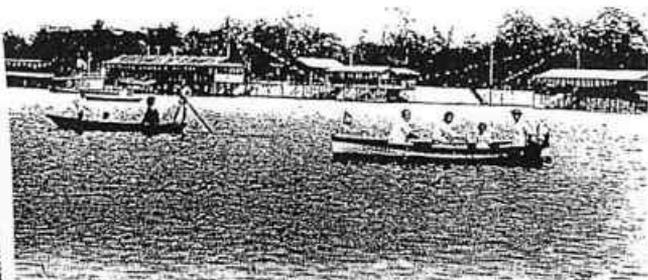
飯香岡八幡宮



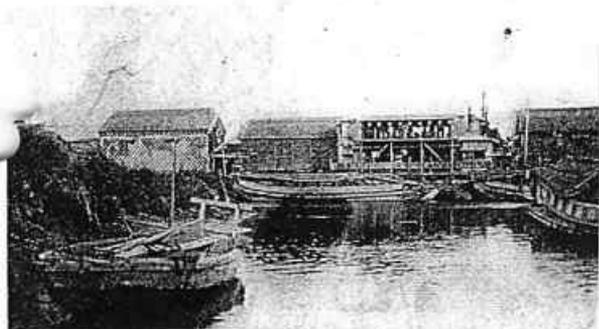
見学する本殿内部



昭和30年代の八幡海岸



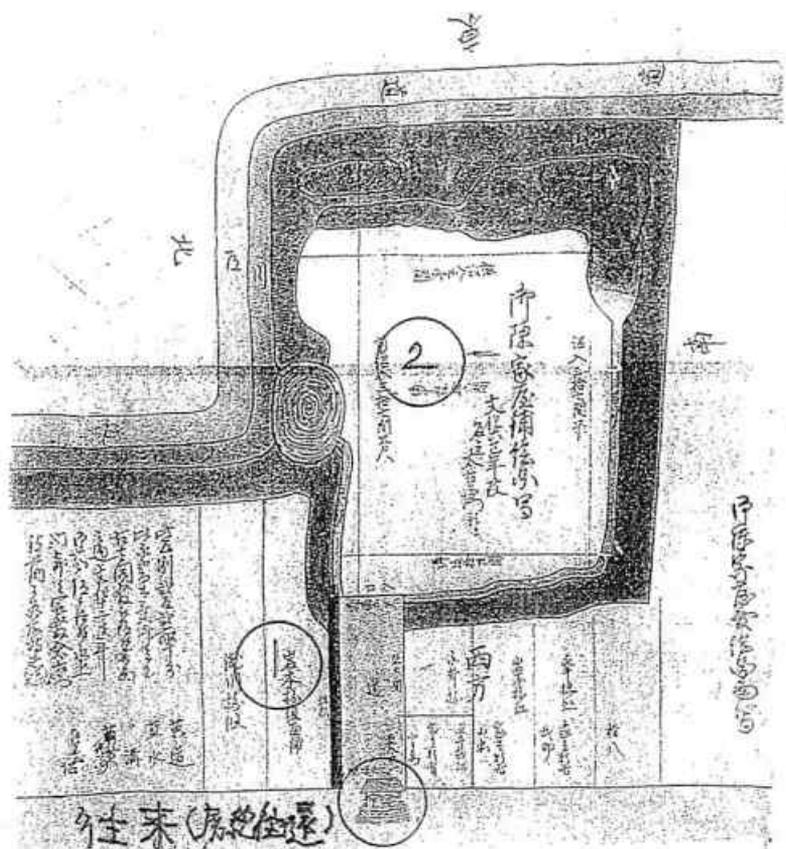
「海の家」とボート遊び



大正時代の「浜本町みお」



海苔養殖の乾燥



往來(原形復元)

じんや家に伝わる「拝領御陣屋敷図面」

#### 4 市原の中心都市として発展した五大力船の町～八幡河岸(浜本町)

##### ①船関係者が居住、米穀薪炭などの問屋や蔵で賑わう

江戸時代「問屋を商う商人やその蔵が集まる一つの商業集落」を「河岸」といった。八幡の将棋盤のように区画された浜本町の街並みは河岸地の典型的な一例で、伊勢町通り、横町通り、八軒町、倉町、川岸などの街区名が伝わる。廻船問屋や船主、船乗り、船大工、はしけや輸送作業の人たちが居住、一列目の「伊勢町」「倉町」あたりは米穀、薪炭などの大店が多かった。大正時代に入り、河岸地の賑わいに陰りがみえだすと市原の中心地は五井地区へと移った。

##### ②昭和30年代の海岸埋立てで、みお筋は八幡運河となり、竪みおと横みおは住宅街や集会所に替わった。

##### ③江戸時代、庶民は名字名乗りが許されなかったことから船名や店名や出身地などの通称「屋号」で呼び合った。いまでは知る人も少なく、古くからの人たち同士の合いことばになっている。

##### ④大正から昭和時代、五大力船に代わって海苔養殖が始まり、あさりのつくだ煮工場や潮干狩り客で再び活況を呈した。あれから60年余り、町に海はなく、潮の香り一つ漂うことはない。「海の町」はとっくに死語になっている。

##### ⑤浜本町(はもと)=八幡地区(大字八幡の小字名。港の本町から

##### ⑥竪みお、横みお跡、荷揚げ場跡、佃煮工場跡、漁業協同組合跡、蔵跡、廻船問屋、船持ち、船乗り、はしけの人たち、湯屋跡

##### ⑦魚惣=明治30年創業の料亭、海の家、昔の八幡に詳しいアキおばあちゃんち

##### ⑧元船大工棟梁宅=近江の出。信長琵琶湖船大工子孫? 代々五大力船を作った船大工

#### 5 房総往還 宿通りと伝八幡藩大名陣屋跡

##### ①武道館前の小さな交差点が房総往還「八幡宿」の中心地で高札場跡。道路を挟んだ鈴木家は代々旗本永井組肝入り名主で名字帯刀が許された。八幡宿には決まった本陣はなく8給年番名主が持回った。年番は八幡組合村15か村寄せ場大総代も兼ねた。

##### ②高札場は幕府の法度や掟書などを書いた木の札を掲げて置く場所のことで、全国に6万か所、多くの人の目にふれるよう村や宿場の中心地や主要道路の交差点に立てられた。通常、高札場を中心に継立て伝馬所と本陣、旅館や木賃宿、商店などが並んだが、図面や伝承がなく八幡の宿場機能はほとんど解明されていない。

##### ③宿通り(県道24号線=バス通り)を参勤交代の久留里黒田藩、佐貫阿部藩、勝山酒井藩、館山稲葉藩、五井有馬藩、房総5藩の大名行列が進んだ。継立人足を含めた供揃いは久留里藩がおおよそ200人、ほかは1万石クラスで60~100人。参勤交代は普通1年だが、譜代小藩は半年ごとに交代した。往道は千住、復路は逆井の渡し、市川・小岩関所回りが多かったが、急ぎ旅で八幡に休泊することはなかった。

##### ③鈴木家は八幡地区屈指の旧家で、元禄時代の久保八幡藩1万石陣屋、堀八幡藩1万石陣屋ともされるが実証されていない。

##### ④鈴木家は文化6年旗本永井家から陣屋跡地と「陣屋名乗り」を許されとする「拝領地絵図面」を所蔵する。往還から50mほどの引込み道があり、川、溝とする堀、土塁に相当する竹山が囲んだ。東西37間×南北15間、面積おおよそ6百坪、おおむね現況に近く、年貢米蔵を中心とした地方陣屋を想定させる。

##### ⑤明治維新後、鈴木家は醤油と味噌醸造所を興した。醤油工場の敷地が駐車場として残る。鈴木本家と分家から八幡・市原町長と初代市原市長が出た。

## 6 今回見学できなかった八幡の見どころ～後日ぜひ回ってください

- ①無量寺(浄土宗)=伝白鳳年間創建、八幡海岸に出現した「阿弥陀如来像」を本尊とする。八幡宮、千葉氏ゆかり寺で、「伝千葉康胤中世五輪塔」や不動明王像、巡拝塔、回国塔など石仏が優れる。旧盆の「おえんまさま」はえんま十王像などを公開する。
- ②称念寺(〃)=天正3年生実・大巖寺念仏道場として創建、参道の経塔は増上寺住職・祐天上人の書。山門近くに並ぶ50基ほどの小型五輪塔は圧巻、すべて無銘だが、室町中後期、僧侶か武士層の供養塔と考えられ、町域造成を知る上からも重要だ。石仏にみるべきものが多く、著名日本画家・山口達画伯の作品が本堂や鐘楼などを飾っている。
- ③円頓寺(日蓮宗)=浜野・本行寺末、「上総七里法華」の祖・日泰上人創建で没寺。明治7年当寺本堂において八幡小学校を創立、令和元年の台風被害で本堂を大破、現在改造中。それまで毎年の新春初祈禱会で「水行」が行われていた。
- ④妙長寺(〃)=池上本門寺末。八幡の寺院ではもっとも古い正長2年、日行聖人創建という。本堂前の日蓮聖人座禅像は日行聖御作、千葉県は日蓮の誕生地で遺跡も多いが、石像ここ以外にはみあたらないという。
- ⑤胴埋塚=室町時代の関東動乱、「小弓城の戦い」で敗れた千葉康胤が村田川で討ち取られ胴体を埋葬したとされる。
- ⑥猿田彦神社と庚申塔=猿田彦は国つ神の(地神)一つで八幡宮神話ともかかわる。かたわらの碑が神社の由来を記し、庚申塔は元禄6年、村人12名を刻む。
- ⑦市原出途=出途の途は入口、あわせて八幡から市原方面への出入口と読む。大多喜街道(九十九里往還、鶴舞街道)の起点だが、元は市原の高台から五所小学校に抜けた「古代官道」(鎌倉街道)のバイパス道路で、五所を通らずに八幡へ直行した。出途の呼び名も明治以降の可能性はある。
- ⑧明治維新後、市原出途、南町一帯は市原の内陸部や外房方面からの米穀、薪炭、材木、わら製品などの集散拠点となる。乗合馬車発着所、人力車立場が置かれた。また周辺は醤油醸造所、佃煮工場、漁業組合牡蠣養殖研究場などで活況を呈した。
- ⑨市原出途の庚申塔兼道標=道標は路傍に立てた道しるべで、元は出途三差路のパチンコ店前にあった。昭和40年代現在の八幡様境内浜本町側に移築。「山伏角柱」正面に「青面金剛尊」、左右側面に「左(北)江戸への道」「左(南)かさもりへの道、右(東)たかくらへのみち」と「坂東33観音霊場」の行き方を示す。現状方位はおおむねあっている。
- ⑩菊間出途=古くからの八幡地区と菊間地区をつなぐ間道。明治元年沼津藩・水野忠敬5万石の菊間転封で引込み大手道となったが、4年に廃藩置県となった。
- ⑪観音町入口の東金みち道標=かつての八幡宿入口。宿の出入口には村への災害や悪疫の進入を守る「庚申塔」が立てられた。安永10年碑は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を記す。茂原をへて東金に通じた間道で一部が現存する。
- ⑫境川と村田川の渡し=村田川は上総、下総の境川で、房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代橋は許されず、旅人たちは干潮時は歩渡り、水多いとき片道2文の渡し船を使った。参勤交代は船橋とも考えられるが、しくみや船頭、船数など、渡船の具体的内容は不詳。明治7年架橋。戦後、河川の改修工事で100mほど移動、旧村田川と渡船場は現在、村田川公園になっている。

以上

お願い

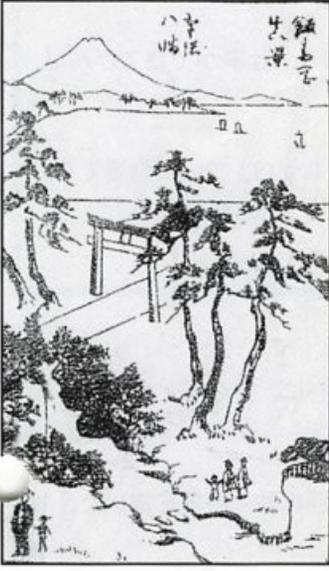
- ①コースに住宅地があり、ご近所や通行者にご迷惑がかからないようご注意ください
- ②一部に足元が不安定な所があります。事故のないよう、安全には十分ご注意ください

市原市立八幡公民館  
運営委員会広報部  
2022年(令和4年)8月20日 発行  
第 38 号

# 八幡公民館 運営委員会

## 八幡公民館だより

☎ 290-0062  
市原市八幡1050-1  
TEL 0436-41-1984  
FAX 0436-43-7457  
八幡公民館  
発行責任者 安藤岩男  
印刷 千代田PTO印刷



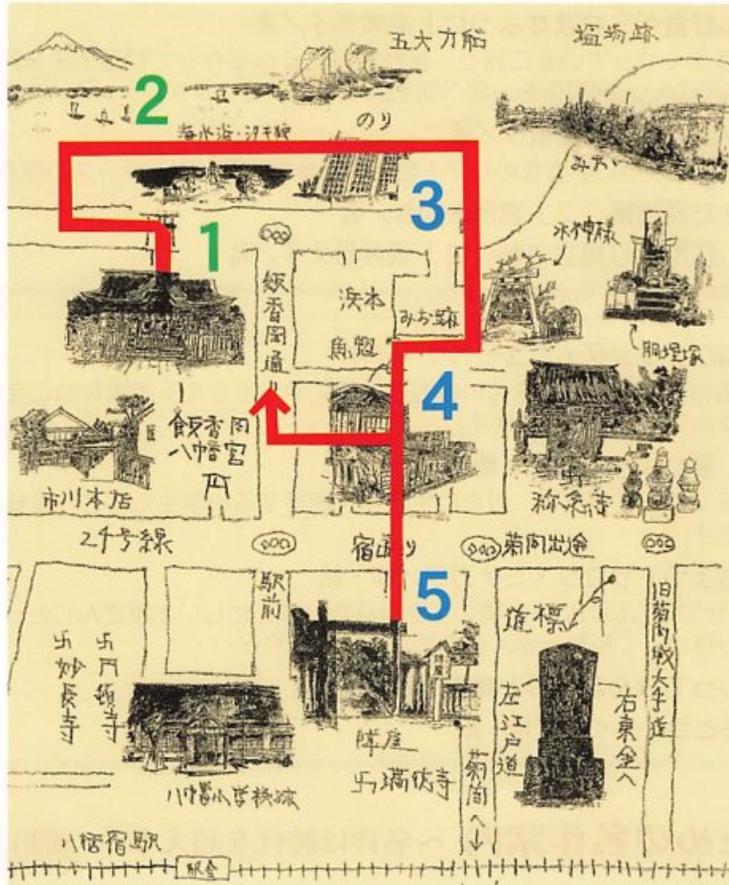
飯香岡真景、南総八幡  
(明治43年=飯香岡八幡宮版木)  
八幡宮の清見の滝越しに、洋々と広がる東京湾と富士山を遠望。かつての八幡海岸が偲ばれる。



運動公園裏(旧岸壁・地図2)



重要文化財の本殿(地図1)



「八幡さまと海の町を歩く 八幡歴史ストリート」  
四月二十八日(木)「いきいき八幡塾」三回目。山岸弘明氏を講師に招き八幡街歩きを実施しました。飯香岡八幡宮をスタートして、運河から旧家魚惣へと歴史を学びました。

### 主催事業の様子

## いきいき八幡塾 八幡街歩き

★**四年以上に大祭を縮小復活**★  
六百年以上続く「柳楯」は秋季大祭の中心的行事。市原の司家で

く聞き入る。(地図1)

★**始めに八幡宮ありき**★  
公民館の講師も務める平澤牧人宮司が「飯香岡八幡宮へようこそ」とにこやかに迎えた。「社名」は日本武尊が「この飯の香りしくよろし」と言われた故事とのこと。普段は上がることのない社殿へ。厳肅さに思わず身が引締まる。拜殿は参拝者、幣殿は宮司が祝詞をあげ供物や献上物を授受、本殿は神域で、室町中期建造。国の重要文化財に指定されている。正面御鏡の奥がご神体を祀る神座、他社とくらべてひと際大きく扉は内開き、至徳元年将軍足利義満奇進みこし四基を収納する特別な造りという。木造こま犬隨身像神額、建築様式など詳細な説明を興味深く聞き入る。(地図1)

調整した柳の楯を古代道、五所を経由して神前に供える。柳楯が到着しない限りみこし渡御が開始できない。ことし九月十一日の大祭はみこし渡御を縮小、台風被害、コロナ禍中止後四年ぶり復活が決定、宮司の表情も明るい。

### 総会を開催

令和4年度第1回運営委員会総会が5月29日(日)、開催され、令和3年度事業報告・収支決算報告が承認されました。



★**大海原に富士山が浮かぶ**★  
運動公園旧岸壁に移動、埋立て工場街を遠望。かつて満潮時はこの岸壁まで波が押し寄せ、干潮時は四kmほど砂浜に変わった。目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せた。黒松林が続く「白砂青松」、遠く近く帆船が行き来した。江戸時代は海も神領、仲秋名月の大祭はみこし汐垢離のため1km先の海中鳥居と自噴井戸を回った。(地図2)

(文責・山岸弘明) 次号へ続く

市原市立八幡公民館  
 運営委員会広報部  
 2022年(令和4年)11月20日 発行  
 第 39 号

# 八幡公民館 運営委員会

## 八幡公民館だより

☎ 290-0062  
 市原市八幡1050-1  
 TEL 0436-41-1984  
 FAX 0436-43-7457  
 八幡公民館  
 発行責任者 安藤岩男  
 印刷 千代田PTO印刷



いちほらフィールドマップ八幡 = 市原歴史博物館提供

### 主催事業

## 「いきいき八幡塾」八幡街歩き 2

前号「いきいき八幡塾」街歩きの後半。八幡海岸跡から八幡港、河岸跡、宿通りを回る。

#### ★潮干狩りにぎわう★

戦後の八幡海岸は潮干狩りと海水浴、すだて場として賑わった。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が並び、東京の学童を乗せたボンネット観光バスが八幡中学校校庭(現在・運動公園)を埋めた。漁業組合が合図の旗を掲げた。海の家利用料三十円、漁業権三十円、熊手(マンガ)十五円、網は五円だった。めいっばい網を膨らませた「あさり」をおみやげに、飛切りの大自然に子どもたちの歓声がはずんだ。満潮時は大人の胸ほどになる。海は海水浴場となり、貸ボートが活躍した。すだて場は三井造船の所にあった。客が素手で捕えた魚を舟で料理して食べさせた。

#### ★ピカリ二万両★

海はまた八幡の人たちにとって生活の場で仕事場でもあった。大正初めから海苔の養殖が始まる。海苔は厳冬の手作業。まだゴム手袋もなかった時代、シパれる海水で両手が真っ赤にあかされた。収穫の日は夜明けを待ち切れずナマ海苔を刻む包丁の音が町中に響く。運動公園などの空き地に海苔干し台が並んだ。「ピカリ(ひと晴れ)二万両」、サラリーマンが月給八千円の時代、海苔業者の羽振りはよかった。

#### ★漁業権放棄と海岸埋立て★

昭和三十二年、八幡五所漁業協同組合は千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、八幡海岸はあっという間に埋め立てられて、進出企業の大規模プラントが操業を開始した。小学校の時、遠足で潮干狩りに来た、という参加者の一人は思い出を手繰りながら、海の変わりように言葉を失った。



潮干狩りと海水浴で賑わった戦後の八幡海岸 = 市川本店提供

#### ★江戸へ米や薪炭を運んだ★

八幡運河になった旧岸壁伝いに八幡港(浜本町)お跡へ。八幡は木更津とならぶ港町として発展、五大力船が江戸へ米や薪炭、材木、わら製品を運んで、帰り船で衣類や酒、日用品や江戸文化を持ち帰った。船の積載量は五十石から一五〇石(およそ二十二トン)、海川両用の中型帆船で、江戸時代、船株三十艘、実働十三〜十四艘、最盛期の明治後期は三十艘をかぞえた。乗組み員三〜五人。その力強さを大力の「五大力菩薩」に例えた。

# サークルの紹介

文化集団このゆびとまれ 代表 高橋 睦子

平和の歌や勇氣の  
る歌を仲間と声を合わ  
せて歌っています。  
毎日起きて食事して  
好きなことが出来るの  
は平和があつてこそ。  
落ち込んでいても、悩  
んでいても仲間と歌え  
ば勇氣がでる。これか  
ら私たちが歌い続け  
ます。  
毎年夏の平和行進、  
平和フェスティバルに  
出演しています。ご一  
緒にいかがですか。



## 主催事業 活動の様子

四歳児から中学生ま  
で十九人が参加。文化  
祭が中止になり、最終  
回に講堂で発表しまし  
た。キレイレのかっこ  
いいダンスを保護者の  
前で披露しました。



(9/25, 10/2, 10/9, 10/16)

第1面から続く

### ★海上九里、江戸まで順風三時間★

八幡から江戸へ海上九里(およそ三十五km)。五大力船は帆にあたる風を推進力としたので、所要時間は天候に左右された。順風三、四時間、逆風もジグザグに前進した。「板子」一枚下は地獄。船乗りたちは危険と隣合せだった。八幡港は遠浅のため、積荷のまま港に入らず、いったん海上に係留、荷物の積下ろしははしけ船が中継した。帰港は帆をたたみ、横みやお称念寺裏、現在のベイシア辺りの船溜まりに停泊した。大正時代、鉄道と自動車普及とその役割りを終え消滅。堅みおは現在住宅街、横みおは白金通りや町民会館。船乗りたちが信仰した大海住神社がひっそりとたたずむ。

### ★五大力船の町。浜本町河岸★

江戸時代「問屋を商う商家や蔵が集まる商業集落」を河岸といった。年貢米の集積基地として発展した浜本町に、伊勢町通り、横町通り、倉町、川岸などの街区名が残る。かつて米穀薪炭問屋、船主、船乗り、船大工たちが居住、古い街並みは「海の町」を彷彿させる。料亭「魚惣」の元女将・清水あき子さん(九十四歳)が、手作りの五大力船折り紙をプレゼント。手指の運動に年に千個は折る。まだまだ矍鑠、ひとしきりむかし話がはずんだ。一同元氣をもらって足取りも軽い。

### ★房総往還、高札場と陣屋★

バス通りは、通称「房総往還」といった。往古「古東海道」に所属、日本武尊が東国征伐の兵を進め、菅原孝標の女は「更級日記」を、源頼朝は源氏再興の夢を鎌倉で結んだ。江戸時代、黒田久留里藩、有馬五井藩など房総諸藩の大名行列が進み、旅人



五大力船八幡海岸船ぞろえ＝寛政6年、飯香岡八幡宮大給馬

たちが徒歩で江戸をめざした。

八幡武道館前の小さな交差点が宿場町の中心地で高札場があった。かつて継立伝馬所、旅館や木賃宿が並んだ。本陣は年番名主の持回りで八幡組合村十五か村の大総代を兼ねた。八幡武道館そばの広い駐車場一帯を所有する鈴木家は、元禄時代の大久保八幡藩、堀八幡藩陣屋跡ともいわれ、江戸後期文化六年の旗本永井家「御陣屋地拝領絵図面」を所有する。

### ★房総往還高札場と陣屋★

五所(御所)の地名となった、房総最大の武将・足利義明ゆかりの満徳寺と、いちようの葉をあしらったJR八幡宿駅を遠望。駅は明治四十五年、国鉄木更津線として蘇我駅から浜野、八幡宿、五井、姉ヶ崎駅間を開通。戦後まで両国始発の蒸気機関車が走った。八幡宮境内の史跡に触れながら八幡公民館に戻る。参加者の一人は「普段気が付かない町の歴史がわかって楽しかった」と振り返った。

### ★「八幡フィールドマップ」を歩こう★

市原市では十一月二十日、市民待望の「歴史博物館・アイミュージアム」が開館、明年度の街あるき講座で見学会を検討している。先行して始まった「いちほらフィールドマップ」で「歴史遺産標柱」が建立された。八幡では、房総往還、無量寺、飯香岡八幡宮、八幡港跡、若宮八幡神社、御墓堂墓地五輪塔、村田川渡船場跡の七か所。QRコードにスマホをあてると、説明文が現れる。マップ図を片手の「標柱めぐり」も楽しい。皆さんも「八幡さまと海の町」を歩いてみましょう。

(山岸弘明「主催事業「八幡史学館」講師」お断わり「八幡公民館エリアものがたり」は休載しました。)



八幡港の海津見大神(水神様)



八幡河岸地の元料亭(明治の建物)

77

令和4年8月23日

山岸 弘明 様



市原市教育委員会

教育振興部 生涯学習センター

担当 松下・宇野

電話 0436(20)1180

FAX 0436(25)2577

syougaigakusyuu-center@city.ichihara.lg.jp

---

### 書類等送付のご案内

---

時下益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

この度は、いちほら市民大学教養講座「歴史探訪講座」の講師をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

下記のとおり送付させていただきますので、宜しく御査収ください。

---

① 講師依頼文

② 「いちほら市民大学」講義にあたってのお願い

③ 口座振替依頼書

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、②「いちほら市民大学講義にあたってのお願い」を御一読いただき、「いちほら市民大学参加者情報及び同意書(講師用)」を講義当日に担当へ御提出くださいますようお願いいたします。
- ③口座振替依頼書は、昨年度と同じ口座の場合は、提出不要です。ご変更がございましたら、必要事項をご記載の上、講義当日に担当へ提出いただくようお願い申し上げます。
- 謝金は、源泉徴収税(10.21%)が引かれた額を講座終了後にお振込いたしますが、振込までに1ヶ月ほどかかってしまう場合がございます。御不便をおかけし恐縮ですが、あらかじめ御了承ください。

以上、お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

市教生セ第5390号

令和4年10月1日

山岸 弘明 様

市原市教育委員会  
教育長 林 亮

令和4年度 いちはら市民大学教養講座（歴史探訪講座）の講師について（お礼）

秋冷の候、山岸様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。  
日頃から市原市の生涯学習推進に御理解、御協力を賜り厚くお礼を申し上げます。  
さて、過日開催いたしました「いちはら市民大学」では、御多用のところ講師として御  
講義いただき、深く感謝申し上げます。  
おかげをもちまして、受講生全員が有意義で充実した学習を行うことができました。  
市原市では、今後も生涯学習による人づくり、まちづくりに取り組んでまいりますので、  
引き続きの御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただきます。

問合せ先 市原市教育委員会 生涯学習センター 担当 松下・宇野  
〒290-0081 市原市五井中央西 1-1-25 サンプラザ市原 10F  
TEL 0436-20-1180 FAX 0436-25-2577  
E-Mail syougaigakusyuu-center@city.ichihara.lg.jp

山岸 弘明 様

市原市教育委員会  
教育長 林 亮



令和4年度 いちはら市民大学教養講座「歴史探訪講座」の講師について（依頼）

残暑の候、山岸様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。  
日頃から市原市の生涯学習推進に御理解、御協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、本市では、学習機会の提供による市民力の向上を目的に、「いちほら市民大学」を開催しております。

この度、教養講座「歴史探訪講座」を、下記のとおり計画いたしましたので、御多用中のところ大変恐縮に存じますが、御講義いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 日 時 令和4年9月29日（木） 13:00～17:00
2. 講座内容 『八幡町歩き』
3. 会 場 JR八幡宿駅周辺
4. 参加人数 25名程度
6. 感染症対策 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、別紙「いちほら市民大学講義にあたってのお願い」に記載された対策に御協力ください。
7. その他
  - ・講義に使用する資料等がございましたら、こちらで印刷をさせていただきますので、開催日の一週間前までに御連絡ください。
  - ・講義当日は、講義開始20分前には会場にお越しくください。

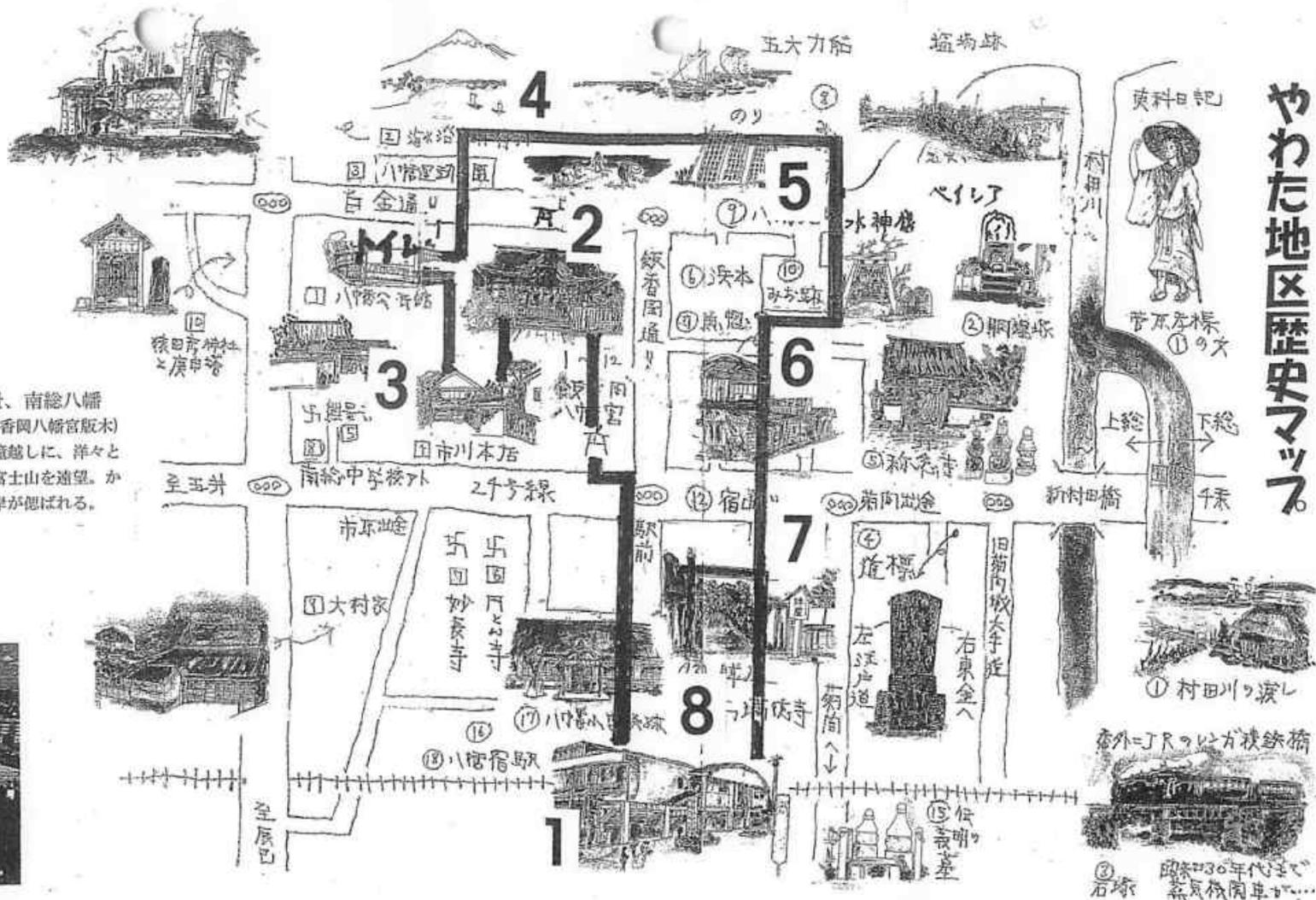
問合せ	市原市教育委員会 生涯学習センター 担当 松下・宇野 〒290-0081 市原市五井中央西 1-1-25 サンプラザ市原 10F TEL 0436-20-1180 FAX 0436-25-2577 E-Mail syougaigakusyuu-center@city.ichihara.lg.jp
-----	---



飯香岡真景、南総八幡  
 (明治43年=飯香岡八幡宮版木)  
 八幡宮の清見の滝越しに、洋々と  
 広がる東京湾と富士山を遠望。か  
 つての八幡海岸が偲ばれる。



高層マンションから八幡宿駅周辺をのぞむ



市原市生涯学習センター 市原市民大学「八幡町歩き」

「八幡さまと海の町」を歩く

令和4年9月29日(木曜日)

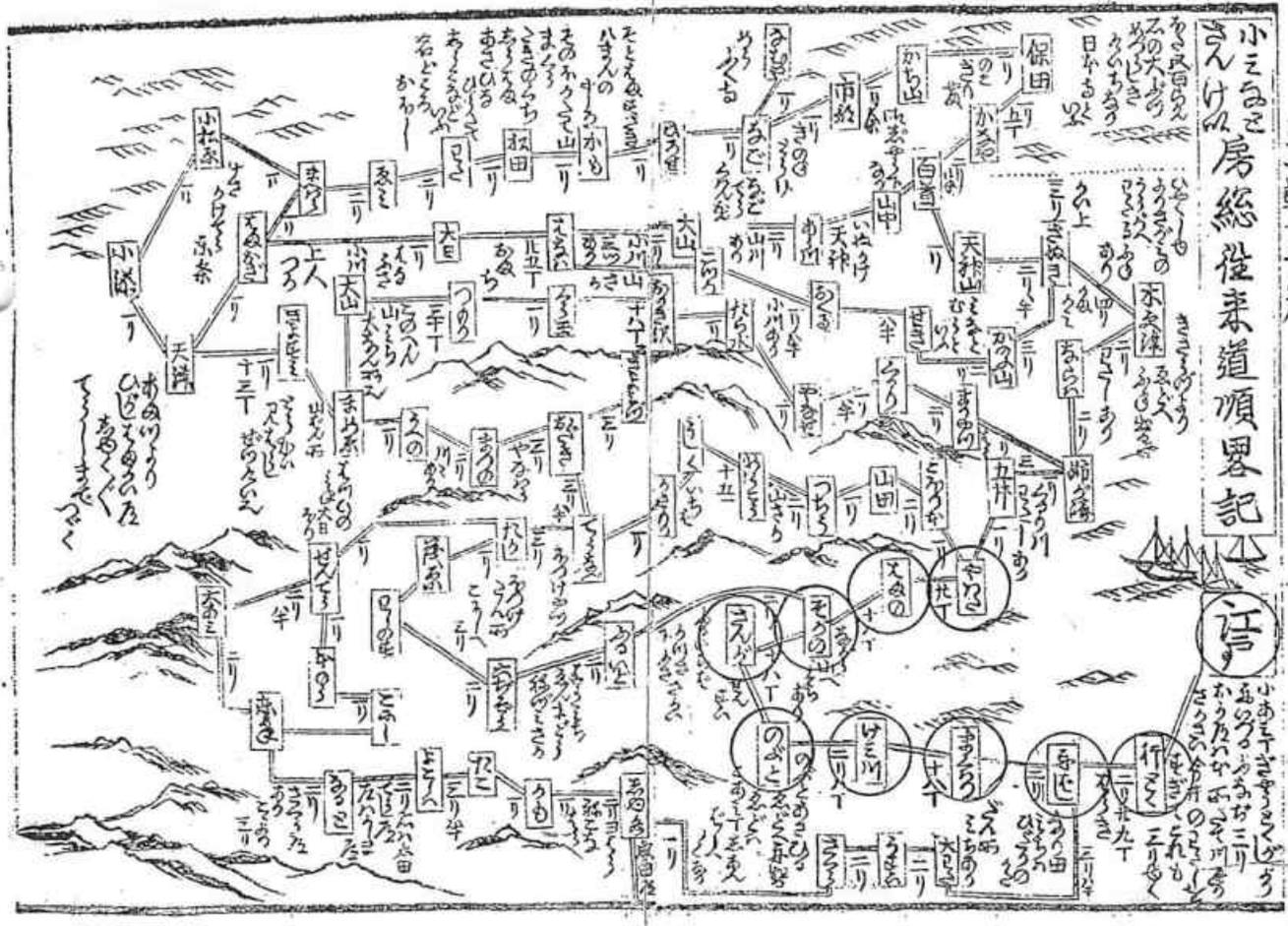
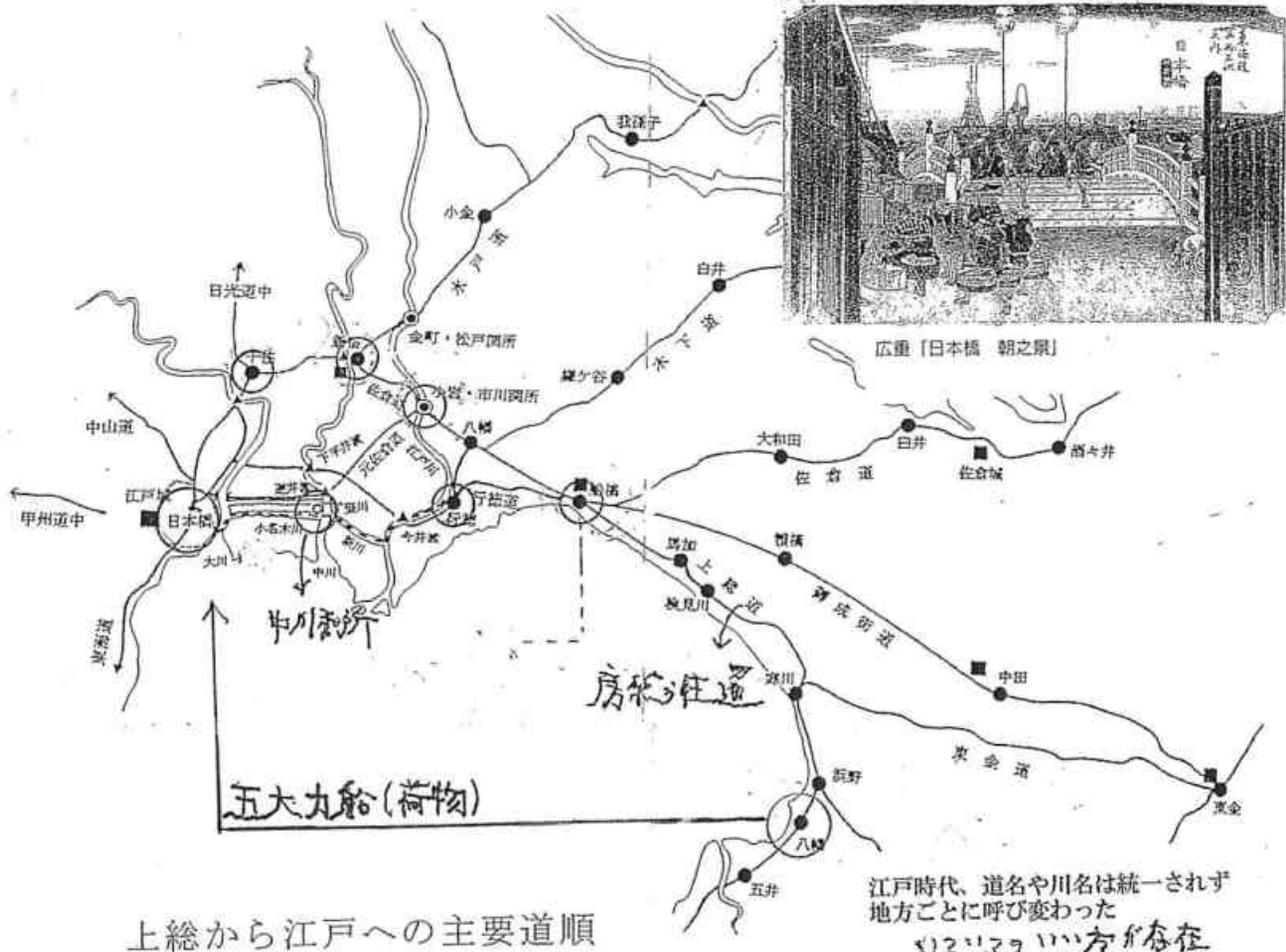
山岸弘明

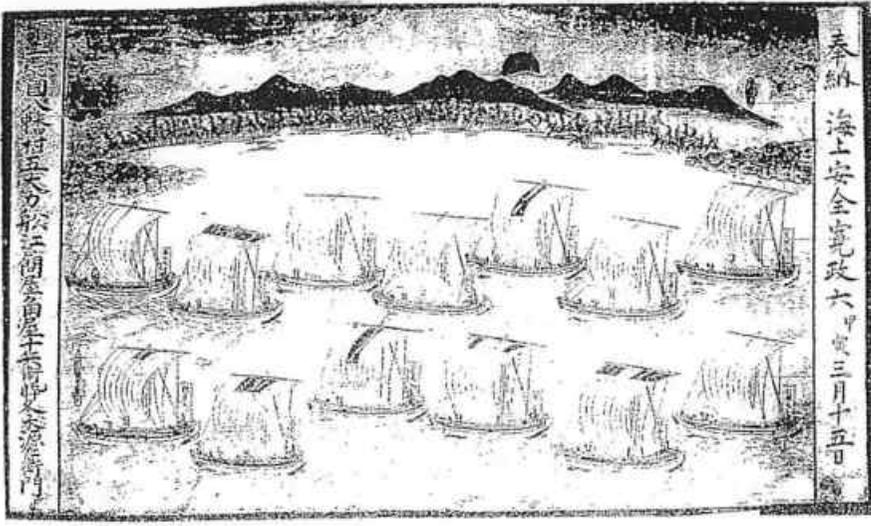
ご案内主要行程

- 13時00分 八幡宿駅西口小湊バス停前集合(主催者あいさつ、コース概要、地名由来)
  - 13時30分(40分)飯香岡八幡宮 社殿前、建物内部(国重要文化財昇殿)
  - 14時15分(15分)市川本店 外観、軒場、醤油醸造所跡
  - 14時40分(10分)八幡公民館 小休止(トイレ)
  - 15時00分(15分)八幡海岸跡 海水浴、潮干狩、すだて、海苔養殖場跡遠望
  - 15時30分(20分)八幡湊、河岸跡(江戸への物資供給拠点、五大力船の町、市原最大の盛り場)
  - 16時00分(15分)房総往還(日本武尊、菅原孝標女、源頼朝伝説。江戸道。宿場町、陣屋)
  - 16時45分 万徳寺=関東公方復活にかけた足利義明ゆかり地(省略することがあります)
  - 17時00分 八幡町散策、解散
- (天候その他の理由でコースを変更することがあります)

やわた地区歴史マップ







八幡村五大力船々揃い図

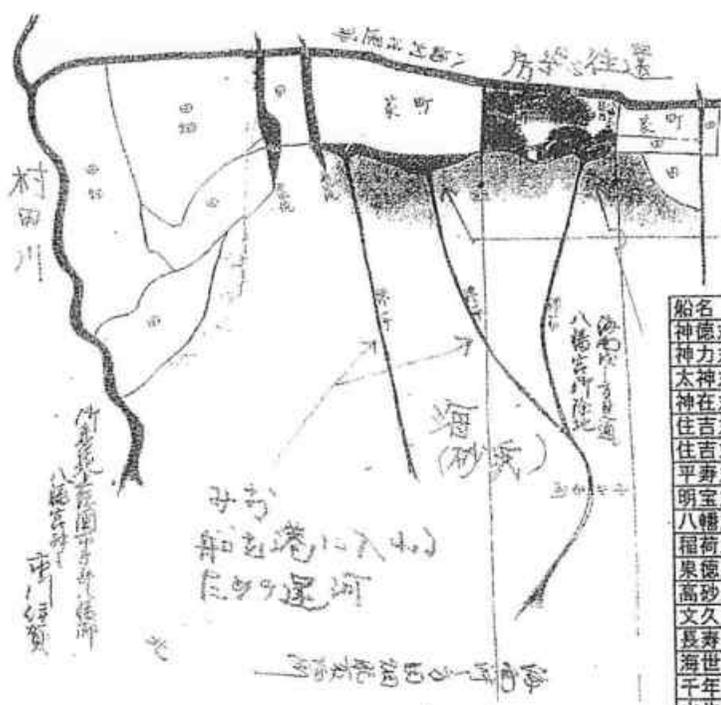
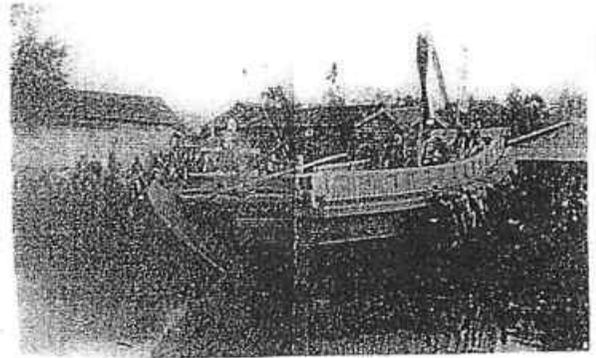
(寛政6年=飯香岡八幡宮宝蔵庫展示大絵馬)

初代登亭北斎画。ピカソに影響を与えたとされる葛飾北斎の門人で、北斎の洋風版画を引き継いだ個性的作品が多い。市原台地の日の出、青松林などに片鱗、五大力船は船名や帆印、船乗りや積荷、手信号などが詳しく描写している。

八幡港の五大力船

五大力船は江戸内湾で発達した荷物運搬用海川両用の大型帆船である。積載量60~150石、長さ10~20m、乗組み3~4人。力強さを五大力菩薩に例えた。八幡港は木更津とならぶ江戸への物資供給拠点で、船株30艘、実働およそ13艘、最盛期の明治末期に30艘を数えた。明治6年の八幡船改所文書群が現存、地元の「市原の古文書研究会」が船舶台帳、出帆免状、積荷明細などを解析している。

大正時代の五大力船船下ろし



幕末慶応2年の八幡港みお図

明治6年の八幡村五大力船と積み荷

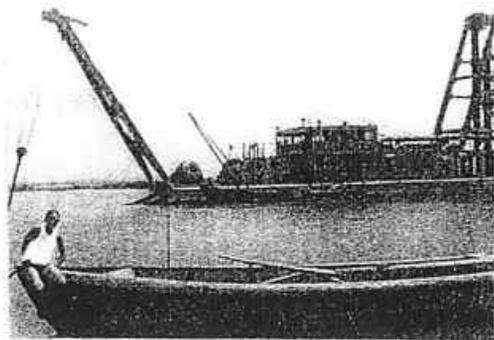
船名	積み石	船主	母港	出帆割	米(俵)	炭(俵)	薪(束)
神徳丸	100	石橋清次郎	八幡	48	50	24,340	8,900
神力丸	120	石井仲蔵	八幡	44	2,551	29,107	10,810
太神丸	100	永野善五郎	八幡	43	685	17,850	35,750
神在丸	115	城谷伴蔵	八幡	38	1,404	24,960	9,950
住吉丸	100	丸長次郎	八幡	32	4	3,486	1,600
住吉丸	90	雪本権次郎	八幡	31	45	8,635	0
平寿丸	81	北嶋巳之吉	八幡	31	1,438	4,040	1,500
明宝丸	90	藤本五郎治	八幡	31	1,560	13,753	1,000
八幡丸	80	木村善吉	八幡	31	1,120	11,260	6,621
福荷丸	120	松田豊吉	八幡	30	0	5,334	1,000
泉徳丸	80	小林七次郎	八幡	28	308	6,960	3,900
高砂丸	140	松田喜三次	八幡	26	0	7,145	900
文久丸	130	白鳥喜一郎	八幡	26	387	16,699	4,000
長寿丸	120	宮原六郎平	八幡	24	55	3,020	8,110
海世丸	80	白鳥留次郎	八幡	22	495	10,950	9,720
千年丸	100	伊藤久次郎	八幡	19	15	4,575	13,800
水生丸	100	白鳥喜八	八幡	11	230	3,300	1,700
明王丸	60	大宮常太郎	八幡	1	0	694	0
明治丸	58	小川亀吉	八幡新規	8	39	4,200	1,000
山王丸	50	板倉久八	八幡茶船	2	32	450	500
仙元丸	50	松田喜三次	八幡茶船	1	0	0	1,200
福荷丸	79	久保寺金左	野島浦	10	1,193	0	0
伝合丸	80	石橋伝吉	村田	3	190	250	0
朝日丸	80	高田徳兵衛	横須賀	2	0	440	0
神力丸	150	鈴木平七	木更津	2	450	0	0
取方丸	140	成島甚左衛	市原	2	0	0	0
浅間丸	58	近藤清蔵	横浜	1	85	0	0
合計				547	12,336	201,448	121,961

八幡船改所新文書解所

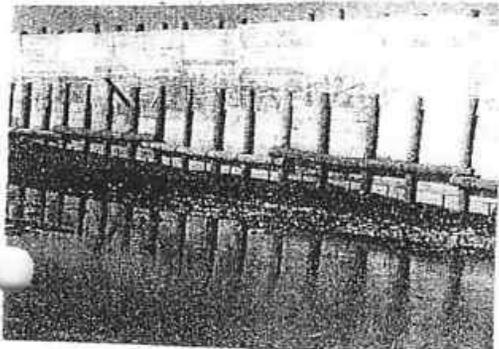
# 臨海工業地帯―埋め立てと開発



五井南海岸地区の埋め立て造成地。左岸は鎌倉川の河口域で、正副堤にはガラス管建設が埋立地の防波力と五井大の危険前と丸島石油が見える。(昭和35年報)



海水土砂の大型浚渫船



工事場所を囲む板囲い



浚渫の作業用土管



昭和三十一年(一九五〇)千葉県は「臨海埋立三カ年計画」を策定したが、その後の「総合開発計画」を含めた事業規模は浦安から船橋、千代田、市原、袖ヶ浦、水戸湾、君津におよぶ内閣部四十万坪を埋め立て、日本最大規模の「臨海埋立工業地帯」を建設するといふものであった。

最初の交地となったのが八幡地区であった。この年十一月、県は八幡五所漁業協同組合に対し、八幡沖の埋め立てを指示した。海を埋めるといふ突然の思ひの方向は当初は全員が反対、しかし年明けのころから情勢が一変した。漁業者は埋め立てによる不安と雇用の拡大にまなしいまちづくりに期待をかけたのである。

同三十二年十月、組合は「漁業釋放券」を交付し、県と調印し、五井や姉崎地区の漁業組合もこれにならった。いくばくかの補償金を手にした県民は自動車を操縦の外交員が押しかけ、

一部の漁業者は「五井は」の組合を先んで語り草となった。

埋め立ての工事はすぐに始まった。大型の埋立船で、土砂を運搬する。土砂は埋立船で運ばれ、八幡から五井、姉崎に続く市原の埋め立て造成がいっしょにすすんでいった。

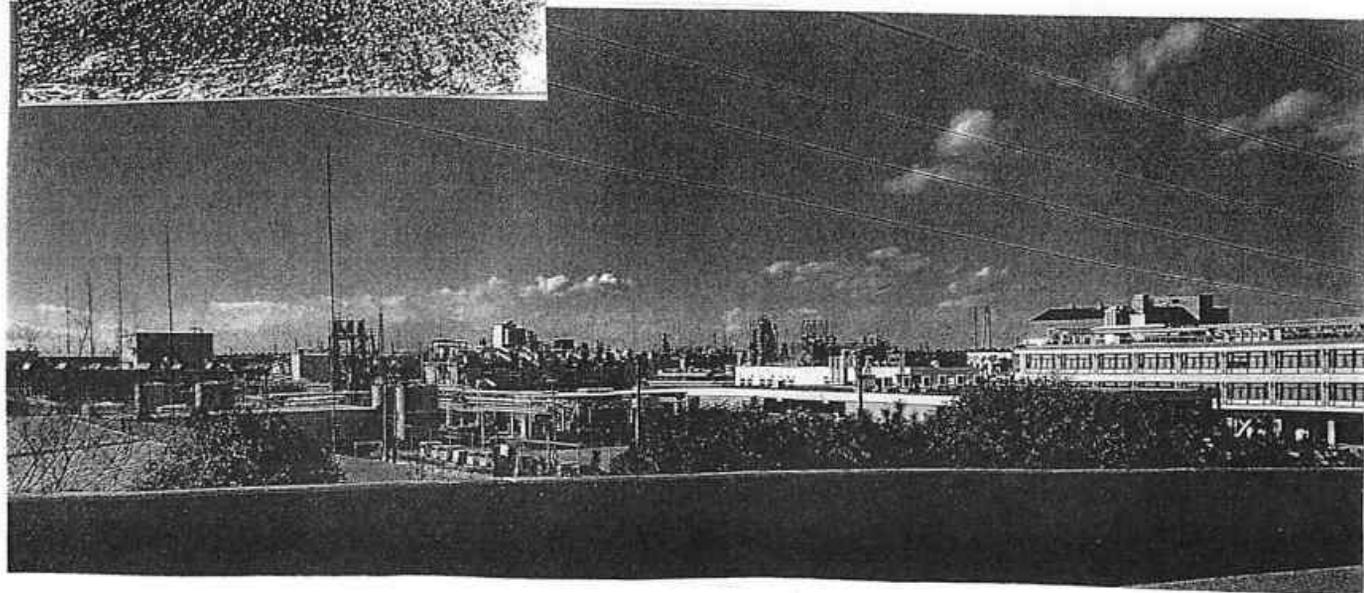
昭和三十三年、八幡地区には埋立船や電機、ガラス工場などが操業、五井、姉崎は石油コンビナートの大動工が建設された。また五井と船橋間に電線が敷設された。物産展として埋立船と埋立船が敷設された。

昭和四十年代の高層ビル建設には、石油製品の需要が拡大した。工場は増設につぐ増設、製油ラインがフル稼働した。市原は京葉工業地帯の中核として、日本有数の工業都市へと成長していった。

市制五十年、今日の市原市の発展は先祖代々の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあった。(山崎清樹)

## 市原市制 50 周年を記念した「市原市の昭和」

### 埋立て工事が進む



みなさんはむかし八幡が「海の町」だったことをご存知でしょうか。目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せました。気候温暖、加えて人柄も温厚、かつて五大力船が江戸・東京と結ぶ「物資供給拠点」として発展した八幡は「信仰」と海に支えられた「歴史の町」でもあったのです。昭和の八幡海岸は潮干狩りや海水浴場としてにぎわう一方、町びとたちの多くはわずかばかりの田んぼを耕し、海苔を養殖し、貝を拾って生活しました。「高度成長」が始まると千葉県は「京葉工業地帯」造成を計画します。海を埋め立てるといふ巨大プロジェクトに人々は驚きます。年寄りたちは先祖からの海をなくしてはいけないという意見でしたが、若い人たちの考えは違っていました。海苔や貝に頼る将来に不安を持つ一方、雇用拡大による新しい街づくりに期待したのです。

昭和32年、地元「八幡五所漁業協同組合」が「漁業権」を放棄、八幡海岸はあつという間に埋め立てられて、進出企業の大型プラントが建設されました。あれから60余年、八幡町はすっかり様変わりしました。歴史や文化など海岸埋立てで失った代償も決して少なくありません。しかし今日、工業都市としての八幡地区の発展は先祖伝来の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあったのです。きょうはみなさんを昔の「八幡さまと海の町」へとご案内します。

## 1 始めに飯香岡八幡宮ありき = JR八幡宿駅をスタート

### ①「やわた」の地名は飯香岡「八幡宮」に由来

飯香岡八幡宮の創建は不詳で、社伝は白鳳年間(7世紀後半ころ)「一国一社八幡宮」、天平宝字3年(759)全国放生の地に勧請された国府八幡宮の2説を記す。上総国府近く産土神(うぶすながみ)として成立、平安後期の「岩清水八幡宮上総市原別宮」、室町時代「市原庄八幡宮」後身ともいわれる。現在地移転時期も未詳で、室町時代中期が有力、八幡まちはその八幡宮門前町として発展した。

「八幡宮(神社)」は八幡神を祭神とする神社で全国におよそ4万4千社、神社ランキングで第1位という。由来するやわた市は京都府、福岡県(現在北九州市)、はちまん市は滋賀県の近江八幡市の3市、江戸時代の八幡宿は成田街道の市川市、中山道の佐久市、郡上八幡など多数、町や地区などの地名は数万か所ともいわれる。

②八幡宿駅一帯の江戸時代は飯香岡八幡宮の別当寺(神社を構成した祈祷寺)で、菊間・若宮八幡神社の別当寺を兼ねた靈応寺といい、通称で若宮寺を名乗った。本寺京都醍醐三宝院、飯香岡八幡宮朱印150石の内18石(+兼任支院分)を所領配当したが、檀家はなく、明治維新の「廃仏棄釈運動」で暴力的に破壊された。

③明治9年跡地の一部が八幡小学校となる。以後、八幡のこどもたちの「学び舎」として親しまれたが昭和42年老朽化と児童数の増加で、駅裏側の現在地に移転した。

④明治45年3月、国鉄木更津線の部分開通にともなって八幡宿、五井、姉ヶ崎の3駅が開業。駅名は大字の継立て宿場に由来、房総往還が脇往還のため正式な宿名として認められず、明治維新の時村名を八幡宿とした。機関車と客車は国産の中古車両で1日6往復、八幡宿の利用客1日およそ170人であった。戦後まで両国始発の蒸気機関車が真っ黒な煙を吐きながら走った。当初は単線、西口のみ小さな駅舎であったが、平成7年、現在のモダン階上駅に装いを一新した。

## 2 平澤神官に重文本殿を特別案内していただきます～「飯香岡八幡宮」

①八幡宮ははじめ「御影山」といい、往古、日本武尊が東征の途中着陣し、「この飯の香りしごくよろし」と宣われ、「飯香岡」の地名を賜ったという。治承4年、源氏再興に立ち上



## 平澤牧人宮司

昭和 51 年市原市生れ

國學院大學文学部卒業。「古事記」を中心に上代説話文学を専攻  
京都賀茂御祖神社、五井大宮神社をへて現在飯香岡八幡宮宮司  
著書に「房総の杜」「房総の伊勢信仰」「千葉県神社庁 60 年史」  
(共著)ほか

八幡公民館「八幡史学館」「古事記を読む」講師

がった源頼朝は鎌倉への途中、当社に立ち寄って戦勝を祈願、宮司が葛飾まで供奉して社領 150 町歩と社殿を寄進されたといわれる。また鎌倉幕府重臣であった足利氏は上総を準本貫地としたことなど当社との関係も深く、足利義満は至徳元年銘神輿 4 基を、足利義政は長禄 3 年現本殿を建立寄進した。天正 18 年豊臣秀吉の重臣として江戸に入府した徳川家康が 150 石の朱印を定めて明治維新におよんだ。

②本殿(国重要文化財)=外観は力強く簡素、室町中期の特色を伝える。内陣は義満寄進神輿を収納する特別な造りになっている。拝殿(県指定文化財)=屋根の唐・千鳥破風や彫刻、海老虹梁、組み物など、江戸初期の建築美が調和している。

③収蔵庫(今回は見学しません)=五大力船などの大絵馬、義満寄進みこし、徳川家康銘大太刀、当世具足などを所蔵している

④柳楯神事=秋季大祭の朝、市原台地の司家で調整された柳の楯を神前に奉納する特殊神事。600 年以上にわたる伝統が現在に引き継がれている。県指定有形文化財

⑤境内に夫婦いちょう、逆さいちょう、放生池、1 の鳥居、出羽三山塚、富士講塚、市原出途道標などの文化財がある

### 3 旧町家の面影を残す～天保時代創業の「市川本店」醤油醸造所跡と帳場

①市川本店は八幡宮創設以来の旧社家で八幡屈指の旧家。古来八幡宮神職の副業が認められ、江戸後期天保年間に醤油醸造所を創業、酒類問屋などを巾広く手がけた。「千葉県博覧図」がその繁栄を伝える。子孫が母家と帳場、門、蔵など江戸後期の歴史的建物に現住される。また明治維新期の当主が八幡宿戸長(村長)となり、千葉県創設期の戸長文書や五大力船改め所文書群などの貴重文書およそ 5 万点を保管、また、先代当主が撮影した貴重な戦前の八幡町 16 ミリ映画が発見されている。

小休止(トイレタイム)=八幡公民館(進行状況で変更することがあります)

### 4 東京から観光バスで潮干狩りに押し寄せた「八幡海岸」～いまは工場街

①八幡運動公園の八幡運河先の埋立て工場街はかつて遠浅で波静かな干潟地。満潮時は岸壁まで潮が押し寄せ、干潮時は 4 km ほど砂浜になった。海岸堤防にそって「白砂青松」が五井鼻に連なり、帆船が浮かぶ大海原に遠く富士山や丹沢山系が望めた。

②昭和の戦前、戦後期は、東京最寄りの潮干狩り場、海水浴場として観光バスを連ねた学童たちで賑わった。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が立ち並び、運動公園の八幡中学校校庭は臨時のバス駐車場になった。夏の海は子供たちの天国、海で泳ぎ、舟を持ちだして大自然を満喫した。

③海はまた、八幡の人たちの生活の場で仕事場でもあった。大正初めから「千葉海苔」の養殖が始まる。養殖はつらい厳冬の素手作業、早朝シガ波をかきわけてベカ船を走らせた。海苔の胞子が伸びたところで収穫。夜明けを待って大きな包丁で刻む。どの家からもトントンと海苔を刻む音が響いた。次いでヨシで作った海苔簾に刻み海苔を漉く。最後は乾燥、海岸や町中の空き地にならんだ海苔干し台は冬の風物詩となった。

④漁業権放棄による海岸埋め立て=昭和32年、千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、海が埋め立てられ、旭硝子、大日本インキ、富士電機、古河電工、三井造船などが相次いで操業を開始した。

### 5 江戸へ米穀、薪炭、材木を運んだ～五大力船の母港・浜本町みお跡

①江戸時代の八幡湊は南町みおと浜本町みおの2港で構成した。八幡は遠浅で大きな船が接岸できなかったため、人工運河の「みお」を開いた。「南町みお」は慶長19年、八幡村を所領とした本多正信、正純父子、永井直勝3氏の年貢津出し湊として構築、「浜本町みお」は船主仲間が築いた。「みお筋」と「豎みお」は航路で、「横みお」は船だまり(港)。積荷は海上ではしけ舟が中継した。満ち潮の時、横みおや雁田川を広げたベイシアや胴埋塚、称念寺裏の船溜りに停めた。八幡湊は巨大消費都市・江戸への米穀、薪炭、木材、わら製品の供給拠点として、また帰り船で衣料品や酒、日常雑貨、江戸文化を運んだ。八幡の五大力船は江戸時代は常時13、4艘、最盛期の明治後期は30艘を数え、上総屈指の経済都市・八幡町発展の担い手になった。のち鉄道と自動車が普及、その役割を終えて消滅した。

②「大海住(おおわたつみ)神社」は、古来八幡の五大力船々乗りたちが崇拝した水神様。カ石は船乗りたちが力くらべした名残という。

### 6 市原の中心地として発展した五大力船の町～河岸地跡

①昭和30年代の海岸埋立てで、みお筋は八幡運河となり、豎みおと横みおは住宅街や集会所に替わった。将棋盤のように区画された浜本町の街並みは旧河岸地で、伊勢町通り、横町通り、八軒町、倉町、川岸などの街区名が伝わる。廻船問屋や船主、船乗り、船大工、はしけや輸送作業の人たちが居住、米穀、薪炭などの商店や問屋、料亭などが軒を並べた。かつて「屋号」で呼び合ったが、いまでは知る人も少なくなった。大正から昭和時代、五大力船に代わって海苔養殖が始まり、あさりのつくだ煮工場や潮干狩り客で再び活況を呈した。あれから60年余り、町に海はなく、潮の香り一つ漂うことはない。すでに死語にも等しい「海の町」の面影を探る。

②豎みお、横みお跡、荷揚げ場跡、佃煮工場跡、漁業協同組合跡、蔵跡、廻船問屋、船持ち、船乗り、はしけの人たち、湯屋跡

③浜本町一列目の旧街区「伊勢町」「倉町」あたりは米穀、薪炭など大店が多かった

④魚惣=明治30年創業の料亭、海の家、昔の八幡に詳しいアキおばあちゃんち

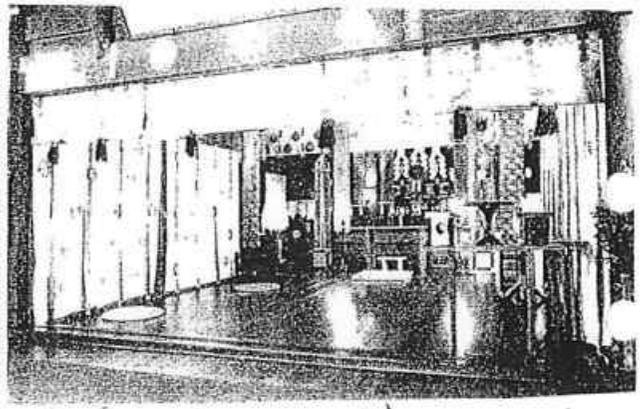
⑤元船大工棟梁宅=近江の出。信長琵琶湖船大工子孫? 代々八幡の五大力船を造る

### 7 房総往還 宿通りと伝八幡陣屋跡

①武道館前の小さな交差点が旧房総往還「八幡宿」の中心地で高札場跡、本陣は年番名主の持回りで、八幡組合村15か村寄せ場大総代を兼ねた。高札場を中心に継立て伝馬所、旅館や木賃宿、大型商店や問屋に混じって小商いが並んだ。宿通りを参勤交代の久留里黒田藩、五井有馬藩などの房総諸藩、大名行列が進み、旅人たちが江戸をめざした。



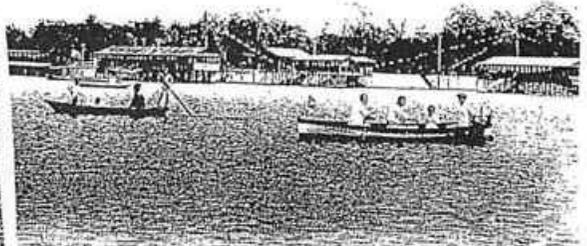
飯香岡八幡宮



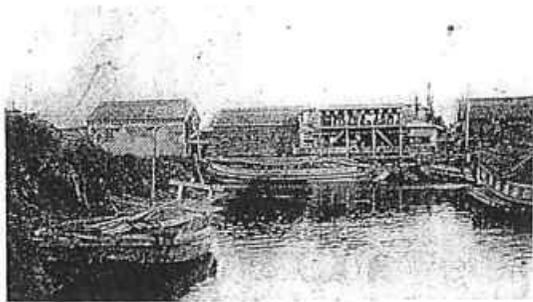
見学する本殿内部



昭和 30 年代の八幡海岸



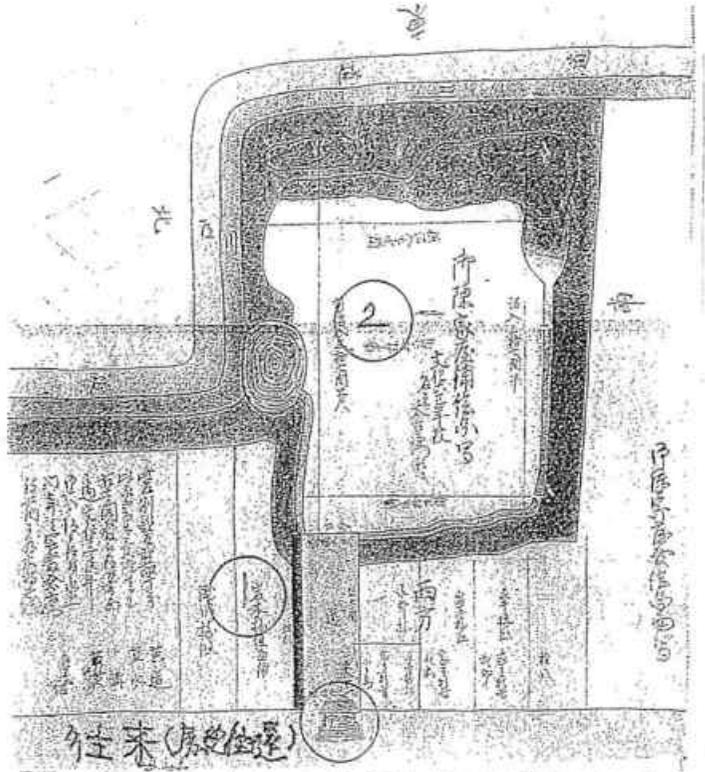
「海の家」とボート遊び



大正時代の「浜本町みお」



海苔養殖の乾燥



往來(原色復元)

じんや家に伝わる「拝領御陣屋敷図面」

②八幡武道館とじんや駐車場一帯は元禄時代の八幡堀藩 1 万石陣屋跡、また八幡大久保藩 1 万石陣屋ともいわれる。文化 6 年旗本 3400 石永井家の名主を勤めた鈴木家が陣屋跡地と「陣屋名乗り」の拝領絵図面を所蔵する。50m ほどの引込み道があり、川、溝とする堀、土塁に相当する竹山が囲んだ。東西 37 間×南北 15 間、面積およそ 6 百坪、図面は年貢米蔵を中心とした地方陣屋を想定させる。明治から戦中期は醤油と味噌醸造所を興し、鈴木家から八幡・市原町長と初代市原市長が出た。

## 8 国府台の戦いで壮絶敗死～足利義明ゆかりの満徳寺(省略することがある)

①足利義明は関東公方と上杉管領家が戦った関東動乱期、古河公方足利政氏 2 男に誕生、真里谷武田氏、安房里見氏の招聘で八幡、小弓公方を名乗って、房総 3 か国を領有したが、天文 7 年関東の覇権をかけた小田原・北条氏綱との「国府台の戦い」に敗死した。飯香岡八幡宮、霊応寺、八幡御所跡と並ぶ義明ゆかり地で、100m ほど離れた境外墓地「御墓堂」に伝義明夫妻の墓がある。出発点の八幡宿駅に戻る。お疲れさまでした。

## 9 今回見学できなかった八幡の見どころ～後日ぜひ回ってください

①無量寺(浄土宗)=伝白鳳年間創建、八幡海岸に出現した「阿弥陀如来像」を本尊とする。八幡宮、千葉氏ゆかり寺で、「伝千葉康胤中世五輪塔」や不動明王像、巡拝塔、回国塔など石仏が優れる。旧盆の「おえんまさま」ではえんま十王像などを公開する。

②称念寺(〃)=天正 3 年生実・大巖寺念仏道場として創建、参道の経塔は増上寺住職・祐天上人の書。山門近くに並ぶ 50 基ほどの小型五輪塔は圧巻、すべて無銘だが、室町中後期、僧侶か武士層の供養塔と考えられ、町域造成を知る上からも重要だ。石仏にみるべきものが多く、著名日本画家・山口達画伯の作品が本堂や鐘楼などを飾っている。

③円頓寺(日蓮宗)=浜野・本行寺末、「上総七里法華」の祖・日泰上人創建で没寺。明治 7 年当寺本堂において八幡小学校を創立、令和元年の台風被害で本堂を大破、現在改造中、毎年新春初祈禱会で「水行」が行われる。

④妙長寺(〃)=池上本門寺末。八幡の寺院ではもっとも古い正長 2 年日行聖人創建という。日蓮聖人座禅像は日行聖御作、千葉は日蓮の誕生地だが石像は唯一とされる。

⑤嗣埋塚=室町時代の関東動乱、「小弓城の戦い」で敗れた千葉康胤が村田川で打取られ胴体を埋葬したとされる。

⑥猿田彦神社と庚申塔=猿田彦は国つ神の一つで八幡宮神話ともかかわる。かたわらの碑が神社の由来を記し、庚申塔は元禄 6 年、村人 12 名を刻む。

⑦市原出途=「国道 297 号線」はかつて大多喜街道、九十九里往還、鶴舞街道などと呼ばれ、市原出途を起点とした。八幡は市原の内陸部や外房方面からの年貢米や薪炭、材木、わら製品の集散地で、明治時代の市原出途、問屋街として、また周辺に醤油醸造、佃煮などの地場産業が発展した。当時の面影を伝えるお宅や蔵が点在している。

⑧菊間出途=古くからの八幡と菊間をつなぐ間道。明治元年沼津藩・水野忠敬 5 万石が菊間に転封したことで、引込み大手道となったが、4 年に廃藩となった。

⑨観音町入口の東金みち道標=かつての八幡宿入口。宿の出入口には村への災害や悪疫の進入を守る「庚申塔」が立てられた。安永 10 年碑は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を記す。茂原をへて東金に通じた間道で一部が現存する。

⑩村田川の渡し=村田川は上総、下総の境川で上総玄関口にあたる。江戸時代橋は許されず、旅人たちは干潮時は歩渡り、水多い時片道 2 文の渡し船を使った。明治 7 年架橋。戦後の河川改修工事で 100m ほど移動、旧村田川と渡船場は現在、村田川公園になっている。

現市原市八幡の旧八幡町で昭和初期の1930～40年代、町民の日常生活を撮影した16ミリフィルムの映像がDVD化され、現代によみがえった。埋め



立て前の八幡海岸で舟遊びする様子や、神社の祭礼、出征軍人を見送るシーンなど激動の時代の記録を後世に伝えている。  
(市原支局 高橋行夫)



①埋め立て前の八幡海岸で舟遊びする人々②みこしが集結し、にぎわう飯香岡八幡宮の祭礼③戦地へと駆り出される若者

## 舟遊び 祭礼 出征軍人…

元当主で終戦時に八幡町長と肩を並べた海三、1

### □元町長撮影

フィルムには、市川家の同市八幡の旧家・市川家に伝わる大量の映画撮影フィルムが存在を知ったことだった。



DVD作品「いまよみがえるむかし八幡町」を制作した山岸さん＝市原市の八幡公民館

# よみがえる市原旧八幡町

DVDのタイトルは「いまよみがえるむかし八幡町」。八幡公民館の郷土史講座「八幡史学館」講師の山岸弘明さん(84)が収録時間33分間の貴重な映像を送り出した。山岸さんは「市原の古文書研究会」代表も務める。制作のきっかけは、

907(94年)が当時珍しかった16ミリカメラを入手し、趣味で撮影したモノクロ・無音の映像が焼き付けられていた。

907(94年)が当時珍しかった16ミリカメラを入手し、趣味で撮影したモノクロ・無音の映像が焼き付けられていた。得三氏は映画界に関心を寄せており、アングルやカット割りが多彩で、当時の八幡町民の生き生きとした喜怒哀楽の表情を随所に映し出した。

## 昭和初期の映像、DVDに

埋め立て前

### □埋め立て前

中でも目を見張るのは、かつてあった八幡海岸。舟遊びしたり楽しそうに海水浴したりする人々が収録されている。現在、一帯はコンビナートを形成する臨海工業地帯に変貌しており、山岸さんによると、埋め立て前の海岸の映像は他に存在せず貴重な新発見だという。

14日に披露

### □14日に披露

山岸さんは「市民のほとんどは海岸があったことすら知らない。海の町がどんどん変化し発展してきた歴史をぜひ若い人に見てもらいたい」と話す。14日に自身の講座で映像を披露する予定。一般にも広く公開する方法を検討している。問い合わせは山岸さん ☎080(6668)2237。

木更津

駅ピアノで英ロックバンドクイーンのメドレーを奏する下村君。木更津市

「中野」のグリンブリ

足元を止めた。

名

高野地区のヒマ

27日 公開中 ユーチューブ公開中 スマホ検索「むかし八幡町」

令和3年度 八幡公民館主催事業  
1月5日から11日まで抽選受付

# いろいろ倶楽部

全3回参加できる方30名募集

— 学びをいかして暮らしに彩りを！ —

千葉県や市原市の知られざる一面を歴史と地学の観点から学びます

回	日時	内容	講師	場所	参加費
1	令和4年 2月26日(土) 9:30~11:30	わかりやすい 「歴史講座」 — 八幡浜の生活史 —	小関勇次氏 	講堂 ※海苔とり舟 など貴重な資料 展示と解説	無料
2	3月6日(日) 9:30~11:30	わかりやすい 「地学講座」 — 東洋のドーバー 銚子地域の地層 —	堀内正貫氏 	視聴覚室 	無料
3	3月12日(土) 8:30~16:30	バス研修 講座内容を現地で実際 に見学します。 ・弁当・飲み物	堀内正貫氏 	銚子方面	1000 円程度

抽選結果は14日に発表します。公民館の掲示板か電話で必ず確認してください。当選確認後、窓口で案内文書を受け取って受付完了となります。確認の連絡がない場合には、キャンセル扱いとなりますのでご注意ください。 ☎ 八幡公民館 41-1984

令和4年2月26日（土）八幡公民館主催事業

## 八幡の生活史

清和大学 特任教授 小関 勇次



十返舎一九 『方言修行金草鞋』（むだしゅぎょうかねのわらじ）通称『房総道中記』（1827年）絵：歌川国兼  
大きな船は五大力船と推定 房総往還は小湊参詣で多くの旅人が八幡を訪れた

### はじめに

八幡宿は『房総道中記』の挿絵にもありますように、また、地名の通り房総往還の宿場町から発展した町です。飯香岡八幡宮もありますが、伊勢や琴平のような宗教都市としての全国的なビッグネームがありません。集落の機能から見ると宿場を中心とした商業的機能と観光的功能をもった町といえます。江戸時代、八幡宿は宿場（現在の商店街）以外の生業はまず農業、副業は浜に出てあさりや蛤を採って商い、と定められていました。ですから養老川右岸の浜では外房のような量的な漁獲（イワシ漁など）は成立しません。ところが、養老川左岸の浜（出津・松ヶ島・青柳・今津など）ではカニ・エビ・シャコ・アサリ・アオヤギ・ハマグリなどの付加価値の高い魚貝類採取が盛んで「海にお金が落ちている地域」です。そこで八幡宿では商業的機能をいかして五大力船や押送船（おしよくりぶね）で海産物を江戸前に輸送する海運業が発展しました。

ところが時代は大きく変わり、1950年代以降は首都圏整備計画の一環として、東京湾岸の埋め立て事業に協力することとなり、美しい八幡の浜は姿を消し、石油化学コンビナートを中心とする京葉臨海工業地帯が造成されたのは周知のとおりです。八幡の生活環境は大きく変わりました。今回の歴史講演会のテーマは「八幡の生活史」です。私たちの郷土八幡について生活の視点で歴史をたどり、先人達の生業と暮らしぶりを学ぶ機会としたいと思います。

## 1 八幡宿の生活史概略

### ① 宿場町と海運業の時代

東京湾は遠浅の海で『マキ』と呼ばれる採取漁業と浅海の伝統的な『流し網漁』が盛んで、春先は『藻流し網』でギンポ・エビ類、やがて沖合の『州流し』で穴子やシャコやハゼなどの小魚類、イワシ専門の『小晒網』やヒシコ（子イワシ）を獲る『八手網』などの漁法でした（図1）。八幡宿は水陸の交通の要地ですからこれらの海産物を五大力船や押送船で江戸に運びました。また、内陸部や房総海岸から運ばれてくる年貢米の中継基地となり、江戸まで9里、年貢米を運びました。浜本地区では五大力船の船問屋の拠点で年貢米を納める蔵が立ち並んでいました。しかし、幕府の街道保護政策で一般の人たちは八幡と江戸の海路による直接往復は認められなかったため、徒歩で江戸を往復しました。このため八幡宿は房総往還途上にある宿場で潮干狩りなどを楽しむ観光地として知られるようになります。またハマグリはこの地域の特産物となり、干物に加工（サシレン）したり、貝殻も焼いて焼灰を漆喰の材料としたりして高値で取引されました。この頃、江戸前の寿司ネタで青柳貝（五井海岸から姉崎海岸にかけてはバカ貝という）が評判となります。その他にギンポやウナギも高値で取引されるようになると、商人達は何を売ったら儲かるのかと、考えるようになります。



図1 広瀬蘆竹画（江戸末期～明治）姉崎海岸 手前はマキカゴで海底をかいて貝をとる「マキ漁」。沖には集団で網をよせる「流し網漁」が見える。江戸末期～明治の上総地方の漁業の様子がわかる貴重な資料。

### ② 製塩業の盛衰

塩は食生活に欠かせない生活必需品です。瀬戸内海の赤穂の塩は国内9割以上を占める独占状態でしたが、遠方のため東京湾でも行徳を中心に生産が始まります。さらに18世紀後半に田沼

意次の新田奨励政策が始まり各地に新田や塩田が開発されます。八幡の浜でも庄左衛門（金杉村）の精力的な働きで25万坪の塩田が整備されました。この時代になると塩の生産は各地で始まり競争も激化したので、すぐに出荷せずに取り置くことでにがりをもろとして付加価値を高めたり、味噌作りに相性のいい（味のいい）塩を作るなどの工夫が行われました。ところが、入浜式の塩田は自然任せの天日製塩で台風や高潮などの自然災害に弱く、また、各地に近代的製塩業が発展（流下式製塩）した大量生産の時代に入ると、上総の製塩業は次第に衰退することになります。

### ③ 海苔養殖の時代

東京湾で海苔養殖が盛んになってきたのは、享保年間（1716～1736年）の頃で品川から大森にかけてのエリアでした。アサクサノリの生育には、適度の潮の干満と、遠浅で波静かな海面、栄養豊かな川が注ぎ込むような河口が適しています。

五所海岸も小河川が東京湾に流入することで海苔養殖に好条件でした。塩田が衰退してくると海苔の養殖が始まります（大正時代～）。海苔は贈答品として需要が高く高値で取引され、保存がきき、軽量で行商に向くことから海苔の養殖が中心になっていきます。海苔の養殖作業手順以下のとおりです。

#### 【杭立て】

9月初旬から杭立て（ヒビ） 海底に「振り棒」で土中に穴をあけヒビの根元を挿入する。漁場沖部の海底にカキなどの貝殻を海苔網につるし、天然糸状体から放出される胞子をヒビに付着させる。以後、直接種付け網を張り養成。

#### 【海苔取り】

11月～2月頃 干潮時、海苔取り船（ベカ船）を操作して手で摘む。手を舟板にたたき温める。船には大小2本の櫂、ノリを入れる摘みザル、ノリを洗うザルがある。

#### 【海苔付け】

摘んできたノリを、ゴミや藻などの混じり物を除く。包丁とまな板でノリを叩いてきざむ。昭和に入ると海苔切り機に代わる。

#### 【海苔漉き】

梳き樽からノリを付けマスですくい、これをノリ簀の上に置いた枠の上にあける。一人で1時間あたり300～400枚程漉く。

#### 【海苔干し】（大阪干し）

乾し台はわらの垣根を作り、その上にヨシ簀を張り、その上にすき上げたノリ簀を裏返しに並べ目串でとめる。八分乾きになったところで、表乾しに換え、1時間ほどで乾しあがり。

#### 【海苔詰め】

乾しあがったノリは簀からはぎ取り10枚ずつ数えて1帖とし、2つ折にして10帖を1束として帯封する。

#### 【おろし売り・行商】

五井に買い付け業者（小池・守屋・岡本）が多かった。他に信州からの買い付け業者がいた。行商で売り歩くのが女性たちの仕事。主に上州の温泉旅館を対象にしていた。

#### 【網張・船の修繕・漁具の手入れ・杭立て準備】

春から秋にかけて準備。

海苔養殖の風景

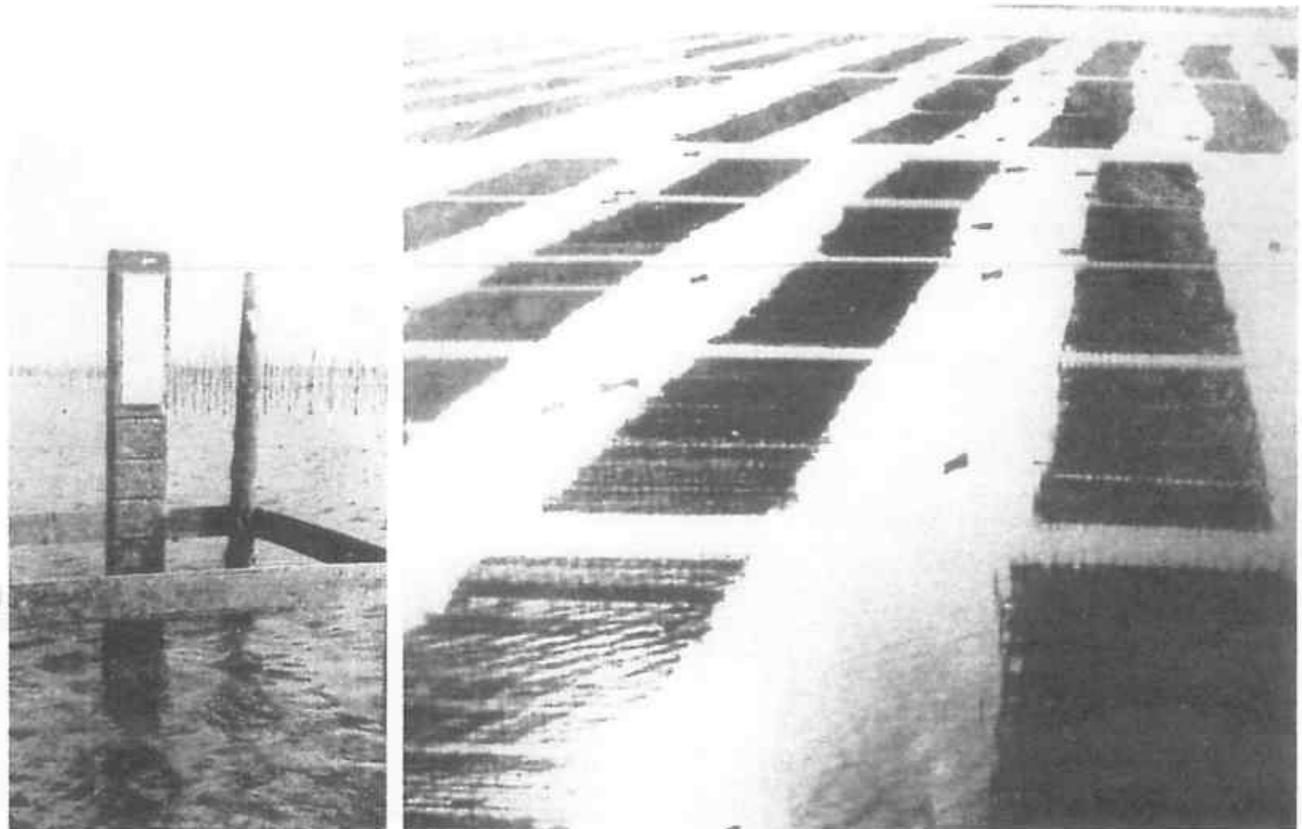


写真1 (左) 海苔種付基準線松ヶ島海岸(昭和11)水深84cmが良好な胞子付着層 (右)水面に広がる海苔網

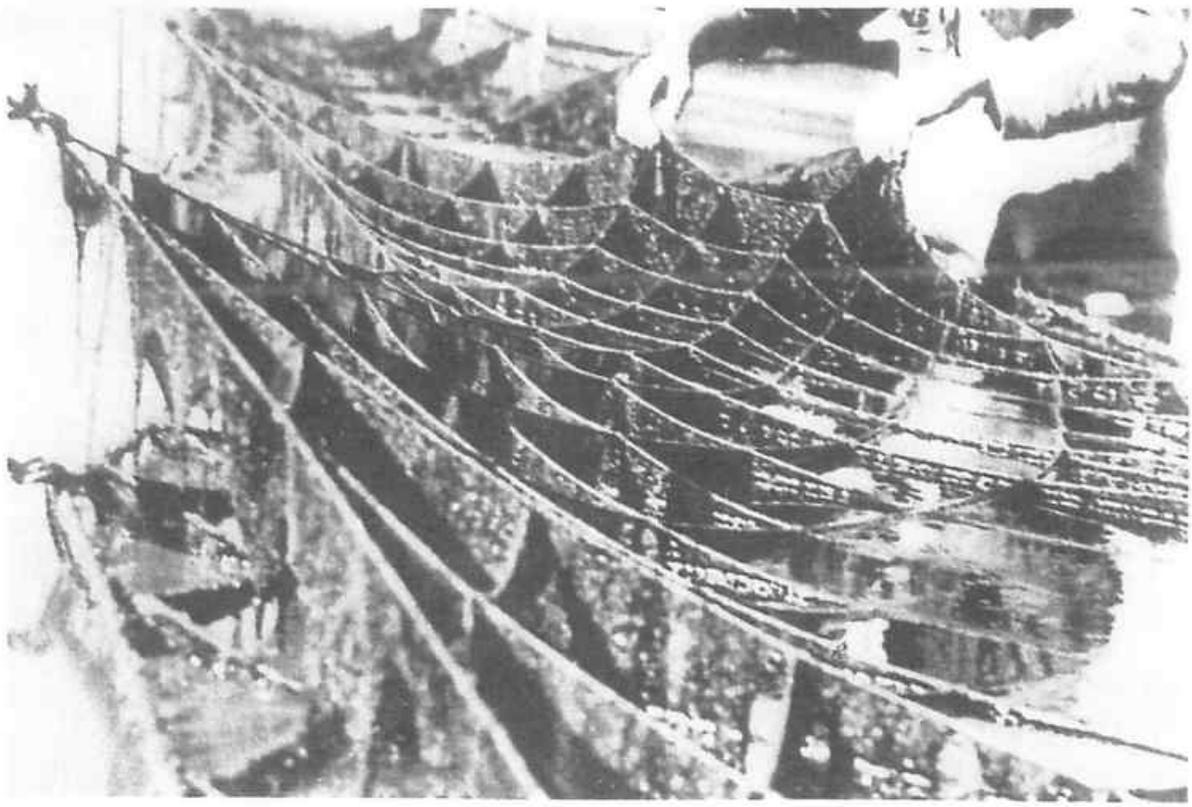


写真2 厳冬期、素手での海苔採りの様子 舟板で手を叩いて暖をとる厳しい作業



写真3 海苔採り作業

海苔採り専用のベカ舟は、ノリベカとも呼ばれ、船の長さは15尺（約4.5m）、幅は3尺（約90cm）で、船体は7～8分（約2.1～2.4cm）の杉板で造られています。

また腰マキ漁にも使用できるベカ舟は、船の長さが16尺（約4.8m）、幅は3尺1寸5分（約95cm）くらいで、船体はシキの部分1寸（約3cm）、そのほかの部分は7～8分の板でできています。この船には、普通コベリ・ウワコベリといった船体保護の部分がついており、腰マキ



写真4 船にあげられたノリベカ (昭和40年代、坂井亜夫氏 撮影)

漁のときには、このベカ舟に一斗樽で20～30杯もの貝を積んだといわれます。

戦後は、腰マキ兼用のベカ舟が主流となり、浦安の舟大工はほとんどこの形のベカ舟を造ったそうです。

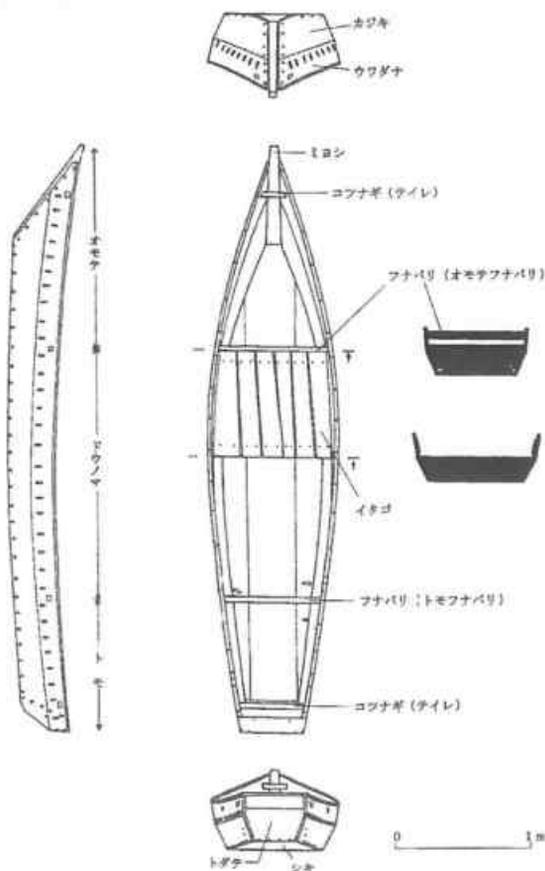


図2 海苔採取専用のベカ舟

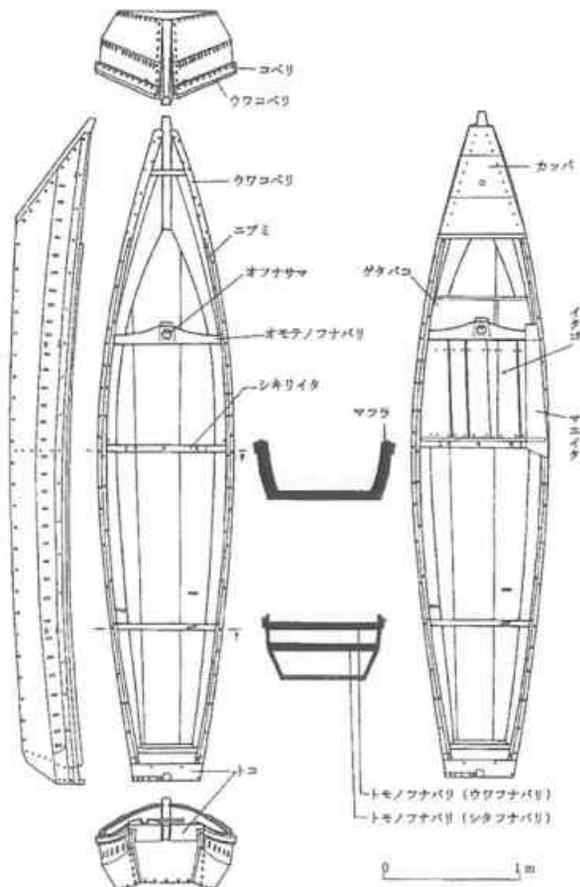


図3 海苔・貝採取兼用のベカ舟

# 海苔すきに使う道具



海苔たたき台

たたく



飛行機包丁

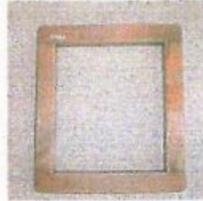


すく

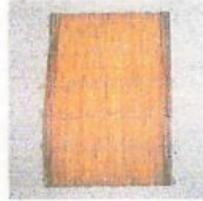
海苔すき台



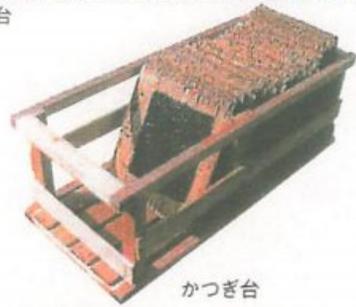
海苔ます



海苔すきわく



海苔簀



かつぎ台

ほす



目串箱

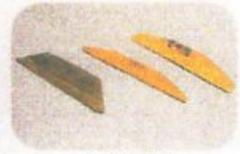


目串



海苔干し台

はがす



はがし板

## 世紀の大発見

「ノリの1年間の生活が解明」人工的な種付けへ

ノリは冬の海で生い茂る生き物ですが、昭和24年(1949)までは、春から夏の間どのように生活しているのか、誰にもわかりませんでした。ところが、イギリスの女性海藻学者キャサリン・ドリュー氏が、ノリの葉から出た果胞子が貝殻などに入りこんで糸状体となって夏を越すことを発見しました。これによってノリの1年間の生活が明らかになったのです。

この発見により、これまで自然まかせであった海苔養殖に、人の手でカキ殻を使い種付けを行うという作業が加わりました。この種付けにより海苔の生産が安定しました。

資料 浦安郷土博物館パンフレット

## スサビノリの一生

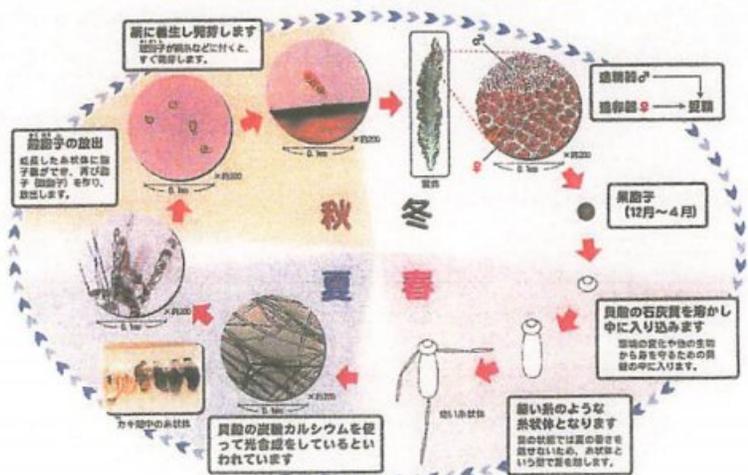




図1 1/5万地形図 千葉(1951年応修) 姉崎(1952年応修)

0 1km

**養老川三角州** JR内房線五井駅を中心とする地域は、今日の市原市の中核をなす地域であり、過去40年間で最も大きく変容した地域である。地形的には、養老川の下流部にあたり、市原台地と袖ヶ浦台地、その間の養老川低地、八幡や姉崎の砂州と海岸平野などからなっている。そのうち本来の養老川低地は、その河口を頂点として東京湾に突出した三角州低地であり、海岸線には干潟が広がっていた。この三角州低地の自然の姿は図1に描かれており、この地形図に示されている自然と人文の

諸現象が、昭和20年代までのこの地域の原風景であった。

**市原の原風景** その風景を一言で言えば、水田の広がる農村であり、海岸地帯は半農半漁の村々であった。台地では薪炭・竹・豆類・麦などが生産され、低地の主要部は米、自然堤防や砂州の微高地では桑やタバコやナシなどが栽培されていた。海岸地帯では貝・ノリの養殖が盛んであり、特に青柳産のパカ貝は「アオヤギ」の美称で通るほどよく知られていた。明治期には、河口近くの干潟に塩田が開かれていた。国分寺台(市原台地)には、

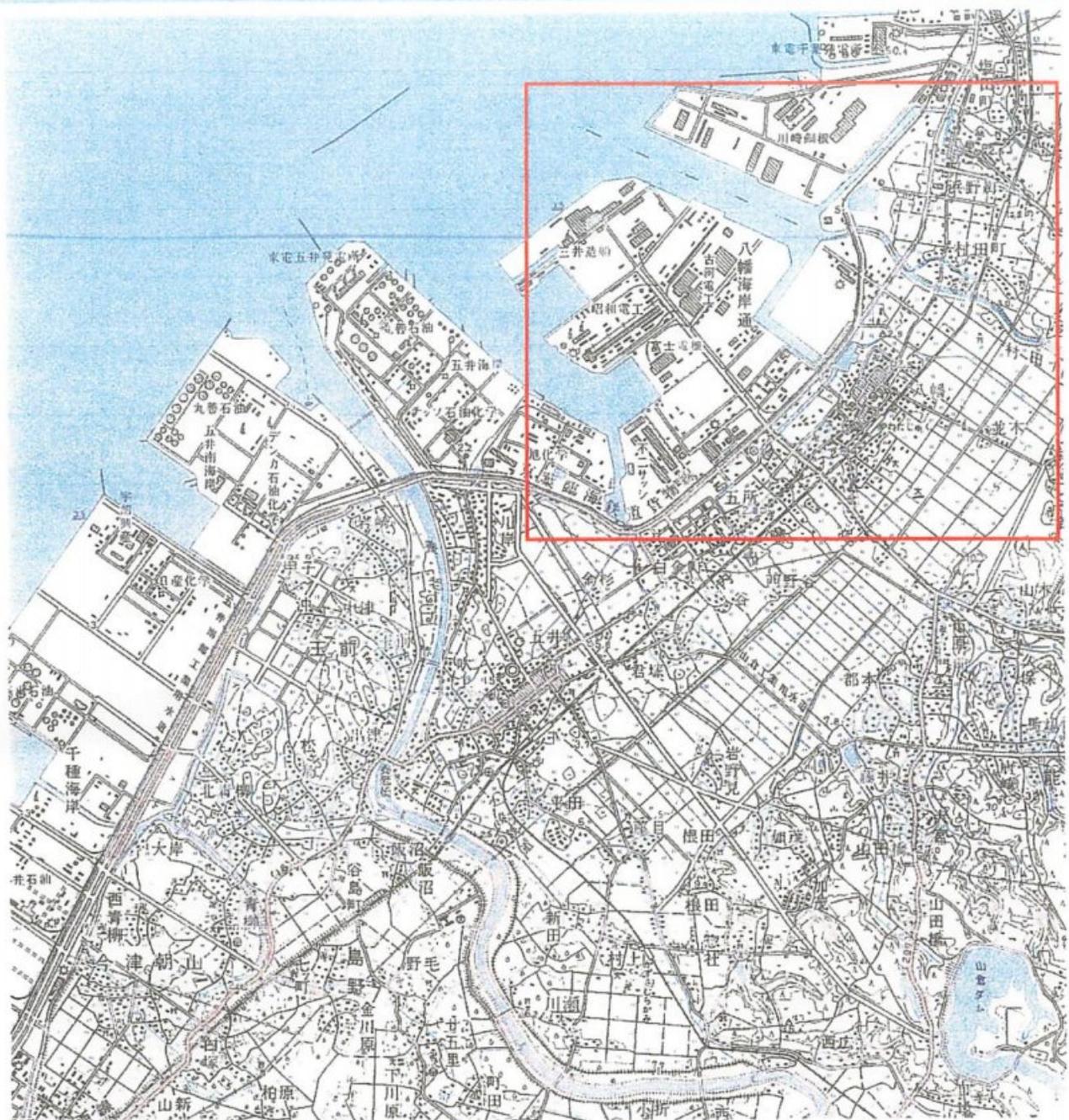


図2 1/5万地形図 千葉(1972年修正) 姉崎(1971年編集)

上総国分寺の存在は知られてはいたが、まとまった集落はなく、畑と林地の広がる土地であり、姉崎方面も同様であった。千葉街道に沿って八幡宿・五井などの集落があり、これらは砂州の上に位置している。鉄道は1912(明治45)年に現在のJR内房線が、これらの集落を連ねて木更津まで開通した。1925(大正14)年には小湊鉄道の五井～里見間が開通し、養老川流域の人や物資の移動に大きな役割を果たした。五井はその拠点となっていたが、駅前集落の域を出るものではなかった。

**臨海工業地帯の形成** 京葉臨海工業地帯の形成により、この地域は工業化と都市化の波に洗われることになり、著しい地域変容を遂げることになった。千葉県は1958(昭和33)年に京葉工業地帯造成計画を立案し、本格的に東京湾岸の開発を進めることになった。1963年に市原・五井・姉崎・市津・三和の5町が合併し、市原市となって市制を施行した。さらに、1967年には南総町・加茂村を合併して県下最大の広域市となり、行政の体制を整えた。当初の造成計画では、浦安地区から五井・市



図3 1/5万地形図 千葉(2000年修正) 姉崎(1997年修正)

原地区までを対象としていた。しかし、翌年の京葉臨海工業地帯造成計画では範囲が拡大され、五井・姉崎地区もこれに組み込まれている。

五井・市原地区(1957~68年)では714haが造成され、そのうち今日の八幡海岸通りには、三井造船・昭和電工・古河電工・富士電機などの多種類の工場が進出した。また、五井海岸には丸善石油(現コスモ石油)関連の工場群などが立地し、東京電力五井火力発電所も進出した。1962~73年にかけて、五井・姉崎地区では1,468ha

の干潟埋立工事が進められ、海岸線は2kmも遠くなり、工業用地は直線で区切られた専用の泊地を持った櫛形状のものに変わった。ここには、出光興産と出光石油化学など4つの石油化学コンビナートが造られ、姉崎の巨大火力発電所(360万kW)も立地して、京葉臨海工業地帯の中核を形成した。これら工場群へは京葉臨海鉄道貨物線が引き込まれ、工業用水道も造られている。従来の千葉街道に平行して高規格の国道16号が整備された。

第1・2・3回資料

令和4年度

「海幸山幸」を読み解く



# 古事記を読む

講師 平澤 牧人氏

(飯香岡八幡宮 宮司)

日時 5月9日(月)・25日(水)・6月9日(木)午後1時30分から3時30分

場所 八幡公民館 視聴覚室

# 古事記

海幸山幸神話を讀む

故れ火照命は、海佐知毗古として、鰭廣物、鰭狹物を取りたまひ、火遠理命は  
山佐知毗古として、毛麤物、毛柔物を取りたまひき。爾に火遠理命、其の兄  
火照命に、「各に幸を易へて用ゐてむと謂ひて、三度乞はししかども、許さざり  
き。然れども遂に纒にえ易へたまひき。爾れ火遠理命、海幸を以て魚釣らすに、都  
て一魚も得たまはず、亦其の鉤をさへ海に失ひたまひき。是に其の兄火照命、  
其の鉤を乞ひて、山幸もおのが幸幸。海幸もおのが幸幸。今は各 幸返さむ  
と謂ふ時に、其の弟火遠理命、答曰りたまはく、汝の鉤は、魚釣りしに一魚も  
得ずて、遂に海に失ひてき、とのりたまへども、其の兄強に乞ひ徴りき。故れ其  
の弟、御佩しの十拳劔を破りて、五百鉤を作りて償ひたまへども、取らず、亦  
一千鉤を作りて、償ひたまへども、受けずして、猶其の本の鉤を得むぞと云ひきけ  
る。

是に其の弟、海邊に泣き患ひてゐます時に、鹽椎神來て問ひけらく、何にぞ  
虚空津日高の泣き患ひたまふ所由はと問へば、答言へたまはく、我兄と鉤を易へ  
て、其の鉤を失ひてき。是て其の鉤を乞ふ故に、多の鉤を償ひしかども受けずて、  
猶其の本の鉤を得むといふなり。故れ泣き患ふ、とのりたまひき。爾に鹽椎神、  
我汝が命の爲に善き議せむといひて、即ち間無勝間之小船を造りて、其の船  
に載せまつりて、教けらく、我、この船を押し流さば、やや暫往でませ。味御路有  
らむ。乃ち其の道に乗りていでましたば、魚鱗の如造れる宮室、其れ綿津見神の宮  
なり。其の神の御門に到りましたば、傍なる井上に湯津香木有らむ。故れ其の木の  
上に坐しまさば、其の海神の女、見て議らむ者ぞと教へまつりき。

故れ教の隨に、少し行でましけるに、備に其の言の如くなりしかば、即ち其の  
香木に登りて坐しましき。爾に海神の女豊玉毘賣の從婢、玉器を持ちて、水酌ま  
むとする時に、井に光あり。仰ぎ見れば、麗しき壯夫有り。甚奇しと以爲ひき。  
爾れ火遠理命、其の婢を見たまひて、水をたまへと乞ひたまふ。婢乃ち水を  
酌みて、玉器に入れて貢進りき。爾に水をば飲みたまはずして、御頸の璵を解かし  
て、口に含みて其の玉器に唾き入れたまひき。是に其の璵い、器に著きて、婢璵  
をえ離たず、故れ璵著けながら豊玉毘賣命に進りき。爾れ其の璵を見て、婢に  
若し門の外に人有りやと問ひたまへば、我が井の上の香木の上に人坐す。甚麗しき  
壯夫にます。我が王にも益りて甚貴し。故れ其の人水を乞はせる故に、奉りし  
かば、水を飲まさずて、此の璵をなも唾き入れたまへる。是え離たぬ故に、入れなが  
ら將ち來て獻りぬとまをしき。爾れ豊玉毘賣命奇しと思ほして、出で見て見感  
でて、目合して、其の父に、吾が門に麗しき人有すと白したまひき。爾に海神自  
ら出で見て、此の人は、天津日高の御子、虚空津日高にませりと云ひて、即ち内に  
率て入れまつりて、海驢の皮の疊八重を敷き、亦疊絶八重を其の上に敷きて、其の  
上に坐せまつりて、百取机代物を具へて、御饗爲て、即ち其の女豊玉毘賣に婚  
はせまつりき。故れ三年に至るまで其の國に住みたまひき。  
是に火遠理命、其の初めの事を思ほして、大きな歎一つ爲たまひき。故れ  
豊玉毘賣命、其の歎を聞かして、其の父に白したまはく、三年住みたまへども、恆  
は歎かすことも無かりしに、今夜大きな歎一つ爲たまひつるは、若し何の由故有  
るにか、と言したまへば。其の父の大神、其の智夫に問ひまつらく、今且我が女の  
語るを聞けば、三年坐しませども、恆は歎かす事も無かりしに、今夜大きな歎  
爲たまひつと云せり。若し故ありや。また此間に來ませる由は奈何にぞ、と問ひま  
つりき。爾れ其の大神に、備さに其の兄の失せにし鉤を罰れる狀の語りたまひ

き。是を以ちて海神、悉に鱧廣物鱧狹物を召び集へて、若し此の鉤を取れる  
 魚有りやと問ひたまふ。故れ諸の魚ども白さく、頃者赤海鯽魚なも喉に鯁あ  
 りて、物え食はずと愁ふなれば、必ず是れ取りつらむとまをしき。ここに赤海鯽魚  
 の喉を探りしかば、鉤有り。即ち取り出でて清洗ぎて、火遠理命に奉る時に、  
 其の綿津見大神誨へまつりけらく、此の鉤を其の兄に給はむ時に言りたまはむ状  
 は、この鉤は、淤煩鉤、須須鉤、貧鉤、宇流鉤と云ひて、後手に賜へ。然して其の兄  
 高田を作らば、汝が命は下田を營りたまへ。其の兄下田を作らば、汝が命は  
 高田を營りたまへ。然爲たまはば、吾水を掌れば、三年の間に必ず其の兄貧しく  
 なりなむ。若し其れ然爲たまふ事を恨みて攻め戦はば、鹽盈珠を出して溺らし、若  
 し其れ愁ひ請さば、鹽乾珠を出して活し、如此して惣苦めたまへとまをして、  
 鹽盈珠、鹽乾珠并せて兩箇を授けまつりて、即ち悉に和邇どもをよび集へて、問  
 ひたまはく、今天津日高の御子、虚空津日高、上國に幸でまさむとす。誰は幾日  
 に送り奉りて、覆奏さむ、と問ひたまひき。故れ各身の尋長の隨に、日を  
 限りて白す中に、一尋和邇、僕は一日に送りまつりて還り來なむと白す。故れ其の  
 一尋和邇に、然らば汝送り奉りてよ。若し海中を渡る時に、な惶畏ませまつりそと  
 告りて、即ち其の和邇の頸に載せまつりて、送り出しまつりき。故れ期りしが如、  
 一日の内に送り奉りき。其の和邇返りなむせし時に、佩かせる紐小刀を解かして、  
 其の頸に著けてなも返したまひける。故れ其の一尋和邇をば、今に佐比持神とぞ  
 謂ふなる。

是を以ちて備さに海神の教へし言の如くして、其の鉤を與へたまひき。故れ爾よ  
 り以後、稍愈貧しくなりて、更に荒き心を起して迫め來。攻めむとする時は、  
 鹽盈珠を出して溺らし、其れ愁ひ請せば、鹽乾珠を出して救ひ、如此して惣苦めた  
 まふ時に、稽首白さく、僕は今より以後、汝が命の晝夜の守護人と爲りてぞ仕へ奉

らむとまをしき。故れ今に至るまで、其の溺れし時の種種の態絶えず仕へ奉るなり。

是に海神の女豊玉毗賣命、自ら參出て白したまはく、妾已くより妊身めるを、

今産むべき時に臨りぬ。此を念ふに、天神の御子を海原に生みまつるべきにあら

ず、故れ參出きつとまをしたまひき。爾れ即ち其の海邊の波限に、鶉の羽を葺草

に爲て、産殿を造りき。是に其の産殿未だ葺き合へねば、御腹忍へがたくなりたまひ

ければ、産殿に入り坐しき。爾に産みまさむとする時に、其の日子に白したまは

く、凡て他し國の人は、産む時に臨れば、本つ國の形になりてなも生むなる。故れ

妾も今本の身になりて産みなむ。妾をな見たまひそ、とまをしたまひき。是に其の

言を奇しと思ほして、其の方に産みまたまふを竊伺見たまへば、八尋和邇に化

りて、匍匐委蛇ひき。即れ見驚き畏みて、遁げ退きたまひき。爾に豊玉毗賣命、其

の伺見たまひし事を知りて、心恥しと以爲して、乃ち其の御子を生み置きて、妾、

恆は海道を通して、通はむとこそ欲ひしを、吾が形を伺見たまひしが、甚作しき

こと、と白して、即ち海坂を塞きて返り入りましき。是を以て、其の産れませる

御子の名を、天津日高日子波限建鸕草葺不合命と謂す。然れども後は、其の

伺見たまひし御心を恨みつつも、戀心しきにえ忍へたまはずて、其の御子を治養し

まつる縁に因りて、其の弟玉依毗賣に附けて、歌をなも獻りたまひける。其の

歌、

赤玉は 緒さへ光れど、白玉の 君が装し 貴くありけり。

爾れ其の日子答へたまひける歌、

奥つ鳥 鴨著く島に 我が率寝し 妹は忘れじ の盡に

故れ日子穗穗出見命は、高千穗宮に五百八拾歳坐しましき。御陵は即て其の高千穗山の西に在り。

是の天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命、其の姨玉依毗賣命に娶ひまして生みませる御子の名は、五瀬命、次に稻氷命、次に御毛沼命、次に若御毛沼命、亦の名は豊御毛沼命、亦の名は神倭伊波禮毗古命。四柱。故れ御毛沼命は、波の穂を跳みて、常世國に渡り坐し、稻氷命は、妣の國と爲て、海原に入り坐しき。

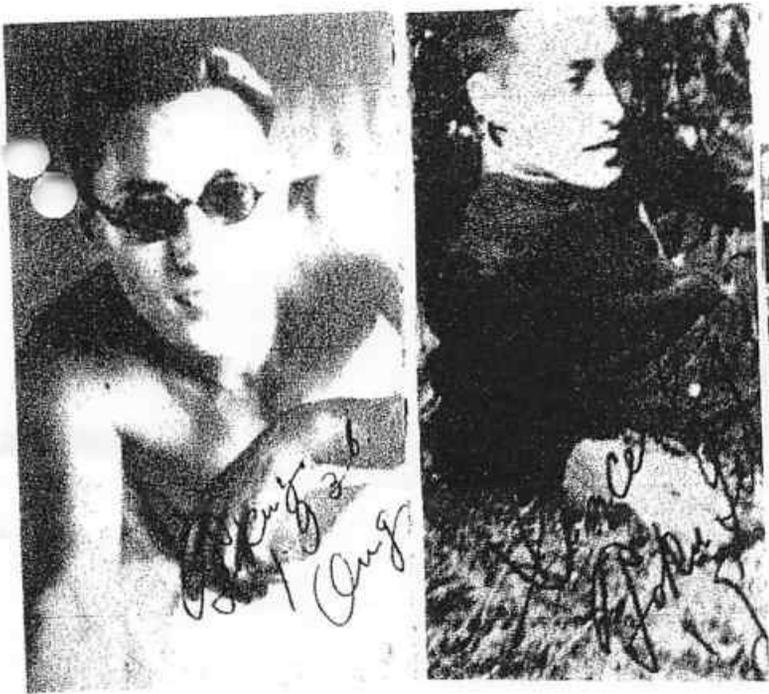
# 九州の古事記関連地図



# いまよみがえる「むかし八幡町」

令和4年7月16日

山岸弘明



ライバル菅野儀作とのツーショット

映画界に憧れた青年時代の市川得三

## ふるさとの歴史

### 八幡公民館エリイのものがたり

◆第三十五話◆ 歓呼と万歳に送られて戦場へ  
 ↳太平洋戦争の勃発

昭和十二年、「盧溝橋事件」に始まった「日中戦争」は拡大の一途を辿った。すぐに降伏するとみた日本軍の目論見がはずれて戦争は長期化し、国際条約違反として、石油輸出を止められて苦境に立った。十六年、陸軍大将の東條英機内閣が誕生、十二月八日、日本海軍がハワイのアメリカ海軍基地・真珠湾を奇襲攻撃して「第二次世界大戦（太平洋戦争）」に突入した。

「欲しがりません、勝つまでは」のポスターが氾濫、町内会の隣組が戦時の国民生活に監視の目を光らせた。物不足が深刻化し、食料や衣料は配給制となり、鍋釜や寺の梵鐘が鉄兜や鉄砲弾に鋳直された。八幡宿駅から八幡小学校生徒と軍楽隊の歓呼と万歳に送られた若者たちが戦場に送り出され、八幡宮では戦勝祈願、武運長久祈願が繰り返された。八幡・市川本店に先代得三氏（元八幡町長）撮影の戦時下フィルムが保管されていた。戦後、現在映像を加えてDVDビデオ「いまよみがえるむかし八幡町」に纏めた。講座などに活用、一見をお勧めしたい。

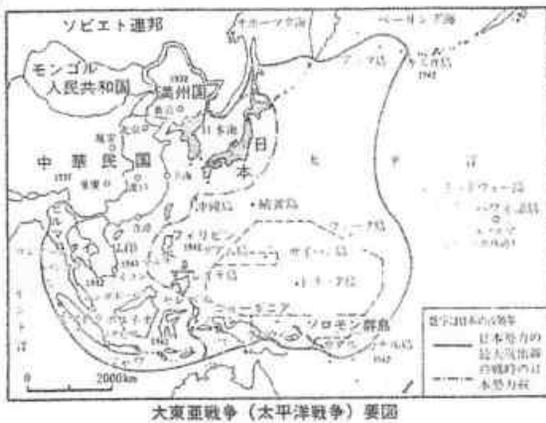


（山岸弘明主催事業「八幡史学館」講師）  
 写真説明 八幡宮の青年団総動員大会（右）と八幡宿駅の出征軍人見送り（DVDから）

第 36 話＝市原地区で 326 人が戦没(八幡公民館だより第 38 号＝8 月発行未定稿)

「欧米植民地からの解放、大東亜共栄圏の建設」を掲げた日本軍は開戦半年で朝鮮、満州、中華民國の東アジアとビルマ、インドネシア、フィリピンなど西南太平洋全域を支配圏とした。本来、国力に大きな開きのある米英を相手に緒戦の優位も長続きしない。昭和 17 年「ミッドウエイ海戦」に敗れて航空母艦の大半を失うと形勢は逆転、ガダルカナル、アッツ、サイパン守備隊が玉砕、最後に決戦を挑んだ「マリアナ沖海戦」も敗れ、太平洋全域の制海権、制空権をアメリカ軍に奪われた。戦局の悪化の中で多くの若者たちが狩出されて戦地に潰えた。五所・松崎一郎さんもその一人。16 才で海軍志願兵、1 年後サイパン島戦死。遺骨1つ戻ることない余りにも儂い生涯を終る。市原市遺族会の『戦没者名簿』によれば、市原地区 326 柱、うち八幡 109、五所 34、能満 32…を数えた。

昭和 20 年、予科練卒福山航空隊所属の八幡・大塚守勝さん (93)は沖縄本島周辺の敵艦特攻隊員を命じられる。ゼロカン(水上機)に 250 キロ爆弾を固定、片道分の燃料を積込むが機体不調とにわか雨で作戦中止、万死に一生を得る。同期戦友たちとの『憧れの予科練 特乙四期生徒の手記』に詳解した。日本軍は兵士たちの悲喜模様を織りなしながら滅亡への道を転げ落ちていった。(山岸弘明＝主催事業「八幡史学館」講師)



大塚さんの特攻隊記念写真  
友人とゼロセンを語る



大東亜戦争(第 2 次世界大戦)と市原地区戦没者

- ①日本陸海軍兵力(昭和国勢便覧＝単位千人)  
総数昭和 10 年 448、15 年 1723、20 年 7193。  
陸軍 350、1500、5500。海軍 98、223、1693。
- ②日本軍の戦死者(新編日本史＝ )  
死亡＝総数 1854、陸軍 1140、海軍 414、一般国民 299。負傷行方不明＝総数 678、292、14、369
- ③艦船沈没による戦死者(調査大鑑＝ )  
海軍軍人軍属 182、陸軍軍人軍属 88
- ④市原地区遺族会名簿(市遺族会＝単位人)  
総数 326、陸軍 247、海軍 78、不詳 1  
内戦死者 237、戦病死 78
- ⑤〃 遺族住所別集計(〃＝〃)  
八幡 109、五所 34、山木 17(以上八幡町)  
能満 32、草刈 19、大厩 16、菊間若宮 16
- ⑥〃 年次別戦死者集計(〃＝〃)  
昭和 10 年海軍 1、12 年陸軍 6、13 年陸軍 5、

- 14 年陸軍 8、15 年陸軍 3、16 年陸軍 6、17 年陸軍 8 海軍 4、18 年陸軍 12 海軍 4、海軍 16、20 年陸軍 106 海軍 38、21 年陸軍 14 海軍 1、22 年陸軍 3、23 年陸軍 3 海軍 2…34 年陸軍 1
- ⑦〃 海軍戦死者の年次別戦没地(〃＝〃)  
昭和 17 年ミッドウエイ海戦、ソロモン海峡  
18 年ソロモン諸島、南方海上方面  
19 年マリアナ沖海戦、サイパン、トラック、ニューギニア、フィリピン沖  
20 年小笠原、硫黄島、沖縄、本土浜名海兵団
- ⑧〃 陸軍戦死者の年次別戦没地(〃＝〃)  
12 年～17 年中国、満州  
18 年満州、北支、ニューギニア  
19 年ニューギニア、フィリピン、ビルマ、レイテ  
20 年硫黄島、沖縄本島、中華民國、シベリア
- ⑨飯香岡八幡宮忠霊塔(八幡町)  
戦没者氏名＝大東亜戦争 194 人

## ③

「八幡公民館主催事業 八幡史学館第17シリーズ記念企画」DVDビデオ

## いまよみがえる「むかし八幡町」

### 戦前・戦後、そして現在～映像で見る町の歴史

#### 1) 市川家 (通称=三太夫) と戦時に 16 ミリ映画を撮影した市川得三

①市川本店=飯香岡八幡宮創建にさかのぼる旧社家

江戸後期天保年間創業の醤油醸造、酒類元卸問屋を戦後まで続けた、八幡屈指の旧家。ご子孫は江戸後期、明治期建造の歴史的建物に現住されている。

②市川得三=明治30年、八幡町地方自治と実業界の重鎮であった町長・市川石三4男に誕生、東京・麻布の姉の嫁入り先に下宿、旧制正則中学時代、エースピッチャーとして活躍、小西得郎(プロ野球創設期監督、解説者=なんと申しましょうか)から母校・明大入りを勧誘された、という経歴もある。大学進学も無視した青年時代、トーキーの出現で黄金時代を迎えた映画界に憧れて、撮影所や映画館に通い詰めた。

③市原で最初の電気事業会社を起し、浅草水族館設立にかかわるなど新しもの好きだった父石三もまた、事業としての映画産業にも特別な関心を寄せていたのではないか。得三に米国社製撮影機を買い与え、東京での自由生活を積極的に支援した。

④得三のアルバムに昭和8年の撮影日と英字サイン付き、映画俳優風ポートレートが保存されていた。若き日の得三は、金持ち坊ちゃんの趣味が高じた「映画マニア」の一人ではあったが、残された作品には現在にも通じる洞察力とカメラワークがみられる。もしかして彼のその後の人生に変化がなければ、ひとかどの映画人として活躍していたのかもしれない。

⑤昭和10年、市川得三38歳の時、人生の転機を迎える。嫡男であった慶応大学出の兄達也が病死、父石三の次期を託されることになった。得三は厳しかった石三の特訓を受けながら地方自治、実業界へと転身していった。

⑥家業のかたわらも趣味となった映画を忘れたわけではなかった。当時わが国は「軍事大国」への道をひたすら走り続けていた。飯香岡八幡宮と運動公園で開催された「市原郡男女青年団総決起大会」では、現役町長だった父石三の私設報道官?の特権を利用してカメラを縦横に駆使した。「出征軍人」の駅送りも列車内に乗り込んで見送り風景を撮影する熱の入れようだった。



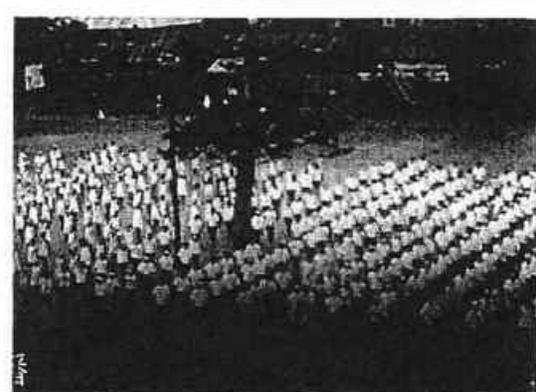
孫たちとくつろぐ市川石三翁

市川得三

八幡公民館郷土史講座  
 八幡史学館  
 第17シリーズ記念企画



第一景  
 なつかしの学び舎  
 ～ 八幡尋常小学校 ～



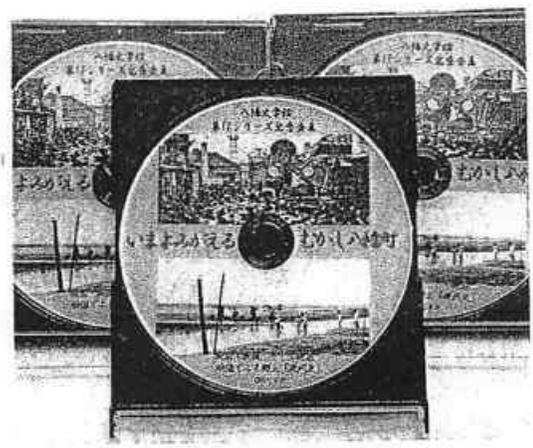
⑤

- ⑦昭和20年、終戦時の八幡町長。22年の県議員選挙はダントツのトップ当選を果たすが、再選でライバル菅野儀作のちの参議院議員に敗れて政界を引退した。戦後の一時期、親戚だった日活・根本社長と能満の「こどもの国」一帯に映画村招致を企画したが実現しなかった。後半生は家業に専念した。平成6年没、96歳であった。
- ⑧市川家には得三が残した16ミリ映画が部屋隅などに多数保管された。ご子孫によれば、貸出しなどで一部を散逸し、根本社長が残ったフィルムをラッシュ編集して大型リールにまとめた。
- ⑨この映像は市川家および市教育委員会博物館準備室によって作成された変換DVDを原史料とし、ご子息・市川恵三、信三氏撮影の戦後、昭和30年代、海岸埋立て前後の記録写真、現在映像を加えた。制作は共作者石黒修一氏の多大な労に依った。  
 移り変わる八幡町の思い出シーンは日本の現代史そのもの、感動なくて語ることはできません。本講座ではあえて上映中の解説を極力抑えたいと思います。激動の時代を生きた市川得三がなにを見、何を伝えたかったのか。八幡町の現代史を通じて、思い思いの胸に「郷土八幡の歴史文化」を感じていただければ幸いです。

## 2) いまよみがえる「むかし八幡町」

### DVDビデオジャケット

- 第1景=なつかしの学び舎～八幡尋常小学校  
(対比画像=旧八幡小学校跡、現在の八幡小学校)
- 第2景=賑わう八幡さまの祭り～飯香岡八幡宮  
(現在の飯香岡八幡宮、柳橋神事)
- 第3景=失われゆく八幡の伝統行事  
富士講、三山講お練り、大鳥居落成記念春季大祭お練り、称念寺稚児行列  
(現在も続けられている出羽三山講と富士講)
- 第4景=つかの間の楽しみ  
八幡海岸の船遊び、房総東線の旅、安房小湊駅、内海海水浴場、誕生寺、鯛の浦、中山法華経寺参道、中山競馬場
- 第5景=戦場へ駆り出される若者たち～泥沼へ突き進む日本  
男女青年団総動員大会ならびに武運長久祈願祭 (3千人参加を記録した飯香岡八幡宮日誌、会場となった現在の運動公園、町営プール絵はがき)  
相次ぐ出征軍人の見送り(八幡・鈴木典男、白鳥達雄ほか。帰らぬ人となった194柱を祀る八幡町忠霊塔)
- 第6景=仕事と家族～市川家の人たち



戦後の八幡海岸と海岸埋立て～引き継がれた町の記録  
 撮影者市川恵三、信三=ご子息兄弟が昭和30年代の八幡町を記録撮影  
 市原市市制施行50周年記念事業=写真アルバム「市原市の昭和」  
 表紙写真、扉ページ写真など30余点の両氏作品が掲載された

写真アルバム 市原市の昭和(2013年=いき出版)  
 編集委員=大岩裕幸、山岸弘明、佐倉東雄、佐野彪、石井勇、遠山あき、谷島一馬ほか



八幡 八幡小学校旧校舎跡



一の宮みこし出御 (宮出し)

第二景  
賑わう八幡さまの祭り  
～ 飯香岡八幡宮 ～



一の宮みこし出御 (宮出し)

勇壮な宮出し



浜本町

祭りの朝



一の宮出御

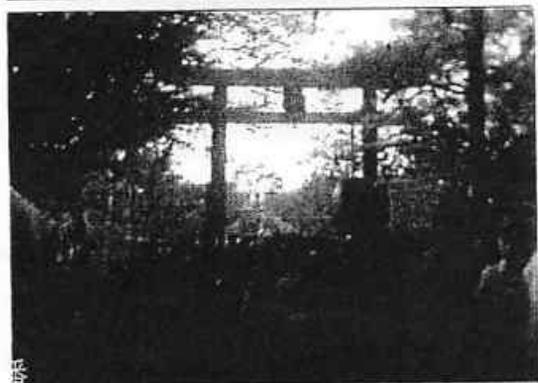


拝殿前



連番 令渡御の光頭にたつ「柳楯」

柳楯とボン  
ネットバス



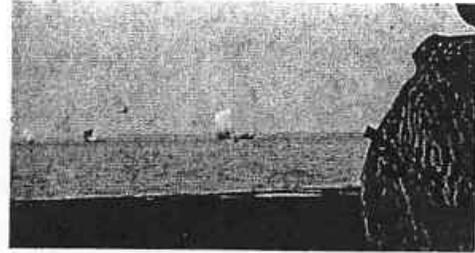
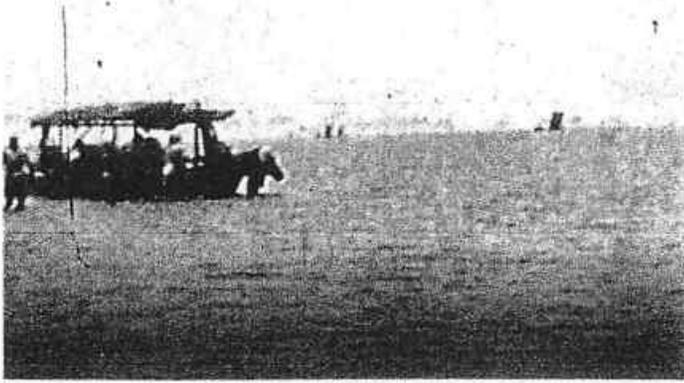
一の鳥居  
の賑わい



「奉幣の儀」にみこしが集結

身動きでき  
ない境内

⑦

下場地帯  
舟遊び

八幡海岸のスナップ映像

## 昭和30年代の八幡町

戦後の八幡海岸は東京に近いリゾート地として、潮干狩りや海水浴場としてにぎわった。一方「半農半漁」、海苔を養殖して貝を収穫した町びとにとっての海は「職場」でもあり、生きるための「生活の場」でもあった。

## 潮干狩りや海水浴場としてにぎわう＝

岸壁から飛び出すように海の家が立ち並ぶ、潮が満ちて引き上げる生徒たち、記念写真に収まる、みやげの貝を求める小学生、すだてをたのしむ団体客、臨時駐車場となった八幡中学校校庭、東京の学童たちを乗せた観光バスの間を貝採取のお母さんたちが通り抜ける、潮干狩り客でにぎわう海の家、

昭和32年、八幡五所漁業組合は、県が提示した京葉工業地帯建設のため漁業権を放棄、八幡海岸はアツという間に埋め立てられて進出工場の大型プラントが建設された。

## 海岸埋立て方法＝

- ①巨大浚渫船が海水混じりの土砂を浚渫する
- ②埋立て計画地を示す板囲いの内側にパイプで海底土砂を輸送する
- ③日照乾燥して工場用地が完成

戦前の八幡町は「海の恵みと八幡さまの信仰」に支えられた文化と賑わいを、戦後は一転「京葉工業地帯の中堅都市」へ。

懐かしかった「むかし八幡町」の思い出シーンは、わが国、そしてわが郷土八幡町の「現代・昭和史」そのものでもあった。

## 制作スタッフ

制作＝山岸弘明 編集＝石黒修一(撮影、編集など技術全般を総括していただきました)

協力＝市川本店、八幡史学館チーム、ふるさと市原をつなぐ連絡会、市原市教育委員会博物館準備室、八幡公民館、飯香岡八幡宮、いき出版、  
三山講「敬愛会」のみなさん、富士講「丸八講」のみなさん、竹内 克、佐倉東雄、鷺津寛子、堆美登里



し八幡

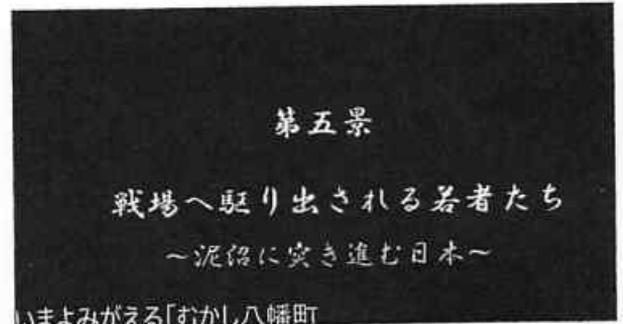


八幡海岸の  
舟遊び



富士講

富士講



いまよみがえる「むかし八幡町」



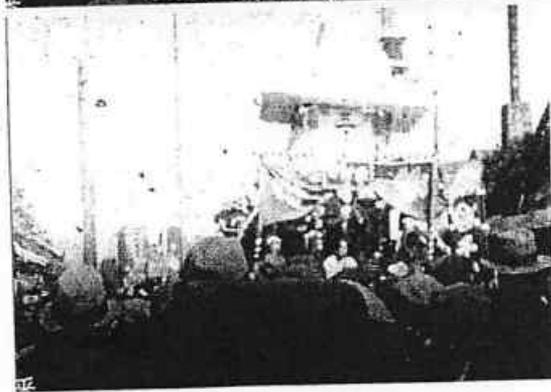
昭和9年の  
三山供養

三山講供養



行進する  
軍楽隊

昭和12年 武運長久祈願祭



三山供養の  
山車



戦勝と武運  
長久を祈願



浜本町鳥居  
を進む山車

鳥居落成を記念した春季大祭



日章旗を  
掲げる

男女青年団総動員大々

⑨



エプロン姿の婦人団



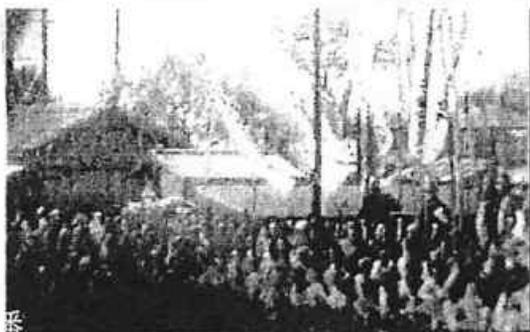
軍部が激励

出征軍人と家族



2千人が運動公園集結

歓呼と万歳に送られる



相次ぐ出征兵士の見送り



日の丸寄せ書き



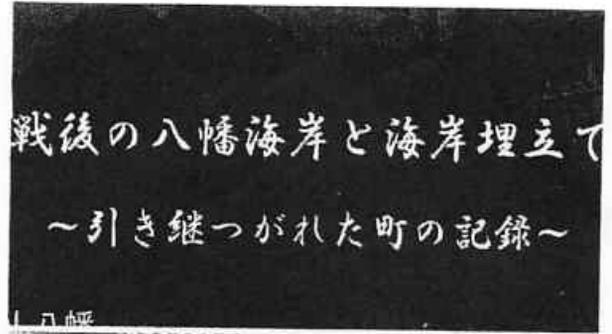
若者たちが戦地へ

蒸気機関車涙ぐむ家族





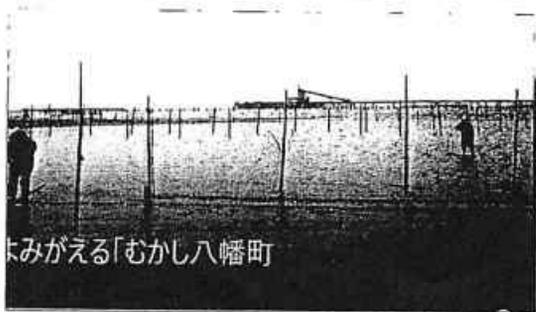
いつまでも  
手を振る



潮干狩りで  
賑わう



海の家



海苔の養殖



みおを行く

II

冬の風物詩  
海苔ほし



道路が完成



昭和32年、八幡五所漁業協同組合は、  
県が提示した京葉工業地帯建設のため  
漁業権を放棄、八幡海岸はアツという間に  
埋め立てられて進出工場の大形プラントが  
まよみがえる「むかし八幡町



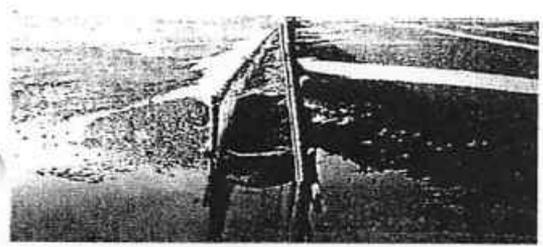
戦前の八幡町は「海の恵みと八幡さまの信仰」  
に支えられた文化と賑わいを、戦後は一転  
「京葉工業地帯の中堅都市」へ。懐かしかった  
「むかし八幡町」の思い出シーンは、わが  
国、そしてわが郷土八幡の「現代・昭和史」  
まよみがえる「むかし八幡町

大型液漕船



工場都市として発展する現在の  
まよみがえる「むかし八幡町

埋立て桟橋



まよみがえる「むかし八幡町

まよみがえる「むかし八幡町

造成工事が  
すすむ



終  
まよみがえる「むかし八幡町

令和4/6/7

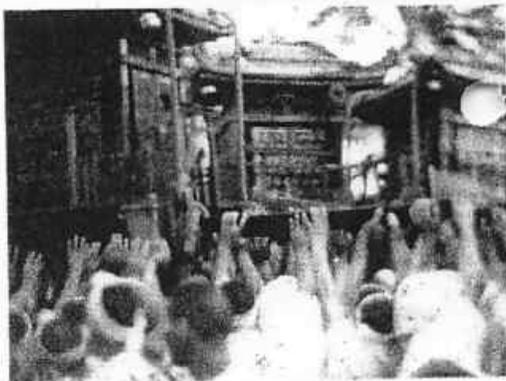
(第三種郵便物認可)

千葉 白

現市原市八幡の旧八幡町で昭和初期の1930~40年代、町民の日常生活を撮影した16ミリフィルムの映像がDVD化され、現代によみがえった。埋め



立て前の八幡海岸で舟遊びする様子や、神社の祭礼、出征軍人を見送るシーンなど激動の時代の記録を後世に伝えている。(市原支局 高橋行夫)



①埋め立て前の八幡海岸で舟遊びする人々②みこしが集結し、にぎわう飯香岡八幡宮の祭礼③戦地へと駆り出される若者

### 舟遊び 祭礼 出征軍人…

# よみがえる市原旧八幡町

DVDのタイトルは「いまよみがえる むかし八幡町」。八幡公民館の郷土史講座「八幡史学館」講師の山岸弘明さん(84)が収録時間33分間の貴重な映像を送り出した。山岸さんは「市原の古文書研究会」代表も務める。制作のきっかけは、

元当主で終戦時に八幡町長や県議を務めた得三氏(1

フィルムには、市川家の

907(94年)が当時珍しかった16ミリカメラを入手し、趣味で撮影したモノクロ・無音声の映像が焼き付けられていた。得三氏は映画界に関心を寄せ、アンケルやカトルや解説文などのテロツット割りが多彩で、当時の八幡町民の生き生きとした喜怒哀楽の表情を随所に映し出した。山岸さんは知人の石黒修一さんの協力を得て、タイトルや解説文などのテロツ



DVD作品「いまよみがえる むかし八幡町」を制作した山岸さん=市原市の八幡公民館

## 昭和初期の映像、DVDに

□埋め立て前

中でも目を見張るのは、かつてあった八幡海岸。舟遊びしたり楽しそうに海水浴したりする人々が収録されている。現在、一帯はコンビナートを形成する臨海工業地帯に変貌しており、山岸さんによると、埋め立て前の海岸の映像は他に存在せず貴重な新発見だという。みこしが集結し大勢の町民でにぎわう飯香岡八幡宮、戦場へと駆り出される若者を涙を流し見送る女性の姿も映っている。このほか八幡尋常小学校(現在の八幡小)の朝礼風景、称念寺の稚児行列、出羽三山講、富士講などの伝統行事も収録されている。

□14日に披露

山岸さんは「市民のほとんどは海岸があったことすら知らない。海の町がどんどん変化し発展してきた歴史をぜひ若い人に見てもらいたい」と話す。14日に自身の講座で映像を披露する予定。一般にも広く公開する方法を検討している。問い合わせは山岸さん ☎080(6668)2237。

市原市の道の里いちほら「恋人の丘」の交流の場で「ブロンクコン」が初開催。恋人の丘は、駅隣の市農業ター(同市浅向)ピクニック場の近くにある。若者たちの出と交流の場。インソーカーで造られた人のベンチ、リ、カップルり添う姿もみる。

コンサートの駅を管理運緑地研究所がに囲まれた口な雰囲気の中

27億円補正

【勝浦市】定日開会。市は27万円を増額する正予算案など7した。補正案に納税関連経費10円、勝浦漁協へ

広報

2022

11

毎月1日発行

# いちはら



いちはらの **至宝** が集結



## 市原歴史博物館

### 2022.11.20日オープン



I Museum Center



あなたとつながる広報誌

# 3万5千年ぶんのいちはらです



「いちはら」の至宝が集結

市原歴史博物館 外観



体験プログラムで歴史を実感

歴史体験館 ものづくり広場

## 市原歴史博物館

旧石器時代から近現代まで扱い、展示室に可動間仕切りを採用し、展示資料の変更や企画展の規模に合わせて、いつ来ても新しい展示空間が誕生! 国産最古の有銘鉄剣として名高い稲荷台1号墳出土「王賜」銘鉄剣をはじめ、公開が望まれてきた「いちはらの至宝」が集結しています!

### フィールドガイダンス展示



市内歴史フィールドへ

### 民俗展示室



海と里山の生活

## 歴史体験館

発掘体験や古代住居体験、納屋風建物での民具体験のほか、勾玉づくりや貝輪づくりなど、さまざまな体験プログラムを実施! 学校教育との連動を図り、「見る」に加えて「参加する・体験する」ことで、子どもたちの歴史文化への理解を深め、長く記憶に残る学びを実現する場が誕生!

### 発掘体験



目指せ、考古学者

### 古代住居



古代の暮らし体験

## イベント情報

### 2022年11月20日(日)開館イベント開催

いちはらの歴史をつなぐ拠点施設「I'Museum Center(市原歴史博物館)」がついに開館します! 多くの皆様にご利用いただきたく、開館イベントを開催いたします。お誘いあわせの上、ぜひ来館ください。

#### 1 開館記念グッズプレゼント!!

先着100名様に開館記念グッズをプレゼント!

#### 3 特別ワークショップ開催!!

千葉大学との連携協力により、3Dプリンターを活用した歴史造形物(イノシシ形土製品)への色付ワークショップを実施します。

#### タイムテーブル

【ステージイベント】	
13:40-14:00	姉崎高校生徒のダンス
14:00-14:40	鶴峯八幡宮十二座神楽
14:40-15:20	大塚ばやし
【特別ワークショップ】	
10-11-15-16:00-	3Dプリンター出力のイノシシ形土製品色付*

\*各回先着25名(無料)  
\*各回1時間前から整理券を配布

#### 会場

- ステージイベント: 「歴史体験館 ものづくり広場」
- 特別ワークショップ: 「歴史博物館多目的室」

## アクセス



市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

- JR内房線五井駅より小湊バス「市原歴史博物館・中央武道館」行き乗車約20分  
「市原歴史博物館」(終点)下車 徒歩2分  
五井駅東口3番バス乗り場
- JR内房線八幡宿駅より小湊バス「山倉こどもの国」行き乗車約15分  
「山田橋東」下車徒歩10分

www.imuseum.jp

歴史体験館内にステージを設置し、県指定文化財の鶴峯八幡の神楽や大塚ばやし、姉崎高校生徒によるダンスなど本市の歴史にちなんで出し物を披露。



やく まん せんねんまえ  
約3万5千年前からのいち  
はらの歴史を展示。養老  
川を中心に栄えてきたこ  
の地は、それぞれの時代  
において、どんな変化を遂  
げてきたのでしょうか。



じょうせつ きかくてんじしつ  
常設・企画展示室



じょうほう  
情報コーナー  
れきし いさんじょうほう  
歴史遺産情報をはじめ、  
いははらし みやこく しゅうかい  
市原市の魅力を紹介



たもくてきしつ  
多目的室  
イベントやワークショップの  
ほかに、休憩スペースとしても  
利用可能



ていりぐち  
出入口

うけつけ  
受付

ショップ



みんぞくてんじしつ  
民俗展示室

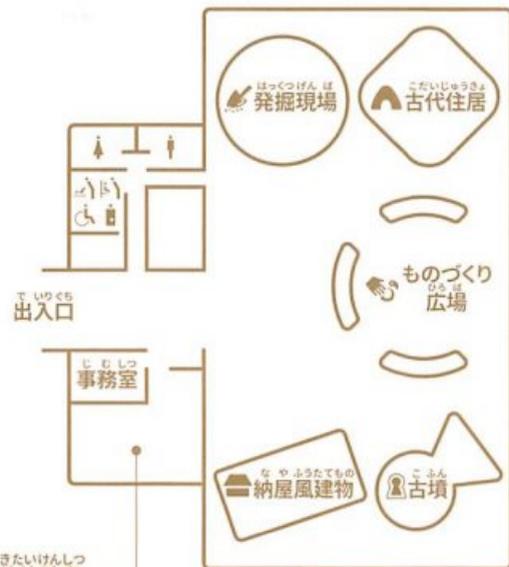
**I Museum Center**  
市原歴史博物館

むかし、いちはらの人びとは、  
どんな建物に住み、どんな  
生活をしていたのか。見たり  
読んだりするだけじゃなく、  
実際に体験してみましょう。



I Museum Centerを出て、  
ひだりす 左へ進むと歴史体験館です。

※体験館をご利用の際は、I Museum Centerの  
受付でチケットをお買い求めください。



ていりぐち  
出入口

じむしつ  
事務室

たもくてきたいけんしつ  
多目的体験室  
しつないたいけん  
室内体験のほかに、  
きゅうげい  
休憩スペースとしても利用可能

れきし たいけん かん  
歴史体験館

**I Museum Center**



## 発掘現場

ほくくつげんば  
西広貝塚で見つかった縄文時代の  
たてあなたてものあと 竪穴建物跡を再現。考古学者のよ  
うに、発掘してみよう。



## 古代住居

こたいじゅうきょ  
加茂遺跡で見つかった古墳時代の  
たてあなたてものあと 竪穴建物をを再現。昔の住まいて、昔  
の暮らしを味わおう。



## 古墳

こふん  
ひとかたち 人の形をした埴輪が出土した山倉  
1号墳を5分の1サイズで再現。古代  
衣装を着て、古墳時代人になりきろう。



## 納屋風建物

なやふうたてもの  
釜場と農具を納めた納屋を再現。  
のうぐ 農具などを実際に手にとって、ちょっ  
と昔の暮らしを知ろう。



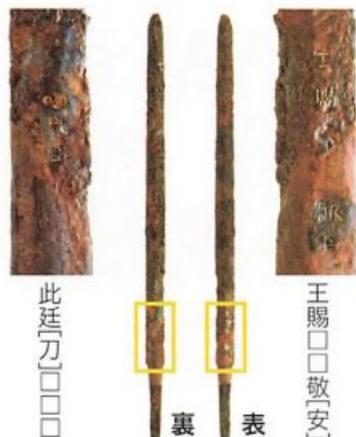
## ものづくり広場

ものがたり  
勾玉や貝輪など昔のアクセサリ  
づくりに挑戦。ものづくりの技術  
を習得してみよう。

## I'Museum 通信

Vol. 01

## 博物館の目玉展示

「王賜」銘鉄剣  
(市指定文化財)

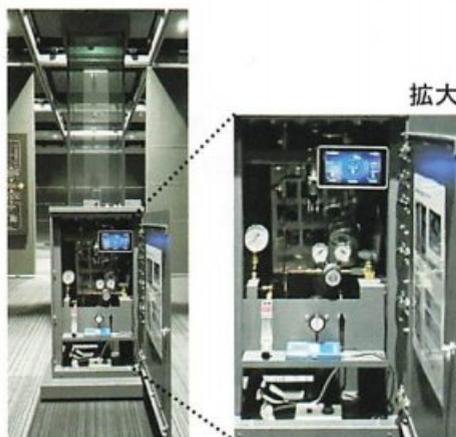
※□は判読不能部分。「」は推定。

此廷「刀」□□□

裏

表

王賜□□敬「安



拡大

①「王賜」銘鉄剣全体と文字部分の拡大  
(復元すると全長は約73cm)②資料の劣化を防ぐため、常時酸素濃度を  
監視しながら窒素ガスを充満させた専  
用展示ケース

今月号から、新連載「I'Museum 通信」として博物館資料や活動などをお伝えしていきます。今回は、注目展示「王賜」銘鉄剣です。

## 稲荷台1号墳と被葬者

この鉄剣は直径28メートルほどの円墳、稲荷台1号墳(山田橋)の埋葬施設から出土しました。鉄剣をはじめ武器の副葬がみられることから、葬られたのは、「武人」とも考えられています。古墳を巡る溝から出土した土器(須恵器)の特徴から、古墳の築造時期は、5世紀中頃と考えられています。

## 刻まれた文字

鉄剣はエックス線撮影により表面6文字ずつとみられる銘文の象眼が確認されました。銘文には、呼び名の由来となった「王賜」の銘などがみられることから「王が授けた(王から下賜された)」この剣を謹んで大

切にするように」という内容と推定されます。

## 王とは誰か

中学校の歴史教科書にも載る古墳時代の和政権の大王たちは、国内での地位を国際的に認定してもらうために中国の南朝に使いを出しました。中国の歴史書「宋書」には倭の五王と呼ばれる5世紀の倭国王、讃・珍・済・興・武が記されていますがこのうち鉄剣に刻まれた「王」は、古墳の築造時期から推測すると5世紀前半から後半にかけて在位したとされる済Ⅱ「允恭天皇」(大王)とする説が有力です。

## 貴重な資料を常時公開へ

「王賜」銘鉄剣は、国産最古の有銘鉄剣として知られますが、この発見により、畿内大王の権力が東へ広がった地域に大王と直接関わりを持った豪族がいたことがうかがえ、日本史上大変重要な資料といえます。しかし、劣化しやすい金属製品であることから、窒素を充填した特殊な装置と機器による監視体制が必要で、これらの環境が博物館に整い、常時公開が可能となりました。

見て、触れて、体験したあとは…

# フィールドミュージアム



市内各所に点在する貴重な歴史遺産を屋外展示物と見立て、フィールドミュージアム(屋根のない博物館)として、地域の皆さんと見学コースを検討し、フィールドマップを作成しています(現在8地区)。また、歴史遺産には、標柱を設置しています(1コース7本)。マップを手に、標柱を目印に、地域の歴史に触れてみませんか。

※歴史遺産は、かけがえのない財産です。個人所有物や私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。

コースと  
配布場所

## 推奨コース(令和4年10月20日現在)

八幡、姉崎、市原、国分寺台、五井、島野・千種、鶴舞、高滝

紙のマップ

博物館や各コースの最寄りの公民館・コミュニティセンター

ウェブ版

博物館ウェブサイト(右のQRコードからアクセス可)



楽しみ方  
その1

## 自分で巡る

行きたい地区を決めて、実際に現地を巡ろう。



1 マップを見て、コース全体を把握しよう



2 標柱を見つけて、QRコードを携帯端末で読み込むと…



3 歴史遺産の詳しい情報が見られます

楽しみ方  
その2

## 地域の方と巡る

さまざまな団体が、各地域で歴史や文化を残そうと活動しています。

事例  
紹介

姉崎地区

姉崎を知る会  
伊豆丸明子さん

姉崎には史跡がたくさんあるので、ぜひ町中で昼食を取って、1日見学に充ててほしいです!

活動のきっかけ

市民大学歴史文化リエゾンコース終了後、もっと地域の歴史を学びたいと、フィールドミュージアムの姉崎地区の案内を行う同会に入会



ガイド中の伊豆丸さん



説明を熱心に聴く参加者

### 参加した方の声

「親子で歩き、歴史を身近に感じました」(小学5年生親子)  
「姉崎神社の逸話が印象深かった」(小学2年生親子)  
「近くに歴史遺産が多くあり、驚きました」(姉崎高校生徒)

### 市内の歴史に関するイベントはこちら

他の地区の活動も盛んです。博物館ウェブサイト(右のQRコード)をご覧ください、さまざまなイベントに参加してみませんか。



◀この標柱が立っているところに歴史遺産あり



#### YW-04 八幡港跡

江戸時代以降、江戸・東京との海運拠点として五大力船等多くの船が停泊し、上総国内からの年貢米や九十九里浜の海産物等が集積する港でした。周辺は、五大力船の船主や商家、料亭等が建ち並び賑やかな界隈となっていました。港は戦後に埋め立てられました。現在は、咸瀬と横溝から成るT字型となっていました。付近には水神様として大瀬住(オオワタツミ)が祀られています。



#### YW-05 若宮八幡神社

創立年代は不詳ですが、海中に光るものを地元民がすくい上げて祀ったことに始まると伝えられます。地元では元宮様と呼ばれ、一般に飯香岡八幡宮の元の宮だったとの伝承があります。境内には『神名帳考証土代』の一部を刻んだ由来碑があります。祭神は仁徳天皇です。現在の社の扉の左右にある彫刻は、飯香岡八幡宮の祭礼で使用された五所地区の山車についていたものです。



#### YW-06 御墓堂墓地五輪塔

室町時代に造立された供養塔で、小弓公方足利義明と妻の墓石とも言われています。義明は、古河公方足利政氏の次男で、真里谷武田氏に招かれ八幡、そして小弓城に入りました。天文7年(1538)の国府台合戦で北条氏に敗れて没し、現在の八幡宿駅周辺にあった聖応寺(廃寺)に妻とともに仮埋葬されたと伝えられました。聖応寺付近にあった五輪塔は区画整理に伴い現在地に移されました。



#### YW-07 村田川渡船場跡

河口付近が上総と下総の境を流れる「境川」と呼ばれていた村田川は、かつて現在の村田川公園内を流路としていました。そこには渡船場が設けられ、明治7年に架橋されるまで、人びとは渡し船で対岸へ渡っていました。水戸黄門として知られる徳川光圀がこの地を通過した際には、船を並べて繋いだ上に板を渡した船橋をかけて渡河し、飯香岡八幡宮や姉崎の妙経寺を訪れました。



#### 見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われている場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合もあります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

#### いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原歴史博物館

〒290-0011 千葉県市原市政原1493番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和4年6月 第1版第2刷発行

# I Museum Field

## 八幡



飯香岡八幡宮の門前町として発展してきた八幡エリア。祭礼の活気あふれ、海と共に築かれた生活文化が感じられます。水陸交通の要衝だったこの地は、武将や文人たちの足跡と、商家が軒を連ねた面影を今に伝えています。

# I Museum



#### YW-01 房総往還

この道は、船橋で佐倉道と分岐し、木更津を経て釧山に至ります。市原市内では八幡・五井・姉崎に宿場が置かれて荷物や物資を輸送する人馬の權ぎ替えが行われ、歩道交代や旅の人びとの通行にも利用されました。また、往還沿いの海岸には、海上交通で江戸と房総をつなぐ渡が点在していました。濃と濃を結ぶ房総往還は、人・モノの往来に大きな役割を果たしていたのです。



#### YW-02 無量寺

白鳳年間の創建と言われる浄土宗寺院で、前身は「宝樹坊」と称していたとの伝承があります。本尊は、地元漁民が海上で大波を受けた際、海中から出現し救ったとされる阿彌陀如来です。飯香岡八幡宮の前身市原八幡宮と密接な関係にあり、近世の町場の基礎を築いた。千葉氏系の原氏の影響下にあったとされます。境内には千葉(馬加)康胤と子の墓とされる五輪塔があります。



#### YW-03 飯香岡八幡宮

白鳳年間の創建、一國総社八幡宮と称したと伝えられます。中世の史料に見える市原八幡宮は前身社で、鎌倉・室町両幕府に篤く保護されました。近世以降は、安産子育てを願う民衆にも広く信仰されました。室町時代の建造とされる国の重要文化財に指定されている本殿や、足利義満が奉納したとされる至徳元年(1384)銘の神輿、境内の夫婦御石等、多くの文化財を有しています。

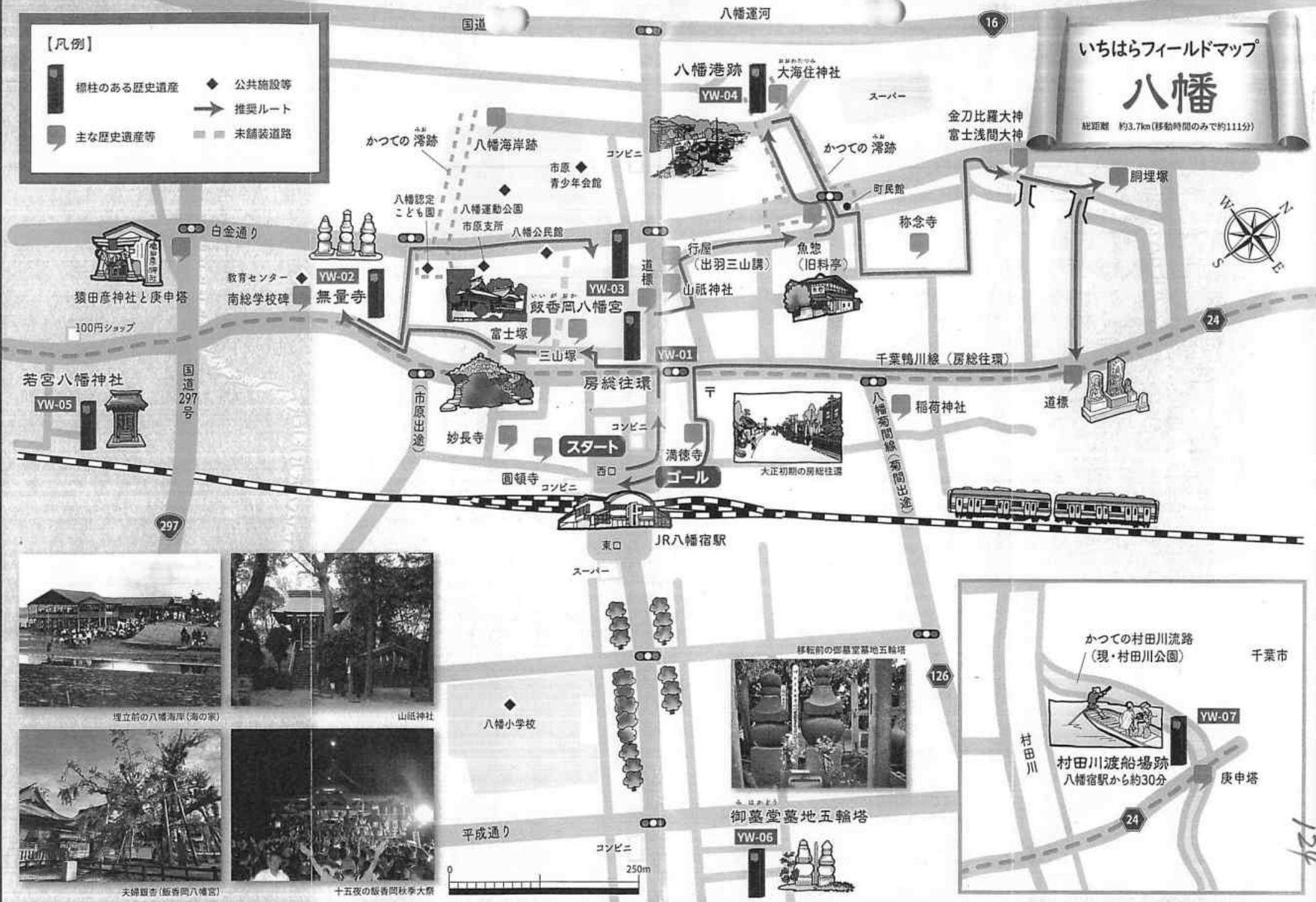
123

【凡例】

-  標柱のある歴史遺産
-  公共施設等
-  推奨ルート
-  主な歴史遺産等
-  未舗装道路

いちばらフィールドマップ  
**八幡**

総距離 約3.7km (移動時間のみで約111分)



埋立前の八幡海岸(海の家)



山祇神社



夫婦燈籠(飯倉岡八幡宮)



十五夜の飯倉岡秋季大祭



124



# おは ま あ

令和4年度  
秋の展示

令和4(2022)年

令和5(2023)年

10月22日(土) ~ 1月9日(月・祝)

開館時間 9:00 ~ 16:30(入場 16:00 まで)

休館日: 月曜日(祝日は開館)、年末年始(12月28日~1月4日)

入場料: 一般 300円(240円)、高・大生 150円(120円)

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方及び介護者1名は無料

※( )内は20名以上の団体料金

特別協力 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

後援 朝日新聞社千葉総局、産経新聞社千葉総局、東京新聞千葉支局、日本経済新聞社千葉支局、  
毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局、千葉日報社、NHK千葉放送局、千葉県ケーブル  
テレビ協議会、千葉テレビ、bayfm78(順不同)

千葉県立中央博物館

NATURAL HISTORY MUSEUM AND INSTITUTE, CHIBA

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL 043-265-3111(代表)

<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

写真: 九十九里町 真亀須賀神社祭礼

Follow @chiba\_chuohaku



海へ向かう神々の祭

# 飯香岡八幡宮秋季大祭

(はちまん様の祭り)

市原市八幡・市原ほか  
開催：旧暦8月15日前後の日曜日

飯香岡八幡宮は上総国府と関わり深い、いわゆる一国一社の八幡宮として創建されたといわれます。源氏や足利氏の崇敬が篤く、至徳元年(1384)に室町幕府3代将軍足利義満が4基の神輿を寄進したことを契機に、柳楯神事から始まる現在のような大祭が行われるようになったと伝えられます。

写真提供：芝崎浩平氏



## 柳楯のおなり

写真提供：福嶋斉氏

祭礼前日、柳楯が市原地区を出発し、五所地区を経て八幡宮へ運ばれます。市原台地に推定される上総国府との関係が指摘されています。当日の朝、八幡宮に到着した柳楯を、各町が拍手で迎えます。



## 例祭での神輿と柳楯

写真提供：芝崎浩平氏

幣殿の5基の神輿(一・二・三の宮・若宮・五の宮)に応神天皇、玉依姫命、神功皇后など五神が遷され、弓や太刀が奉じられます。さらに一の宮の神輿に柳楯が奉献され、神事が行われます。



## 町内渡し

写真提供：芝崎浩平氏

柳楯の先導で5基の神輿が町内を一巡して神社に戻ると、奉幣祭が行われて各町内に神輿が渡され、各町内ごとに神輿の渡御が行われます。おはまおりは、町内渡御のなかで行われました。



## おはまおり

写真提供：飯香岡八幡宮  
昭和10年代か



義明征夷將軍 御家繁昌子孫

孫枝棠花 松椿道鶴

高基大樹將軍 兩君如羽如翼

政令市移行30周年記念 令和4年度特別展

# 我、関東の

# 將軍にならん

## —小弓公方足利義明と戦国期の千葉氏—

臣者也 殊者伯名帝在名  
小曾祿与三郎信直武運  
長父家門富貴 衆人愛敬

以爲 龍而保生庵建清  
以爲 龍而保生庵建清  
以爲 龍而保生庵建清



入館料  
無料

開催期間 / 令和4年10月18日(火)~12月11日(日)

### 千葉市立郷土博物館

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) / 休館日 月曜(祝日の場合は翌平日)

交通案内 ○ JR 千葉駅下車 東口バスのりばのから、千葉大学病院行 または南矢作行 (千03、千03-1、千04) で「郷土博物館・千葉県文化会館」下車、徒歩3分 ○ 千葉モノレール県庁前駅下車、徒歩13分 ○ JR 本千葉駅下車、徒歩15分 ○ 京成千葉中央駅下車、徒歩20分

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-6-1 / Tel.222-8231 Fax.225-7106 / メールアドレス:kyodo.EDL@city.chiba.lg.jp

URL <https://www.city.chiba.jp/kyodo/index.html>



## 序章 知られざる関東の将軍 — 「小弓公方足利義明」とは —

足利義明(?~天文7年(1538)、幼名愛松王は、古河公方足利政氏の子。はじめは、関東の宗教界の頂点に立つ鶴岡八幡宮若宮別当「雪下殿」空然として、関東の政治・宗教の支配体制「公方—社家体制」の一翼を担っていた。

しかし、政氏と兄の足利高基による抗争「永正の乱」において、空然も自立を志して挙兵、父政氏、兄高基そして弟空然の三つ巴の争いが発生した。空然は還俗して、「義明」と名乗る。一時は高基と連携した義明だが、高基が政氏を古河(現在の茨城県古河市)から追って公方の座を確保すると、今度は政氏に味方し兄と対立する。

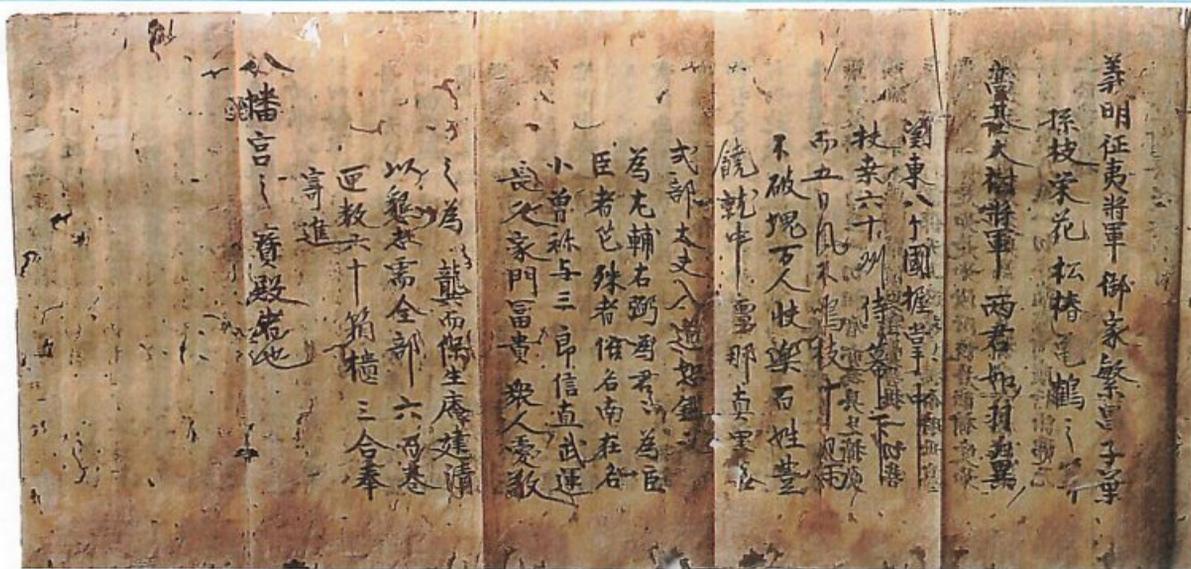
永正15年(1518)7月、房総の諸勢力を結集する旗印として、義明は真里谷武田氏により、同氏が前年に原氏から奪った小弓城に迎えられた。「小弓公方」の成立である。

小弓に御所を構えた義明は道哲と称し(以降も便宜的に義明と呼ぶ)、真里谷武田氏や安房里見氏などの諸勢力の支援の下、一時、南関東を覆う勢力圏を築き上げ、兄の古河公方高基や甥の足利晴氏と対立した。義明の目的は兄や甥を倒し、唯一の公方(関東の将軍)となることであった。そのため義明は、里見氏などの傘下の諸勢力を動員して、高基や高基側の千葉氏などと各地で戦いを繰り返した。このように義明が関東に及ぼす影響は大きく、義明の本拠となった当時の千葉は、古河と並ぶ関東の政治的中心地となったといえる。

当時の関東では、小田原を本拠とする「北条氏」が次第に台頭してきた。当初、義明と北条氏は協力関係にあったが、北条氏が義明側の勢力である扇谷上杉氏の領国を制圧し、本格的に房総に手を伸ばす情勢になると、義明と北条氏との争いは避けられなくなった。天文7年(1538)、古河公方晴氏は北条氏当主の北条氏綱に義明退治を命じた。義明と氏綱は同年10月7日、下総相模台(現在の松戸市)で激突した。有名な第1次国府台合戦である。この戦いで義明は、弟の足利基頼や長男の足利義淳たちとともに討たれ、小弓公方は事実上滅亡した。

義明は死んだが、全てが義明登場前の状況に復帰したのではなかった。義明打倒の功績により関東管領の地位を得た北条氏は、古河公方を傀儡として北関東や房総への進出を本格化させる。千葉・原氏は小弓を奪還したが、房総の支配をめぐる里見氏との抗争の中で北条氏の支援を頼った結果、北条氏への従属の道を歩むことになるなど、関東戦国史は大きな変化を見せるようになった。

このように小弓公方足利義明は、関東の戦国社会の枠組みを変える重要な存在だったのである。



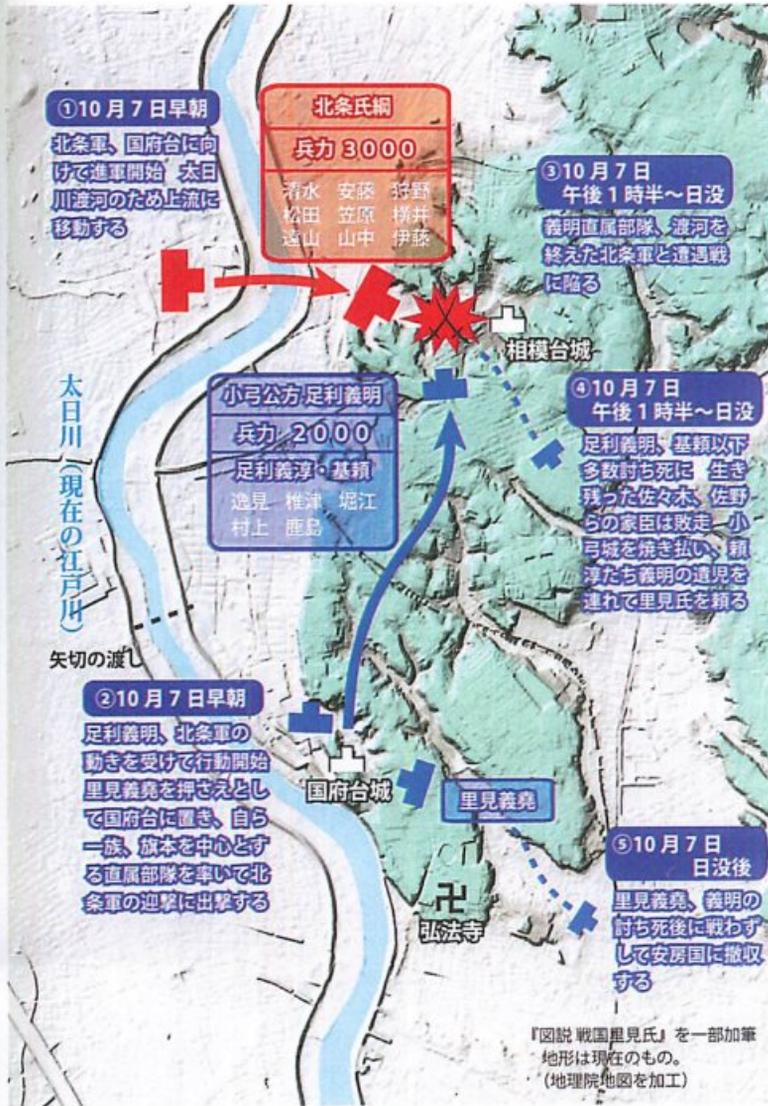
### 序-1 大般若波羅蜜多經 (飯香岡八幡宮文書)

年未詳 飯香岡八幡宮所蔵

飯香岡八幡宮は、奈良時代より国府八幡宮と定められ、源氏・千葉氏・足利氏など代々、武家の崇拝を受けてきた。詳細な年は不明ながらも、小弓公方足利義明の家臣小曾禰建清(信直)が大般若波羅蜜多經全六百卷、櫃三合を同宮に寄進した。このうち櫃一合は同社に現存する。六百巻のうち江戸時代に後補されたものも混じる。

展示資料の巻五百の奥書には、建清が「義明征夷將軍」、「高基大樹將軍」、「阿君羽翼ノ如シテ」と記し、実際は対立していた両人を両翼に例え、その繁栄を祈念している。鎌倉公方以来の根本家臣(足利氏代々の家臣団)である小曾禰氏の切実な願いであろうか。なお、義明滅亡後に小弓を回復した原氏の当主原胤清が寄進している巻も複数巻みられるが、これは胤清が後に書き込んだものと思われる。

(足利) 義明征夷將軍御家繁昌、子葉孫枝栄花、松椿龜鶴之算、高基大樹將軍、阿君如シテ羽翼ノ、開東八ヶ国握掌中、扶桑六十州侍幕下、而五日風不鳴枝、十日雨不破塊、万人快樂、百姓豊饒、就中檀那真里谷(武田信直)式部大夫入道想鑑父為左輔右弼、為君々為臣臣者也、殊者俗名南在名小曾禰与三郎信直、武運長久、家門富貴、衆人愛敬之為異而保生庵建清、以慈志需全部六百卷、匣数六十箱、櫃三合、奉寄進八幡宮之宝殿者也、



4-9 パネル  
「第1次国府台合戦戦況図」

資料は、関東戦国史における一つの画期となる「第1次国府台合戦」の戦況図である。天文7年(1538)10月7日、相模台(現在の松戸市)で足利義明率いる小弓公方軍と北条氏綱率いる北条軍が激突した。この戦いにおける義明の戦略目標は、これまで「関宿(現在の野田市)攻略」のためとされていたが、近年は「葛西(現在の東京都葛飾区)制圧」が目的との説が出されている。

この戦いに小弓公方軍は敗れ義明は討死にするが、敗因として、北条軍に比べて小弓公方軍の兵力が少ないこと、真里谷武田氏や白井氏などの支持勢力の多くが参戦せず、参戦した里見氏も天文の内乱を経て間もないことから戦意について疑問が残ること、義明は国府台(現在の市川市)に里見軍を残して自ら直属部隊を率いて出撃するという兵力分散の愚を犯したことなどが挙げられる。

この合戦の結果、小弓公方の実質的な滅亡、北条氏の房総進出の本格化など関東の情勢は大きく動くこととなった。

惣作湯

十九日葛山殿為祈願、兩寺僧徒於透廊、大般若讀  
廿四日結願  
廿八日小田原神主別當被喚、越御迂宮之談合  
公物可入算用大都有之  
十月  
二日、向下総、氏綱父子進發、是小弓上様義明、里見  
引辛越、基頼出張アリ、同六日、氏綱、江戸城出陣、同  
七日合戦、敵上様、御曹司基頼公、三大將、推津村  
上堀江、鹿島等面々競戦、氏綱先陣、志水、狩野、笠原  
遠山、伊東等、防之、急ニ攻戦、小弓衆、打負、御曹司、様  
上様、御舍弟、基頼、御討死、小田原方、安藤、備前、上様  
御手、二懸り、討死、三浦城、代横井、神助、上様、義明、奉  
討落、松田、弥次郎、御首、奉討取、遠見、山城、入道、祥仙  
為、山中、修理、亮、被誅、允、討死、百四十余人、其外、御所  
方、佐々木、源四郎、逸見、八郎、佐野、藤三、野野、十郎等  
道戰場、上様、御末子、御曹司、奉伴、則、小弓城、燒拂、房  
州、落行、早、速、里見、云々  
十日、氏綱、歸陣  
十一日、於、小田原、御合戦、無為之、御祝儀、有之

4-10 「快元僧都記」  
〔群書類従〕

大正時代 当館蔵  
資料は、第1次国府台合戦の経緯を説明する際に必ず言及される同合戦の根本資料といえるものである。合戦前の小弓公方・北条氏両軍の動き、足利義明をはじめとする小弓公方軍の首脳部の構成、両軍の諸将、合戦の経過、義明討死の状況、戦死者と戦場を離脱する義明の家臣たちなど、資料には、同時代を生きた快元による第1次国府台合戦の経緯が詳しく記されている。※資料上部の書き込みは前所有者のものである。



4-11 錦絵「北條九代記鴻之台合戦」

寛永5年 当館蔵

資料は、第1次国府台合戦を描いた絵師秋川芳虎（錦朝 桜芳虎）の錦絵（多色で刷られた精巧な木版刷）で、小弓公方足利義明を主題として描いた非常に珍しい絵画資料といえる。義明は中央に描かれた槍をかざした騎馬武者で、「生美右兵衛佐義明」と記されている。描かれた人物の中に同合戦には参加していない里見義弘がいるなど、里見氏と北条氏が激突した永禄7年（1564）の第2次国府台合戦と混同して描いている点もあるが、幕末期の人々が抱いた同合戦と義明のイメージをよく伝えている。



4-12 箱根町指定文化財 北条氏綱画像（複製）

戦国時代 当館蔵 原資料 早雲寺蔵

北条氏綱は、伊勢宗瑞（北条早雲）の子として長享元年（1487）に生まれ、永正15年（1518）に家督を譲られる。同年の小弓公方足利義明の成立に伴い、北条氏（当時は伊勢氏）は対立してきた扇谷上杉氏と和睦し、ともに小弓公方側に属することとなったが、和睦の条件が宗瑞の隠居と氏綱への家督継承であったとの説がある。

大永3年（1523）、相模国（現在の神奈川県）支配の正当性を主張するため、鎌倉幕府の執権北条氏に由来する「北条」に改姓。同4年（1524）から山内・扇谷両上杉氏領国への侵攻を本格化させ、天文6年（1537）に扇谷上杉氏の本拠河越城（現在の埼玉県川越市）を落として両氏の衰退を決定的なものとした。氏綱は、基本的に義明に従属しつつも、その反面では古河公方足利高基にも寵を通じようとするなど微妙な関係にあったが、天文年間（1556）の武田・里見両氏の天文の内乱以降、義明とは次第に対立する傾向を強めた。

天文7年（1538）、第1次国府台合戦で氏綱は義明を滅ぼした。その後、氏綱は武蔵国（現在の埼玉県・東京都など）から下総国（現在の千葉県北部）の一部にまで進出し、北条氏の勢力を拡大した。天文10年（1541）に没した。

4-13 パネル  
「葛西城方面からみた国府台城」

国府台城（現在の市川市）は江戸川（旧太田川）の東岸、標高25m程の南北に長い台地上に位置している。本城は文明年間（1469～1487）に太田道灌、または弟の太田資忠によって取立てられたのが始まりとされる。近世には廃城となり、明治以降は軍用地として使用されたことで、遺構はほとんど残っていない。当時、直線で約4kmの距離にある葛西城（現在の東京都葛飾区）と国府台とは互いに見通せたものと思われる。第1次国府台合戦では、国府台城に拠っていた里見氏の軍勢は、相模台（現在の松戸市）での小弓公方軍と北条軍の戦闘には参戦せず、小弓公方軍の敗勢を知り、ほぼ無傷で撤退したとされる。



4-14 パネル「相模台戦跡碑（経世塚）」

第1次国府台合戦の戦死者を弔ったという塚。現在は、聖徳大学構内に移転されているが、もとは相模台（現在の松戸市）の別の地にあったとされる。二基の塚の上に、板碑の断片などが祀られている。一次史料がなく、合戦の経緯は不明であるが、「本土寺過去帳」などによる近年の研究により、太田川（現在の江戸川）を渡り切った北条軍と、国府台方面から移動してきた小弓公方軍とが相模台の地で遭遇戦となり、兵力に勝る北条軍が勝利したと考えられている。



4-15 色々威腹巻（複製）

当館蔵

南北朝時代になると、弓射騎兵による一騎打ちから歩兵による槍などのリーチの長い武器を使用した集団戦へと戦法が変化した。そのため、甲冑も騎射に適した大鎧から、徒歩戦を目的に開発され、鎌倉時代までは歩兵が着用していた軽便な腹巻・胴丸が主流となった。腹巻は当初胴体を守るだけであったが、後に兜と袖を加えて重裝化（三物完備）し、室町時代になると、將軍や大名等の上級武士達も大鎧でなく、腹巻を使用するようになる。

資料は、戦国時代初期の大名クラス武士が着用した腹巻で、複数の色の組糸で編み上げられていることから、「色々威腹巻」と呼ばれる。







企画展

# 房総教育志

—明治を生きた先生たち—

開催期間

令和4年10月11日(火)～令和5年2月25日(土)

会場：千葉県文書館1階展示室

文書が現在を過去を未来を語ります

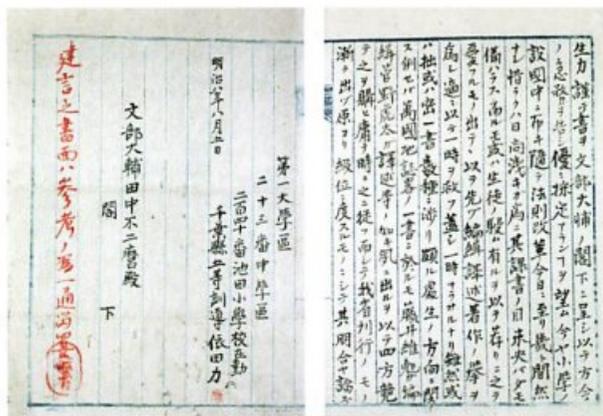
## 千葉県文書館

TEL : 043-227-7552

[https://twitter.com/chiba\\_pref\\_bun](https://twitter.com/chiba_pref_bun)

### 1. 若き推進力 - 依田力 -

依田力は明治7年(1874)から第二十三番中学区内二百四十番池田小学校(現芝山町)の訓導(教員)であった人物です。学区取締であった池田栄亮は彼を「能ク勉強ニシテ教授法ニ熟シ顔ル人望アリ」と高く評価しています。当時25歳であった依田は、55名の第二十三番中学区内の小学校教員(最年少21歳から最高齢66歳まで)のなかでは若手であり、また同区内の他の教員のほとんどが授業生(訓導より下の等級の教員)であったのに対して訓導(採用時は授業生)として用いられています。彼は千葉師範学校での講習をもとに授業の進め方が細かく記された「下等小学教授式私誌」を作成して近隣の小学校に配布したり、時の文部大輔(次官)田中不二磨に教科書の統一に関する建白書を提出したりと、精力的に活動しました。その後、依田は学区取締に任命され、同区内の教育行政の発展に尽力することになります。



建白書(教員養成・教科書統一に付)(明治8年)  
《おとづれ文庫文書ノ49》

当時の教科書が一定せず、編者によって内容に差があり不都合であるため、全国の小学校の教科書と教育器材を統一し、全ての小学校に備えるようにしてほしい旨、願ひ出しています。

### 2. 教員一家 - 岡田寅三郎・茂生・俊 -

岡田寅三郎(一時、養子縁組し安藤寅三郎)は旧菊間藩士の家に生まれました。明治9年(1876)に千葉師範学校を卒業すると、その後御宿の浜小学校、勝浦の江沢小学校、市原の菊間小学校で訓導を務め、明治14年から明治25年までの間、市原郡教育会の幹事も務めています。寅三郎の長男茂生もまた明治35年に師範学校に入学し、その後小学校の教員となりました。そして茂生の妻(旧姓富井)俊も千葉県女子師範学校を卒業し、千葉県師範学校訓導や県内の高等小学校訓導を務め、後に農繁期託児所を開設しています。明治の初期から変革期を教員として生きた寅三郎、学校制度がほぼ定まって大正へ向かう時代に教員となった茂生、明治末から徐々に増えてくる女性教員であった俊と、岡田家には明治の各々異なる教員の姿を見ることができます。

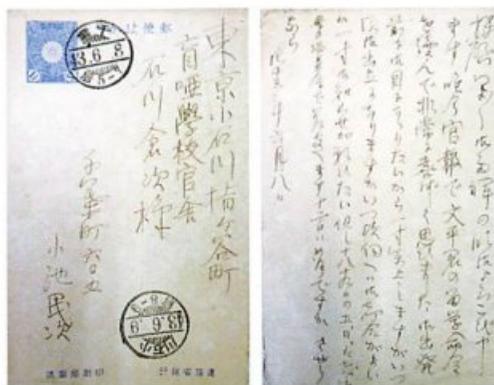


(集合写真 千葉師範学校教師喜多高剛・江澤校教員岡田寅三郎等8名)(明治時代)《瀧本家文書イ43》

向かって前列左端に座っている人物が岡田寅三郎と思われる。各学校の教員が並んで写っていますが、士族、平民、僧族とその出自もさまざまです。後列左端に写っている喜多高剛は旧菊間藩士であり、教員としてのつながりだけでなく、旧菊間藩士としてのつながりもうかがえます。

### 3. 女子教育を担って - 小池民次 -

小池民次は、千葉師範学校や千葉県高等女学校教諭、県立東金高等女学校の初代校長、県立千葉高等女学校校長を歴任しました。また、大正に入って私立一宮女学校を開校するなど、千葉県の女子教育に大きく貢献しました。明治16年(1883)には小学校用の教科書『初学読本』第一冊~第三冊を編さんして千葉教育会から出版したほか、明治33年には同志とともに千葉町に子守教育を創設するなど、千葉県の教育会に大きな足跡を残しており、明治34年6月の千葉教育会総集会で第1回の教育功労者として表彰された3名の内の一人です。また、日本訓盲点字を完成させ我が国の盲教育に大きな業績を残した「日本点字の父」石川倉次との親交も深く、彼の結婚に当たっては仲人を務めたりもしています。



(文平君留学出発の件に付葉書)(明治43年)  
《千葉県総合教育センター文書(石川家文書)仮タ293》

石川倉次の長男文平の留学に際して、石川倉次宛に小池民次が送った葉書です。留学前に文平に一度会っておきたいので、都合を確認しています。小池と石川倉次の親交が垣間見える資料です。

私とあなたの真ん中に

# ちいき新聞

@chiikishinbun @chiikinews\_editor https://www.facebook.com/chilikishinbun/

2022年6月17日号

市原版

VOL.1007 発行部数60,562部  
総発行部数2,019,232部 全45版  
毎週水・木・金曜日配布  
購読料無料 / ポスティング

ちいき新聞へのお問い合わせは ☎0120-152-337 ※音声ガイドスに従ってご用件をお話してください 受付/平日10:00~18:00 ※土日祝日は休み ✉ ichihara-kita@chiikinews.co.jp

金・プラチナ 買取販売 質 質預かりも お気軽に!

50年の信頼と実績

**タカハシ**

☎0436-41-3098 タカハシ商会 検索

市原市山木1147-4 営業時間 AM8:00~PM7:00 毎月8・17・18・28日定休



塩釜の神様を祭る 磯辺神社 (ジョイフル本田横)



茂みから先が塩田、手前が釜場跡(五所県営住宅裏水辺広場)

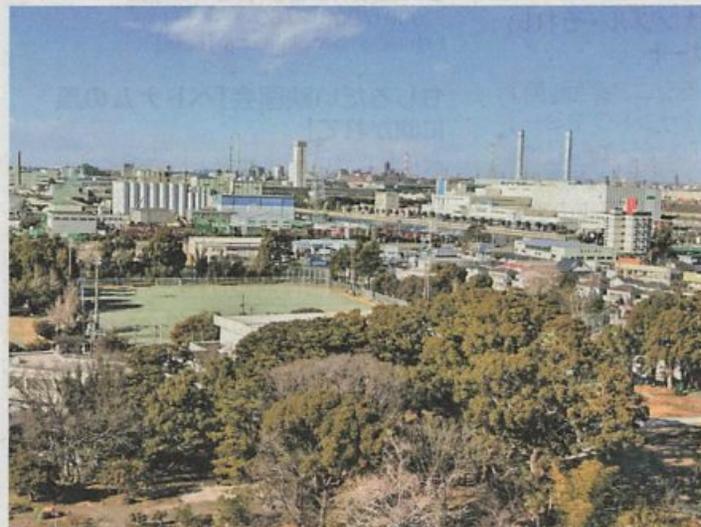
塩田作りに適していた市原の海岸

市原は温暖な気候と遠浅の砂浜であったため、17世紀半ばごろから五井海岸付近では塩作りが行われていた。1782(天明2)年、意次の意を受けた江戸金杉村庄左衛門と坂本村又兵衛が、八幡村から君塚村までのおよそ26万坪の塩田開発の許可を得る。

工事は天明4年から6年の3年間行われ、費用はおよそ今の貨幣価値で5、6億円かかったとされている。

金杉浜塩田の製塩方法は、遠浅の海を堤防で仕切り、何力所か

に水門を設け、満ち潮になるとその門から塩田に海水を入れる。海水は天日と風で水分が蒸発して濃い塩水となり、砂には塩の結晶が生まれる。その砂と塩水を桶に入れると塩分の濃いかん水が



塩田跡。今は工場が立ち並ぶ

かの有名な江戸幕府の老中・田沼意次が幕府の財政再建のための経済施策の一つとして命じた塩田開発工事。市原でも巨大な塩田が開発された。

## 「金杉浜塩田跡」

かつて八幡・五井海岸にあった巨大な塩田

得られる。それを土釜に移し、さらに煮詰め塩を作った。

富を生んだ塩田は現在が工場地帯に

開発当初、巨大な利益を生んだ金杉浜塩田。しかし、わずか4年後に大風雨(台風)により壊滅的な打撃を受け、その60%が海に戻ってしまった。その後復旧工事が行われることはなく、細々と昭和戦前まで塩田は続けられたという。

金杉塩田は五井金杉から飯香岡八幡宮周辺を除く村田川まで、中心地は今の市原ふ頭付近に当たる。1958(昭和33)年から始まった埋め立て工事、市原の海岸線は4キロほども遠くなり、工場地帯となった。現在は、海岸帯に塩田が連なっていたのを想像することは難しいが、「金杉川」「五井金杉」の地名がその名残を残す。

開発者「庄左衛門」の墓は今も五所の共同墓地にあり、製塩業に携わった人々の子孫も市内に在住している。

この塩田をはじめ、市原の貴重な歴史を後世に語り継いでいきたいものだ。(ボノ)

取材協力/八幡史学館 講師・山岸弘明氏「金杉浜塩田資料集 成(高澤恒子、山岸弘明)

### 8周年キャンペーン

季節 佐久 ちい

が、 たほ 菌 病 菌 化 し どに れる 気圧 風) 撃を受け、その60%が 海に戻ってしまった。 その後復旧工事が行 われることはなく、 細々と昭和戦前まで 塩田は続けられたとい う。

八幡宿の郷土史研究に情熱

**この人** 「いまよみがえる むかし八幡町」作成

山岸弘明さん(市原市在住)

歴史好きが高じて  
ライフワークに

山岸さんが郷土史に興味を持つようになったのは、勤め先の有楽町が江戸城の一部だったことを知り、社内報に連載、自費出版したことがきっかけ。

定年退職後は市原市八幡に移り住みま



著書を前に(山岸弘明さん近影)

した。かつては木更津と並ぶ上総最大の「湊町」として発展した「歴史の町」だった八幡が、戦後の海岸埋め立てにより海との関わりを失ったことを知り、八幡郷土史の研究を始めることに。

2006年からは八幡公民館に勤務し、念願の郷土史講座「八幡史学館」を開講。講座では、古文書チームと「郷土史チーム」が作られ、連携プレイで

旧家から借用した貴重な史料を解読し、史料集にしてまとめた。講座で発表したりしました。この活動は、18年、八幡公民館の文部科学大臣賞受賞に大きく貢献したと言えます。

これから八幡の歴史文化を伝える

山岸さんは今年6月に講座「八幡史学館」の18周年記念企画として、八幡の旧家が所有していた16ミリ映画を編集し、いまよみがえる むかし八幡町」を作成、希望者や地元小学校などに寄贈し、喜ばれたそうです。(現在YouTube

で公開)

今年3月に公民館を退職し、現在は「市原の古文書研究」(全8集)、「八幡の石造物研究」、「八幡公民館70年史」など八幡史学館が制作した史料の電子化に取り組む山岸さん。

「かつて豊かな海に臨み、五大力船が行き交う商業都市だった八幡の町、その素晴らしい歴史文化を新しい世代にも伝えていきたいです」と語る84歳、八幡への情熱はまだまだ燃えています。(ポノ)

「いまよみがえる むかし八幡町」



い替えの目安!



東京ガス簡易内管登録店

川・柏・習志野・茂原

新道 市原 袖ヶ浦

初支店] ちはら台西1-10-1

見積り一切無料です。

ください!

オリジナル

500円

デザインは



5:59まで

アンケートは  
コチラ!



PRICE LIST

CUT

クーカット(一般) 4,290円  
カット 3,630円  
カット 3,080円

PERM

インバーマ 3,740円  
アイロン 3,300円  
アイバー 3,300円

オプションメニュー

カラー 2,200円  
パーマ 2,200円  
ルブケア 1,650円  
カシ 1,650円

※全て税込表示となっています。  
ののみはシャンプー・ブロー代  
円がかかります  
オプションメニューのみはシャンプー  
代1,650円がかかります

スーパーキッズ  
大募集!

唯一無二の個性が光る

2023年3月3日号ちいき新聞では「スーパーキッズ」をご紹介します! あなたの周りに突出した趣味や特技を

応募締め切り

1月27日(土)まで